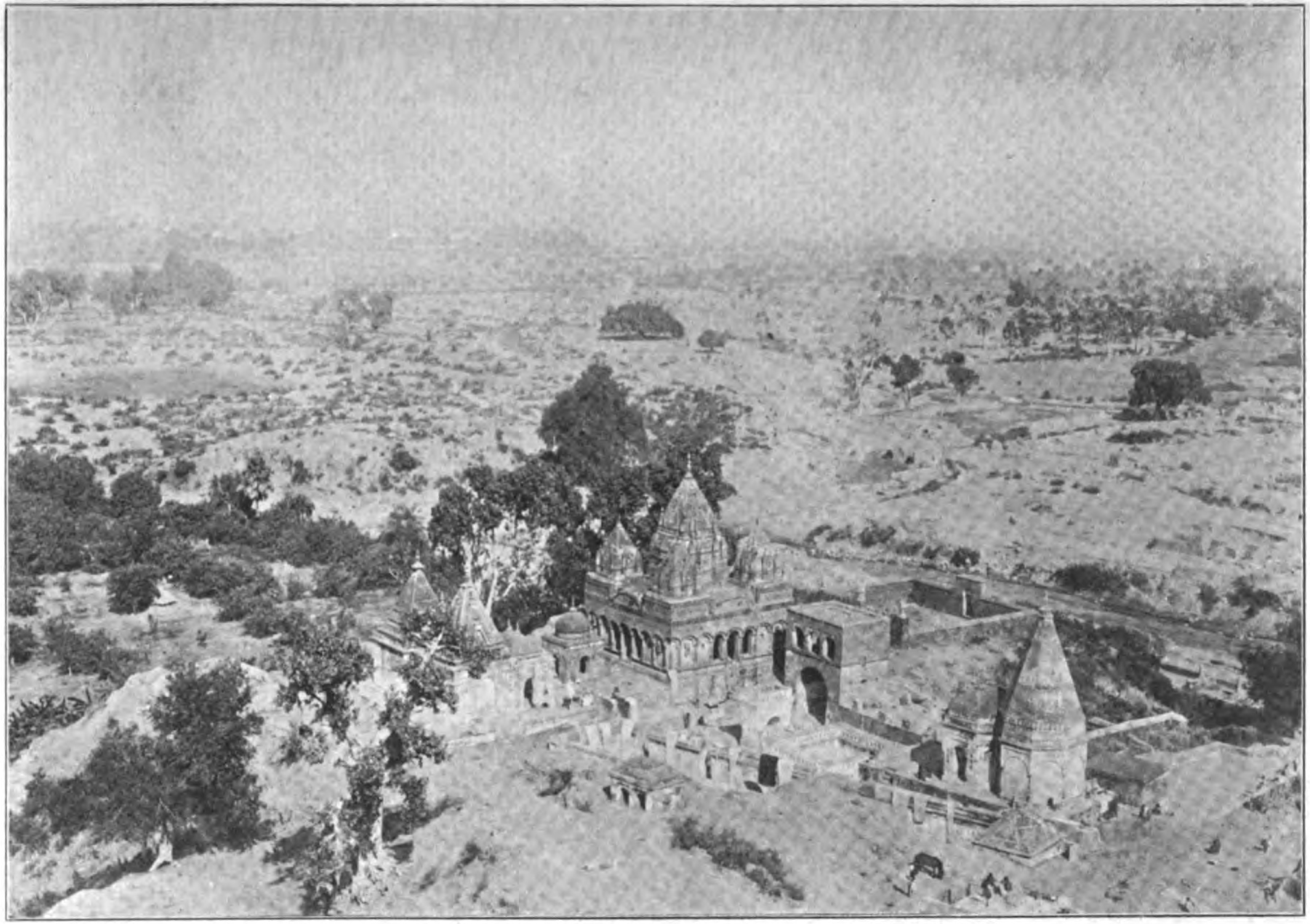
# 中央公論

本號目次



印度王舍城新及び溫泉寺全景

（大谷光瑞師一行撮影）

M. 173

中央公論

第十八年
第七號



# 國民の都府病

中央集權の弊を矯めんと欲し、地方自治制を發布したりしにもかゝはらず、獨り人物に於ては依然として中央に吸收さるゝを如何にせんや。

今日地方に於て一廉の人物と云はるゝ學者、政治家、實業家の徒、苟も一事を起こし一業を企てんとするものにして悉く皆中央に向て走らざるものあらず。活動世界に何等の關渉なき地方中學生徒すら、彼等の郷里には已にその十分の設備あるにもかゝはらず、強て高價の學資を擲て中央都府に學ばんとする也。

是の如く地方にて人物といふ人物は爭ふて中央に向ふが故に、地方は全く空虛となり、人物の腦貧血を發して、學問に於ても、智力に於ても、又金力に於ても、地方は增疲弊し去らんとす。

薩長二藩は維新已來最も多數の功臣及びその已下の人物を出したる處なり。而して今日是等の地方に於ては、人物らしき人物は殆んど一人も見當らずと云ふ。要するに人物を中央に供給すればするほど其の地方は愈人物拂底の地方とならざる可らず。

爾らば是の如く中央に雲集霞鬱し來りたる人物なるの、抑も如何なる可きか。素より人物の塡溢壅塞を來たし、所謂はけ口あしく、相當の學問識力を有しながら、立身出世は勿論、一身を糊するにすら之れ窮せんとするもの多し。而して事情是の如きものあるにも拘はらず、彼等の多數は成丈け地方に赴かざらんとし、地方にて百圓の月俸を得るものも、東京に在て寧ろ五十圓の給料に甘んじ、地方にて五十圓の俸給を得るも

のも寧ろ東京の二三十圓を撰ばんとするの風ある。都府病も亦た輕からずと云ふべし。

夫れ地方の生活や素より面白からざるべし、以て交遊の大にすべきものなく、以て見聞の博ふすべきものなし、美酒なし、嘉肴なし、溫柔優美なる四面の風氣の肉慾を恣にすべきものあるなし。而れども其の之れなきもの實に地方の都會的腐敗墮落の點塵を絶する所以にして、地方が地方として大に誇るべき所以の一たらざる能はず。さなきだに吾國の文明は日に月に長足の進歩を爲すあるが如きも、畢竟するに都府都人の文明のみ。地方人の多數は無智無學、率ね文明の何たるを知らざるものなり。其の之を誘導策進し、靑山綠水の間に文明的活動を經始するは、學問識見ある地方出身の人物者の責任たるのみならず、又人物其人等より見るも、都門の濁浪に喩喁し、空しく職を得ざるを嘆ずるに比し、勝ること幾干ぞや。吾人は地方大地主の類、大富豪の輩、若しくは名望家の徒が、徒らに都門に流連し、轉、歸るを忘れんとするもの多きを見る毎に、慨然として吾國地方の今後を想はずんばあらざるなり。殊に彼の地方靑年者が高等の學校を卒業し、滿腹の學問智識を藏し、家に歸て父祖の遺業を繼承し、地方の爲め大々光彩を發することを欲せずして、却て碌々たる都府の小役人小會社員たらんとするものあるを見ては、殆んど其の意を解するに苦しまざる能はざるなり。

想ふに今日の要は地方都會人物の配劑宜しきを得せしむるに在り。地方をして人物の腦貧血に依て倒れざらしむるに在り。成る丈け多くの學力、智力、金力を地方に止留して、中央都府と釣合を保たしめざる可らず。

吾人は彼の佛人ヅ、モラン氏が

英國に於ては假令、一揆起り、革命生じ、議會解散し、政府顚覆するも只上層の一部更代するのみ、町村到る處に紳士あり、貴族あり、公衆の休戚を以て休戚となす、彼等は實に英國社會の代表者にして且つ先導者なり

と云ふを誦して、未だ嘗て英國國民が强大堅實なる所

以を羨やまずんばあらず。知らず吾國民たるもの果して英國民たる能はざるか吾地方をして果して英國的地方たらしめ能はざるか吾人は大に讀者と共に研究せんと欲するなり。（九頭龍）

# 敬虔日

敬虔日、語を換へて言へば禮拜の日なり、懺悔の日なり、瞑想の日なり、訓誨の日なり、暫らく浮世の塵念を離れて靈界の修養に專らなるの日なり。而して現在の我國民は全く此日を缺く。

日曜日は基督教國民の敬虔日なり。徒らに形式と嗤ふ勿れ、虚儀と斥くるを止めよ。基督教國民が此日有るが爲め、其の家庭の平和を保ち、其肉慾の奔逸を制し、其向上の精神を養ひ得ることは否む能はざるの大事實なり。

歐洲の日曜日、其中商人の戸を鎖す者尠く、酒屋の特に繁昌する伊太利西班牙等の羅馬教地と雖、其午前は其家庭に禱り、其教會に詣で、國民一般に敬虔日たるを失はず。若し夫れ宇内第一の敬虔國民たる英國民の如きに至ては、日曜の市內、ロンドン中心の熱鬧地すら水を打ちたるが如く寂かに、汽車も郵便も交通機關すら往復回數を減ずるなり。唯曉來聞ゆるものは教會の鐘と、ヲルガンと、讃美歌の響きのみ。天涯遠征の軍隊も、太洋航海の船舶も、日曜日には禮拜祈禱を行はざるは無し。社會の制裁此の如きを以て、一點の宗教氣無き、極端なる無神論者も猶且つ一週一度神前に跪くの止む無きなり。我國民は果して此種の制裁ある一定の敬虔日を有せるや否や。

我國の日曜日はお祭り又は紀念日と共に、娛樂の日なり、否寧ろ罪惡の日なり。紳士が家庭を打ち壞はすの日なり。細民が喧嘩を賣買するの日なり、待合に入るの日なり、遊廓に入るの日なり、借金日なり、賭博日なり、警察事故の最多き日なり。

六日の勤勉一日の休養、適當の娛樂に心身を休養する素より不可なし。只其日に敬虔の分子全く缺けて、娛樂のみの日となすは不可なり。娛樂の日たる猶不可無

しとせん、これを以て罪惡公行の日となすが如き以ての外の事なりと云ふべし。罪惡に向ふの遠心力のみ有て、良心に還へるの求心力全く缺けたる我が社會が、其軌道を脱して滔々病的國民となれる豈怪むをを要せんや。

此敬虔日、國民品性の陶冶に就て是非無かるべからざるものなり。而して此日たる家に依り地方に依り宗教に依り、區々別々に之を定め之を行はんとするは不可なり。一般社會の制裁力を作らんとするには是非とも同一の時日を以てせざるべからず。精進と云ひ潔齋と云ひ、年忌と云ひ法事と云ひ、先祖のお祭りと云ひ五節句の儀式と云ふ。かゝる舊日本の舊儀は只一部分に保存せらるゝに過ぎずして、到底之を再興し一般國民の敬虔日となす能はざるなり。

玆に於てか吾人は云ふ、日曜日の午前を以て我國民全般の敬虔日とせよと。敢て家を鎖ざし交通機關までも減ずるの極端に至るの必要なし、只宗教を信ずる者は勿論、宗教無き者と雖、其日を以て教訓の日となし、修養の日となし、反省の日となし、以て淨き半日を送れ。宗教家は、佛教も神道も悉く其日を以て、説教禮拜の日とせよ。云ふ者あらん、日曜日は基督教の紀念日なり、他教徒又は無宗教家の之に倣ふは不可なりと。或は然らん、然れども已に日曜は休日として一般に我國民に普及し、世界共通の休み日たらんとする今日の有樣なり。一般國民共通の敬虔日として好都合なる此日を措て他にこれ無しとせば、かゝる枝末の感情に拘泥すべきに非るなり。

敬虔日の制定、世の心有る政治家教育家宗教家乞ふ此提議に一考を拂へ。

（百聲鵬）

## 貧乏なる議員

堂々たる帝國の代議士に變節無操の醜漢を出し、一國首府の市區を代表して名譽の職に在るものにして往々にして忌はしき收賄者を生ず、一國の面目を傷ぶり、國民の品位氣格を毀損するもの大ならずと云ふ可らず。

蓋し是れ國民が公權なるもの丶如何に重んずべきか、選擧なるもの丶如何に輕々視すべからざるかを想はざるの致すところ、是を以て吾國民は遂に立憲國民の資格なしと斷ぜらる丶も亦之を拒むの辭なからんとするなり。

今日議員の大多數は貧乏人なり、代議士の如きは二千圓の歳費を受く、宜しく中等巳上の生計を立て得べし、而も彼等は率ね負債山積、中には五圓十圓のはした金にすら差支ふるものあり、是の如きものにして時に大問題に逢着して買收されざらんと欲するも不世出の人傑に非ずば蓋し能はざるところなるべし。

抑も今日に於て代議士たらんとせば、率ね万餘の大金を擲たずんば殆ど能はざることとなれり、故に多數の資産を有するものも、之が爲に一蕩して餘さゞるもの多し。畢竟選擧區民の腐敗墮落、賄賂を貪るの然らしむる處にして、是の如き貧乏代議士、ゴロツキ政治家を擔ぎ上げざるを得ざるは素より因果應報と明らめざる可らずと云へども、抑も又一國憲政の前途の爲め決して輕視すべきの事となさざるなり。

市會議員區會議員の如きは宜しく市區に最も重大の利害を有するものを擧げて、之に任ずべきなり。而るに今日市區を代表して最も適當なるべき富豪紳商の徒は成る丈け逃避して是等の名譽職に就くを欲せず、却て市會議員で候ふ、區會議員で候ふとあらはれ出てたる議員其人を見れば、あまり名もなき辯護士とか政治の外に業務なき壯士あがりの徒すら往々にして混ぜらるるを見る也。

貧富は必ずしも人物の標準たらず、否、富豪率ね鈍才淺識、別して今日に滔々たる世の所謂富豪の如き理想もなく道念もなき守錢奴の類を以て充滿する社會に於て、人物らしき人物を發見せんとするは素より一大難事なるべし。而れども恒產あるものは恒心あり、一國民を代表し、一市區民を代表するもの丶如きセメては可なりの資產に據して、自家の獨立位は出來らる丶人物にてありたきものなり。百圓二百圓の目腐れ金の爲に堂々たる名譽職を賣りて市會議事堂よりして直に牢

獄に送らるゝものあるが如き、その人物と人物たらざるとに論なく、吾人は唯、市民撰擧の無責任を悲しまざる可らず。

今や人心稍々憲政を重んせざらんとす。議會に在ては代議士を買收すべく、市區會に在ては市區會議員を買收すべく、如何なる難問題も黄白の力能く左右し得ざるものあらずとなさんとす。誰か又た吾國憲政の爲に一大慟哭を發せざるものある。天下經世に意あるもの深沈三度び意を致すべきもの實に是の如き問題に在りと云ふべし。（千山）

## 名著の飜譯

各國古今の名著にして歐米諸國何處の語にも飜譯されざるものなし。縱令へばプルタークにても、ホーマーにても、ダンテーにても、率ね英譯され、佛譯され、獨譯され居るを見るべし。是の如き世界有數の名著に非ざるも、多少評判を博し得たるものは亦皆種々に反譯さるゝが如し。故に吾人は獨文を知らざれども英語の力に依て能くゲーテーを讀み、シルレルを讀み、露文を知らざれどもトルストイ、ゴルキーに接し、佛文の智識甚だ不完全なれどもユーゴ、ゾラの小説に相近くを得るなり。

顧るに吾國に在ては外國の文字を講讀する玆に四五十年の久しきに及べども、未だ曾て是等名著の完全に飜譯されたるを見ず、若し外國語を知らざるものにして、是等の大文學に接せんと欲せば抑も如何にすべきか。

吾國の新文明は殆んど洋書の賜と云ふべし。古來の先輩諸先生が鋭意洋書洋文を研究し、次第に其の智識を國民に注入し、遂に今日の發達を見るに至りしなり。故に政治、法律、理化、博物、醫學の如き直接文明的有要の學術に於ては飜譯もあり、新著もあり、殆んど遺憾なき迄に發達し居れども、一度び文學、詩歌、美術、宗教の如き歐米人種の高尚なる趣味氣韵を紹介するに至りては甚だ不親切なりと云はざる可らず。セークスピヤは吾國の英文學者に於ても最も尊重せられ、且つ慣熟さるゝ處なり。而も一二篇を飜案したる

ものはあれども其の全部に至ては其の梗概すら之を譯出したるものあらず。アラビヤンナイトの如きは歐米兒童のお伽ばなしとして最も通俗のものなり、コレすら未だ完全に吾國民に紹介されざるかと覺ゆ。その他は多言せずして知るべきのみ。

吾人は前々月の紙上に於て「讀書嫌ひの國民」と題して吾國中流已上の士人に警告するところありたり。爾れども退て考ふるに實は吾國は彼等を滿足すべき書籍を有せざるなり、彼等が日夕愛讀してその思想を涵潤し、その道念を養進し、時に快樂の友とし、時に警策の資に供すべき程の書籍を有せざるなり。素より古より漢和の書籍之れなきに非ずと云へども、今や時勢一變、文明の新氣運に遭遇したる血氣の人物は到底是の如き舊思想の舊典籍に對して何等の趣味を感ずべきの筈あらざるなり。さりとて彼等は英和字典を引出し、一字一譯、西洋文學を研究する程の篤者にもあらず、滔々として讀書嫌ひ學問嫌ひとなりて畢らざるもの尠し。

されば吾國文學界今日の要求は、徒らに千篇一律の三文文學、淫靡柔弱の駄小説を出し、人をして厭嫌の情に堪へざらしめんよりは先づ西洋古今の名著を譯出し、トニカク吾國の讀者をして西洋大文學の氣韵趣味に觸接せしむるに在り。吾人は世の文學者諸氏に訴へ一日も早く此種翻譯書の簇々として新刊書籍店頭に上らんことを祈らざる能はず。

（万水）

## 天人論を讀む

泛々たる射利的無主義の著述のみ出づる現代に於て、超然自己の主義確信を道破し、近來思想界の問題となれる二個の著述あり。一を中江氏の正續一年有半とし、一を黒岩氏の天人論となす。

前者は病中の作と云ひ、且つ死滅主義なるが故に、其眞理非眞理は暫く措て、先づ社會の時代精神に合はず、從つて多數の『中江ニズム』の崇拜者を出すこと能はざりき。之に反して後者は所謂進化活動主義にして、殆んど時代思想の一分の代表とも云ふべきものなるが

故に、之を愛讀し、之を賛成し歸仰するもの、頗る多きが如し。

吾人は著者よりの惠贈を忝ふして天人論を一讀再讀せり、其の多說多義を總合統一して、汎神的向上主義の宇宙倫理觀を搆成せる所、如何にも美術的進取的にして、一讀の際は大體に於て大に賛成の意を表せざるを得ざりき。然れども之を再讀するに及んで種々の疑問續出し、頗る先きの賛成の意を減少するものあるを覺えたり。是れ或は吾人が著者の眞意を誤解せるに出づるならん、請ふ左に其疑問の要點を掲げん。

一、著者の意によれば、汎神的一元とは云へ、物質は、分子の分々子、元素の元々素より成ると言へば、其質に於ては一元なるも、其量に於ては多元なるべし。既に多元なれば其一々の小自觀たる本體も亦た多元なるべし。是れ所謂生命一體の一元的宇宙心靈說と衝突せるには非ざる乎。

二、若し宇宙的心靈は、元子的個々心靈の集合に非ずして、別に宇宙全體に對する組織的大心靈なりと言はゞ、是れ始めより二種の心靈を別立する者にして、共に宇宙進化の原動力と謂はざるを得ず。是れ心的一元論の破綻には非ざる乎。

三、著者の言が如く、宇宙即ち心靈にして、宇宙全體が有機組織をなすものとすれば、是れ宇宙を以て一個體と見做したるものなり。既に一個體とすれば、是れ有限相對的にして、宇宙と云ふ本來の觀念に背くに非ずや。

四、著者言く、生命の實體たる靈魂は、力を作る力なり、力の上の力なりと。又云く、此心靈や原因の結果に非ず、結果の原因なりと。然るに向上主義によれば、物力進化して生活力となり、生活力進化して心力となると言ふに非ずや。然れば心靈も亦た原因の結果にして、力を作る力、力の上の力とは稱す可らざるに非ずや、

五、自然陶汰を以て勸善懲惡とし、宇宙が万物に下す道德的裁判と言へること、頗る承認し難し。現に彼の動物界を見よ、所謂弱肉強食にて、他を犧牲とし

自愛心の強き者が生存し、他の犧牲となる者が敗滅するに非ずや。人間界も大體に於て斯の如きのみ。若し著者の論法を以てすれば、印度は英國の犧牲となりて進化し、支那は露國の犧牲となりて進化すと謂はざる可らざるに至らん。去れば説明的進化法が規範的道德法となるは、誠に望ましき事なれども、實際の現象は之に反するものあるを如何にせん。

六、著者の靈魂不滅に對する意見は、畢竟するに中江氏と同く滅論に歸すと謂はざるを得ず。何となれば、假令ひ著者の言が如く、或は子孫の心靈となり、或は感化力となり、或は又宇宙大心靈に歸して永存するも、是れ既に個人の靈魂に非ず、故に個人の上より云へば、靈魂は滅すと言ふの説に同じ。

七、本書の全軆を概觀するに、汎神を根底とし、進化を主義となせり。佛教の宗躰の語を借りて之を言ひ顯はせば、汎神爲躰、進化爲宗と稱するを得べし。然るに著者の所謂汎神的宇宙大心靈は、力の上の力、神の上の神にして、進化向上の原動力たると同時に、亦た其歸向目的たり。去れば人靈進化の極點は、宜て其分離し來りたる靈妙の宇宙的大心靈に歸入するにあり。換言すれば、進化の到着點は、即ち其出立點なり。是れ豈に向上主義變じて、却つて向下主義となれるに非ずや、而して是れ畢竟物力の外に、力巳上の不思議なる神力を立て、當初より一元論に破綻を生ぜるに由ると謂はざる可らず。著者の眞意果して如何ん。

巳上は吾人が本書に對するの疑點なり。定めて吾人の誤解に出づるならん。若し著者の眞意此に非ずとすれば、吾人は再び本の贊成に返へるに吝ならず。敢て著者一言の説明を希ふ。

（芳村昌南）

# 風俗時弊談

伯爵　板垣退助

左は同伯が社會改良に關する熱心なる談話を速記同志會員の記したるものなり。曾て本誌に掲げたる同伯の風俗改良談と間々重復の點無きに非るも、更に詳しく之を述べられしものにて、言々時

弊に的中し、能く一國大勢の趨向を指摘す。即ち以下數號に渡りて連載し、之を讀者に紹介せんと欲す。見出し題目は讀むに便ならしめんが爲めに記者が私に附記したるもの、偏へに伯の高恕を仰ぐ。

記　者

## 一　風俗の外交に及ぼす影響

風俗改良といふことは實に日本帝國目下の一大要務であるといふことを切に思ふのでございますが、其譯といふものは、御承知の如く一國の境遇、又個人の境遇として今日の時勢が一變を致した譯からである、則ち鎖國退守の國是より致して開國進取の國是となつたからであります、又内は以て專制封建の政治よりして立憲治下の民となつて、命令服從の民より致して自治の民となつた、斯く境遇が一變した以上、固より此風俗といふことを改良を致さぬければならぬといふは、殆ど諸君も御異存のない所であらう、國の境遇と致しましては、我政府に於きましても、開國進取の國是に從て、既に遠き歐羅巴とも親密なる交際を開くやうになつて居る、又隣邦支那などは交りのある國となつて居りながら、是までは疎遠になつて居つたものが、今日は親密な交りとなつて、從て人民は經濟も共通に致し、又貿易も盛に、以て外人と親密な交りもせぬければならぬといふの境遇となつたのでございます、それで敎育家、宗敎家などになりましても、其針路に皆人を養はなければならぬ、私などが維新以來今日まで盡しましたは、專制政治を變じて立憲政躰に致し、人民に參政の權を與へやうといふやうなこと、所謂權利問題を以て内にて爭ふたやうな譯であつた、是よりしての若い人はドウであるか、内に盡す所もソレは段々ありませう、ありませうが、大躰の方針に於ては大に海外に眼を注いで、開國進取の國是を大に助けなければならぬ、それに付ては外人と親密の交際をしやうといふのはサテ此風俗である。風俗といふものは何であるかといへば、即ち躰裁、人に接しての心遣ひ、支那人の所謂禮である、それは固より衣服も其關係がありませう、誠に不作法な衣服を致して居つては決して人と親睦することが出來ない、又其態度、其擧動に於きましても、人の感情を破らないやうに致して始めて交際といふものが出來る、風俗が醜陋野卑であつた時には、必ずや彼が輕蔑を致すであらう、其輕蔑をした結果としては、是は親睦は出來ない、交りが出來ないのである、さう

して見れば人の感情を破らぬだけの躰裁、心遣ひといふものをせんければならぬ、是に於て風俗を改良し、人の輕蔑も受けず、人と親睦の出來るやうな風俗に改めなければならぬ、又敎育家、宗敎家などの養ふ所の、即ち智育德育といふものが十分にあつて、始めて例へば支那に港を開いたといへば、それに至つて大に交り、大に貿易を盛にするといふやうな譯に、政府の爲すことにチャント調子が合ふて行かなければならぬ、又敎育家などは餘程注意すべきことてありまするが、敎育家ばかりてもあるまい、警察なども其他各方面の人々が餘程注意をせぬければならぬ譯てあります、例へば此二十七八年の役、續いて三十三年の役、支那と戰爭を致しました、其時には我國の唱歌なども色々な敵愾心を起すやうなのを作りまして又學校の敎育などにあつても支那を憎みするやうにソレは導いたのてあります、併ながら今日は支那は殆ど我邦を師として、之を先覺者、先盟として導いて貰はうといふやうな國是になつて居る、其今日にあつても尙ほ前日戰ひをした時の、敵愾心を起さしめた時のことを考へて、ヤー、チャン〱坊主てあるとか何とかいふやうな、前の筆法を以て繪双紙などにまて流行をつゞけ唱歌なども其時分の唱歌などを唱へるといふことは、是は政畧上謹まなければならぬ、政府ばかり愼んだのではいかない、人民がソレだけの政府の政略に應じてやつて行かなければならぬのてあります。

それから又他國の開港場などに行て居る、就中朝鮮などに行て居る人は、誠に朝鮮が弱國なるといふことを以て、ヒドク之を輕蔑して其癖自分は甚だ不作法な禮を缺いた擧動がある、夏などは猿股一つて店先に寢て居るといふやうな有様、それて朝鮮人を輕蔑して靴て蹴たり、唾を懸けたりするやうなことをするやうてある、是では如何に巧なる外交家が骨を折つて見た所が、其傍から人民の交際上に於て其感情を破つて行くといふことになれば恰も權兵衛の種蒔てあつて、幾ら政治家が之を能くやつて見た所が、傍から其種をほぢくるやうな譯になる、是と變つて人民が交際を圓滑にし大に彼と親睦を致してあるといふと、此政治家が其人民の交り、其利害といふものを利用して外交政畧といふものが取れる、是に於て人民が之に應じなければならぬといふことは、敎育家も宗敎家も我々の又熱心唱ふる所の風俗改良も、始終是と表裏相應じて行くやうにせぬければならぬ、度々言ふことてあるが今日西洋人が

我邦を評して、日本といふ國は裸躰にフロクコートを着たやうな國だといふ、是は實に輕蔑を致したことであるが、遺憾ながら之がどうも適評であると謂はなければならぬ、何となれば政府の有する所の機關、即ち制度、法律、教育兵制といふが如きものは立派に出來て居る、如何にもフロクコートといつて宜しからう、然れども入つて日本の社會の有樣を視て見ると、いつも面目を改めた所がなく、就中此風俗といふことに至つては、舊風俗廢れ未だ新風俗興らないといふやうな譯でありますので所謂西洋人がいふ裸躰であると言はれて一言もないやうな次第である。

## 二　狹き鎖國時代の交際法

それから又内國のことを申して見ますると、古しは命令服從の人民であつて、如何にも人民に廣き交際の必要がなかつたのである、然るに今日は昔日とは違つて交際を廣く致し、さうして參政の權をも全くせぬければならぬ、政治の上にも主義を立て丶代議士等を選出を致さぬければならぬ、其他一般の交際といふものは、實業の上に於ても海外と爭ふ位なものでございますから、會社などの組織に於きましても何でも廣く交際を致さねばならぬやうな今日になつて來て、昔日とは大に境遇の異なる爲めには我執る所の事柄に付てもそれに應じて改めなければならぬやうな譯になつて來た、所が此日本人の交際法は世界各國人と交る樣に出來て居るか否やと云ふにそうでない、一例を擧ぐれば日本人が人を訪ねるといふと必ず土産物を持つて行くといふ風俗である、是はどうも昔交際の狹かつた時分にはソレで宜かつたてありませう、殆ど親戚の交際位なものでありましたから、それでも事が足つたてありませうが、今日は其交際が廣くなつて、人を訪ねると必ず土産物を持つといふやうな不經濟なことはないのである、互に是は迷惑至極な譯である、それで土産物を持つといふのは何か特別の場合、遠方にても行てから遠方の物を取つて來た、之を親友にやりたいといふやうな時でもありますか、何ぞ其處に特別な喜ぶことでもあるとか、或は凶事があるとかいふ喜びとか見舞とかいふことは宜うございませう、併ながら平生人を訪ねる時に必ず土産物を持つといふ風俗は已めなければならぬと思ふ、さういふ譯でありまして、それに年始、歳暮或は暑寒等の進物といふことも、誠にどうも狹い交際にしてア丶いふことも出來たてありませうが、今

日廣い交際に於ては如何にも無益な譯である、それで實際は實に虚禮になつて居る、彼の寒の贈物などゝいふことになつては、鴨などゝいふものは寒い時分であるから是は腐敗もしない譯であるのに、さうでない、餘程數廻つたものと見えてから、グル／＼廻つて來て、殆ど子供の火渡しの如く、仕舞に受取つた者が一番の迷惑で、もう腐つて來るといふ譯、是は實に虚禮で、斯ういふことは斷然と改めなければならぬ。

それから又宴會であつても盃の獻酬といふことも是も少い交際に於て、知己の朋友とか親戚とかいふ間には、隨分歐羅巴人が手を握るといふやうな譯に、親睦の爲めに宜いのであるかも知れぬけれども、どうも大勢の交際の爲めに……私共が地方を歩くといふと、何百人といふ人がドウぞ御盃を戴きたいといふ、別して私は酒を飲まないから甚だ迷惑である、遂に巳むを得ぬから酒を盃洗に流して仕舞ふやうな譯である、またソレは宜いとした所が、傳染病といふこともある譯で、其傳染病の人が盃を呉れろといふとやらなければならぬ、又我々が人を招待した、其招待した人が肺病であらうが何であらうが、御盃を頂きませうといつて出て行かなければならぬ、さうせぬと失禮であるといふ、是は誠に衛生上から許しませぬから、盃洗に流し／＼して盃を貰ふ、如何にも是は虚禮である、此等のことも斷然と改めなければならぬ、總ての事が誠に昔しの狹い交際法から今日の廣い境遇に移つたのであつて、さういふ不都合が往々ありまする、ハヤ一躰に日本の家居からさういふやうに廣く世界と交際の出來ぬ樣になつて居る、彼の膳部などにあつても先づ十五人前、二十人前、それから上の揃ふたものはない、家も狹く出來て居る、二十人位から上の客はしないことになつて居る。

それから又音樂などゝいふのが又其通り出來て居る、廣くて疊十枚位しか敷けぬ所に籠つて奏するやうな俗樂である、少し打開いた所で大勢集つて大勢樂まうといふには、日本の樂器であると殆ど通らないといふやうになつて居ります。彼の鎌倉時代には、今に鎌倉の御寺などには殘つて居るさうでありますが武家が盛に大會を開いたといふことは是は度々ある、それで此座席を作るにも、此人は甲乙のない人であつて、ドッチを上席といふことに致してはいかないといふやうなことがアノ時分はやかましかつた、それで或は三ッ頭、四ッ頭、八ッ頭などゝいふやうな座敷の作りやうがあつ

たさうです、それはドーカといふと、上下のないやうに、八人の人を甲乙ないやうに頭にして宴席を作るといふやうなことが鎌倉時代にあつたさうで、随分大勢の會をやつた、それで武家の音樂といふものは彼の謠曲でありまするが、是は鼓を打ち、太鼓を叩き、さうして聲を揃へて謠を歌ふ、是はどうも如何なる大會にも響き渡るやうな譯であつて、適當の音樂であるが、マーそれを除いて殆ど他は今日大集會の席などに適する日本の音樂はないやうになつて居る、さういふ類を數へて見ると誠に數々ある、是れ全く命令服從の民から今日は自治の民となつて、廣く交際をせねければならぬといふ時代に達しながら、其交際法のみ昔しの命令服從時代小規模のものゝみ保存せられてあるからであります、實に不適當なものである、數へて見れば其類がマダ澤山あるであらうと思います。（以下次號）

# 資本勞力調和論

松井柏軒

## 前論

一。社會主義の弱點　社會主義果して行ふべきや、果して行ひ得べきや、社會主義の賛否を定むるの前、先づ此の問題を解決するを急務とす。

若し今日に實行し得ずといはゞ、而して其の實行は百年の後か、二百年の後か、三百年或は五百年の後か、得て判知す可らずと曰はゞ、是れ空想のみ、理想には非ず。

明治の初年に立憲政躰を主張せるものは、即時之を實行すべしと爲せり、徳川幕府を倒して王政を復古すべしと唱しもの、廢藩置縣を唱しもの、亦また然りし也、今乃ち社會主義を唱ふる人のみ然らずといはゞ、天下迷はざるは少からざらん。

而して今日社會主義を實行すとせば、少くも左の弱點あるを免かれず。

二。徳心の欠乏　若し社會主義者の唱ふるが如く、資本と事業とを總て社會の共有とし、各個人の衣食住を平等にして其の生活を社會が保險するとせば

第一　横着なるもの、懶惰なるものは益す安逸放縱にして、容易に勤勉せざるべし、勤勉せざれば多少衣食住を非薄にせらるゝの制裁はありとも、住ひ、食ひ、衣て以て生活することを社會に於て保險せらるゝ以上、此種のものは決して勤勉せざる也、而し

て社會も之を奈何ともするヿ能はざる也。

第二　社會の事業を擔任するもの、即ち社會の頭腦となつて政治、法律、衛生、土木を管し、商工農の分賦分配等を管するものを撰擧するに、果して適任者を得べきや否や、現在政治上及び公共團躰、營利會社等に於ける撰擧の狀態より視るに、被撰者選者の德心甚だ乏しきが爲め、多くは適任者を得るヿ能はず、適任者あるは却つて一個人が專斷に拔擢登用したる所に多し。

第三　已に撰擧せられたるもの、亦責任を重んぜざるの結果、社會主義に著大なる惡結果を及す恐あり、惡政治を行ひ、外國との關係を危くするが如き、商工業の分賦及び其の外國と競爭の方針を誤まりて失敗するが如き是れ也、抑も今日我が政治家、會社重役、公共團躰員等が無責任の甚だしきヿ實に驚くべきものあり、斯の如くにして社會主義を行ふの極めて危險なる必らずしも多言せずして明かならん。

右の三點は必らず德心の十分なるを待て之を除かざる可らず、換言すれば社會主義の實行には十分に進歩したる德義の伴ふを要す、而して今日は尙ほ早しと斷ぜざるを得ざる也。

三。財產分配の不結果　社會主義者の理想に由て、今日我が國に現在せる總ての財產を分配せば如何の結果あるべきや、日本銀行最近の調査によれば我が國の財產額は下の如き也

| | |
|---|---|
| 土地 | 七、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇円 |
| 鑛業 | 四〇〇、〇〇〇、〇〇〇 |
| 家蓄 | 八〇、〇〇〇、〇〇〇 |
| 建物 | 一、九〇〇、〇〇〇、〇〇〇 |
| 家財 | 四〇〇、〇〇〇、〇〇〇 |
| 鐵道電氣 | 三五〇、〇〇〇、〇〇〇 |
| 船艦 | 二五〇、〇〇〇、〇〇〇 |
| 金銀 | 二〇〇、〇〇〇、〇〇〇 |
| 各種事業 | 三〇〇、〇〇〇、〇〇〇 |
| 諸貨物 | 八〇〇、〇〇〇、〇〇〇 |
| 總計 | 一一、六八〇、〇〇〇、〇〇〇 |

此の百十六億八千万圓を、最近調査の全國人口約四千四百万人に分配せば、一人當り二百六十五圓五十錢に滿たず、今之より年々二割五分の收益を得るとするも、尙ほ一人一ヶ年の所得額は六十六圓卅七錢五厘に過ぎす、一ヶ月僅かに五圓五十錢餘を以て生活するが如き、何ぞ幸福なりといふ可けんや。

更に土地、建物、家財の總額九十三億万圓を四千四百万人に分配すれば、一人當二百十一圓卅錢に充たざるが故に、平均一戸を五人とするも、毎戸の所有する田畑、宅地、林野、家屋、家財を併せて一千五十六圓に過ぎざる也、更に家屋のみに就て算するに、一戸の價二百十六圓に滿たず、二百十六圓の家屋は、東京大坂の如き都會に在ては實に裏長屋に過ぎざるのみ。

更に田畑、宅地に就て算するに左の如し

一戸の所有田　三段一畝五歩餘
一戸の所有畑　二段六畝三歩弱
一戸の所有宅地　四畝四歩餘

此の計算は田二百七十六万、四千二百九十七町九段、畑二百二十八万千四百廿七町、宅地三十八万六千三百五十六町九段を八百八十万戸に平分せし也

故に社會主義に由て總ての財産を均分したる場合には、吾人の一家族は、總て百二十四坪の宅地に建てられたる價格二百十六圓の家屋に住ひ、一ヶ年の總收入三百三十二圓弱、一ヶ月大略二十七圓六十錢にて一家五人の生活を立てざる可らず、之がため小作人、土方、職工の如きは多く今日の生活より安樂なるべしと雖も、總ての國家社會に於て其の中樞たるべき中流の人々は、却て今日より低度なる生活を爲さゞるを得ず、吾人は今日の我が中流の生活を目的とし、此の生活よりもより善き生活を爲し得るの目的確立せば、始めて安心して社會主義に贊成すべし、然れども是れ今日に於て望む可らざるにあらずや。

蓋し社會の中樞となり、社會進歩の主動ともなるべき人々が、今日よりも低度なる生活を爲すに至るが如きは、決して社會を活動せしめ進歩し發達せしむる所以に非ざる也。

四、眼前の實行難　且つ社會主義を實行するに就て、最も困難なるは、現在各個人の所有權を剝奪するヿ也、各個人の所有せる土地家屋財産を收めて、社會の共有とするヿ也、正直にいへば皇室の待遇法の如きも實に至難ならざる可らず、故に强ひて之を實行せんと欲せば、唯だ革命のみ、然り血を見ざれば止まざる不祥なる革命のみ。

且つ我が日本のみ今日獨り社會主義を實行するも、英佛米獨露の諸國にして之を行はずんば、我が社會主義は必らず敗滅を免かれざる也、是れ亦社會主義の今日に實行し難き所以ならずや。

五　資本勞力の調和　抑も社會主義者の起れるは、今日の社會組織の不完全なるを慨せる也、富の分配の宜しきを得ざるを慨せる也、詳かにいへば資本主は安逸して而して益々富み、勞働者（所謂四階級のものを總て包含す）は益々精苦勤勉して而して益々貧なるを慨せる也、老幼癈疾の如き不幸なる者及び多くの罪人あるも之を救濟するの機關なきを慨せる也、余は此の點に於て全く社會主義者と同一意見を有す、故に之を救はんがため玆に勞力と資本との調和を主張する也、勞働者と資本主とをして各其の處を得せしめ、併せて眞に不幸なる老幼癈疾者罪人等を救濟する諸施備を爲さんとはする也、余は少くも之を以て三百年五百年千年の後、圓滿に社會主義の理想の現實せらるゝに至るまでの前程たるべきを信ず、但だ怖む、社會主義者が資本勞力の調和を以て一種姑息の俗論と言做し、却つて僅かに普通撰擧の如き、若くば瓦斯、若くば市の交通機關をミユニシパルトレーヂング（自治團体の經營）と爲すべしといふが如き主張に止めて、他は常に晉人の如く徒らに高遠（？）の空談に耽るとを、蓋し勞力資本の調和も亦頗ぶる難し、然れども未だ社會主義を實行せんとする程困難にして且つ危險ならざる也。

# 我國民體育の現在と將來（下）

萬國体育會日本委員代議士　山根正次

## 襲衣菜食及び家屋の悪構造

之れから又私は日本人は大變な襲衣（かさねぎ）をする弊がある、ナカ／＼澤山に被る風があると思ひます、是も身躰が餘り暖いと大變に皮膚を弛緩させるものであります、そこで運動といふものは却つて嫌ひになるのであります、薄衣をして居るとドン／＼歩かねば汗が出ないやうになる、それであるから薄衣の習慣を附けねばならぬ又厚衣（あつぎ）の弊は淫事を盛んにする風習があります、それてあるから最愼まねばならぬ、御負けに日本の着物は兎角懐手をして居ります、飛んでも無いダンベルを握んで居るといふやうな（哄笑）風習は私は甚だ宜くないと言ふのであります。

私は又今日諸君に向つて殊に後來の注意を申上げたいことは食物のことであります、食物といふものはどう

てあるか、私は此日本國民をして畜産のことに進ませなかつたのは何の故てあるか、後來學問をする人や豪い者になるにはどうしても食物といふものが充分に改良されて行かねばなりませぬ、日本人は香物に茶漬、梅干或は菜ッ葉の煮たの位でやり居る、併ながら後來學問をする人は是はさう云ふ譯にいかぬ、先刻も申しましたが一定の頭を使ふ上には立派な食物を取らねばならぬのであります、日本國民に豚を飼ふたり牛を飼ふたり羊を飼ふたりすることの進まなかつたのは私は佛敎者が預つて大變な力あることゝ思ふのであります、それで宗敎の上に於てはどうであるか一躰に法を說く人やなどゝいふ者は精進をしてそれが爲に淫事が盛んにならぬといふことを言ふ、生きた物を殺したり喰つたりするのは惡といふ結果そこに至つたのであります、さう云ふやうな精進の習慣は日本國民に止めて貰ふやうに望みたいのであります。どうしても此肉食を今まで發達しなかつたのは宗敎家の罪であらうと思ふのであります、今日日本國に於て豚がどれ丈けありまするか僅かに二十二万頭位しかない、三十三年の頃にはそれ丈けしか居りませぬ、それから又十万とは決して殖えぬのであります、今日軍隊に於て少しく豚肉を喰はせると直ぐに供給が無くなつて仕舞ひます、そんなことではいかぬ、矢張り今日學問を修める人は肉食を餘計しなければならぬ、營あるものを餘計喰はねばならぬ、それで今日まで宗敎家が獨り道徳に厚いばかりで無く精進をなされ得るのは何かといふと御寺方は悉く油揚であるとか豆腐であるとかいふ旨いものがある是は大變に養ひになる、又油揚などは外の人民は容易に喰えぬ、菜ッ葉に茶漬位てあるから身躰が一般に惡いのであります。

私は歐羅巴から戻つた時に滊車の内で或人から聞いたことがある　香物に茶漬、握飯に梅干であるが日本の軍隊は外國軍隊の環視の中でえらい働きをやつたぢや無いかと言はれた、左樣でございまする、私は答えた、ナカ／＼えらい所の國民である、若しも之に肉食をさせたら尙數倍豪からうといふことを言つた、それでどうしても營養物といふものは後來は充分取らねばなりませぬ。

それから又躰育に續いて來ることは即ち家屋の改良といふものが起らねばなりませぬ、私は今日怪訝に堪えない、何故堪えないかといふと斯んな立派な講堂があり椅子が列べられるやうに出來て居つて何故斯う云ふ

疊を敷いて御座る、私は此處て椅子を置いて腰を掛けることになつた以上は履てドン／＼上かれるやうになつたら宜からうと思ひます(拍手)日本國民は一躰に亂暴である、履を穿いて來ると泥が附いて居ても何でも穿いた儘てドン／＼上に這入つて來る、さう云ふ惡い習慣がありまするから兎角汚れぬやうにする爲に疊などを敷く、それですから皆さんが履て上がれても泥だらけの履て人の前に出るのは非常に失禮であるといふことを考へるやうになつたら大方ドン／＼履て上がれるやうになるだらうと思ひます、立派な段通の上でも土足て上つては隨分心ある者は迷惑するてす、それだから斯う云ふ鹽梅に家屋が充分に出來て腰掛が充分攫がる時になつたら大變宜からう、又之に付ては私は一つの考を立て議會を經て立派な法律が出來て何年よりどう云ふ家を建てねばならぬといふやうになつたならば日本の國民の身躰は實に非常に丈夫になるだらうと思ひます(拍手)殊に又關係的に今日の學生は一般に足が長くなりつゝある、併なから前申しましたやうに足が長くなるのは何の爲であるか、是は坐つて居つて始終、血行を止めて居るといふやうな坐り方をやらぬからてあります、それが大變助けをなして居るけれ共學生は胸部の方ては一番狹いてある、何故てあるか、偶々足が長くなつたと言つても蚊の脚のやうでは仕方が無い、それで充分に此腰掛といふものが足の發達を助けるものでありまするからさう云ふ改良に付ては皆さん御賛成になつて後來に於ては腰掛流に御賛成あらんことを希望するのであります。

## 躰育と飲酒及び喫煙

それから躰育を盛んにするところの人は飲酒の弊を避けねばなりませぬ、私か見渡した所諸君は酒を飲まれる方は一人も無いと信ずるのであります、それだから諸君に向つて飲酒の害を說くのは不必要であるといふことを感ずるのでありまするなれ共教育家でも宗教家でも宛てにはならぬ、隨分禪宗などで酒が御寺の內に這入ると般若湯と變名して居る、酒は山門へ這入れぬといふ、內では般若湯の香ひがするといふやうなことがありまする、此酒といふものは如何に身躰に害を與へるか、非常なものであります、此事に付ては私は或る雜誌に飲酒の弊といふことを書いたことがありますから諸君御覽なさい、酒位大變に風俗を紊すものはない、これ程頭を惱め身躰を病氣にする種を作るものは

無いのであります、私が監獄に居る所の罪人に付て統計表を取つて見ても實に澤山なものであります、今玆に其數を申すことは省きますが實に澤山であります、半分以上は酒を飲んでやる方の犯罪であります、又酒の爲に實に澤山な精神病者が出來て居る、精神病になつた結果が大變に惡いことをした者が澤山あるのであります、人を殺し婦女を姦し色々な罪惡を拵えて居る、又酒に依つて病氣を起すのは即ち酒狂でございます、或は又此狂の字は凶とも書く酒凶です、それから又疾病性酩酊、是は精神病の一種であります、それで酒が大變に人殺しをなし澤山に罪を犯さしむるといふことは今日は言はなくても諸君が禁酒の演説に付て御存じと思ひます、又酒といふものが媒介をなして人をしてインモラール、即ち不道德に導くものであります、酒に醉うて興奮した結果色々な惡い所へ行くことも往々あるのであります、惡い所へ行つた結果が彼花柳病などゝいふ惡い病氣に罹つてさうして此下の身躰を大變害するのであります、今日酒が原因となつてモラールを害し其結果は大變に忌むべき子々孫々に傳える黴毒の如き病氣といふものが日本帝國に於ては非常に蔓延しつゝあります、私は明治二十八年に於きまして黴毒亡國論といふものを書いた位で此日本帝國に於て最忌むべき病氣が非常に蔓延しつゝあります、非常な速力であります、新聞紙上を御覽になつても分ります、黴毒を治す藥、ビスマルクの頭へ持つて行つて掃毒丸といふことを書いてあります、皆黴毒の藥であります、水銀軟膏なんといふものもあります、之を以て見ても此病毒の蔓延して居ることは分るのであります、是は即ち飲酒が大變に原因になつてやつて居ります、それで躰育を重んずる人後來大なる希望を持つて居る人は宜しく酒を飲まぬことにしなければなりませぬ、どうか其害のことに付ては外の雜誌にも私の演説したものが出て居りますから諸君は實踐躬行されて御友人の中に御説き下さることを希望するのであります。

禁煙のことは無論のことで煙草は日本の法律で青年には禁じて居ることであります、學校外に於て巡査に捕へられて説諭を加えられ罰金を取られる者がある、是て道德心の薄弱なことは分ります、それて御互に法律を犯す者があつたら辱めるやうにならねばならぬ、さう云ふことがあつてはならぬといふやうな考が起るやうにならねばなりませぬ、それて煙草は小供に害があると同時に大人にも害がある、所で小供に禁じて大人

が喫煙をするときにはどうも小供からして一本やられる、私には害があるが御父さんには害がありませぬかと言はれた時には答えることが出來ないと存する、大人にも勿論大變に害があります、殊に學問をする人は酒を飲む煙草を飲むやうな錢があつたら、牛肉でも澤山喰つて身躰を丈夫にすることをしなければなりませぬ。

それから私は今まで躰育をする上に付てはどうしても道德といふことが一緒になつて來ねばいけませぬ、此事は私は佛蘭西でも大きに怒鳴つて置きました「躰育と道德」といふ演說をいたして居ります、佛蘭西の如きに於ても隨分惡いことが澤山あります、私はパリーの巷に行つて小便壺を見て歩いたが色々なことが書いてあります、淋病の藥とか黴毒の藥、何日で治すといふやうな色々なことが書いてある、何の爲にあんなことがある。恐らくは此國にも此病氣が澤山にあると思ふ、元來躰育を盛んにして行くと自然に德育といふものも次第に盛んになるものであります、身躰の强壯を謀つて强い者にならうといふ人間が出ますることに至つてはモラールといふものも自然に善くなるのであります。

私は諸君と共に此日本帝國を愛するの至情より茲に躰育の進行の必要を述べました次第であります、詰らぬ話でありますが長い間御静聽下すつたことを諸君に謝するのであります。（大拍手大喝采）

# 形式の基督教（一）

正岡藝陽

## 當今の教會

なんぢら人に見せん爲めに其義を人の前に行ことを愼め……是故に施濟をなす時人の榮を得ん爲めに會堂や街衢にて僞善者の如く鑼を己が前に吹かしむる勿れ――馬太、六ノ一

吾人は今茲に聊か基督教會の時弊を論ぜんとして、讀者に向つて先づ此基督の言を三唱し、能く是れを記臆せんことを望む、蓋し吾人の以下論ぜんとする所は、今日の基督教々役者並に信者が基督の志に協はざる、基督の志を亡せる基督教の賊なることを事實に依つて證明せんとするにあれば也。

宗祖基督は、身を以て人類救濟の大義を行ひ、遠く範を數千載の後に垂れたる一偉人也、若し苟且にも基督の志を體し、基督の心をして地上に盛んならしめんとす

る者あらば、必ずや粉骨砕身、唯其力の足らざるを是れ憂ふべき也、然るに今の基督教界は如何の狀態にある、彼等果して能く基督の心を以て其心とし、以て渠の旨を今日に成らしめんとするの一大覺悟ある乎、基督の血をして今日に於て功果あるものたらしむるの一大決心ある乎、蓋し物古くして必ず沈滯す、今日の基督教界は唯形式に流れ、舊習を襲ぎ、終に沈滯して又如何ともすべからざるの境に陷りしものに非ざらんや、否吾人は寧ろ彼等基督教徒と稱するものが、盡く基督を賣りしイスォデのユダなるを見る也。

或は曰はん、基督教徒は今熱心に神の旨を宣べ傳んが爲めに、あらゆる方法を以てこれを實行しつゝあり、見ずや彼の二十世紀大擧傳道なるものを、大擧傳道は是れ實に空前の壯擧にして、世界各國相呼應して、全一步調の下に活動するものなりと、吾人は抑も此大擧傳道なるものに少からぬ不滿を有するもの也。彼等が大鼓を叩き、旗を立てゝ街衢を奔走して大聲叱呼するは、是れ即ち人に見せんが爲めに其義を人の前に行ふものに非ずや、彼等が雄辯を揮つてなす演說は僞善者の類に非ずや、抑も彼等の心底に一大信念の橫るありて是れをなすと云ふ乎、吾人は彼等の行爲に一大矛盾の存するを認めざるを得ざる也、何を以てか是れを云ふ。

二十世紀大擧傳道とは何ぞや、世紀の進轉を機として、基督教の主旨を多くの人に知らしめんとする也、是れ誠に可也、然れど彼等に一大信仰のあるありて、敎義の爲めに身を捨つるの熱心あらば、何が故に强て二十世紀と云ふぞ、成すべくんば何が故に十九世紀の末年より是れをなさゞるぞ、是れ彼等が其の根底に大信念の存するものなきが故に非ずして何ぞや、彼等に信仰のなきことと彼等自身の行爲能く是れを證明せるに非ずや、故に吾人は彼等の此擧を以て僞善者の行爲となすに躊躇せざる也。

宗教は決して一片の形式を以て左右すべきものに非らず、故に古來宗教界の偉人の事業は皆此形式を打破して、多數の信者に新生命を與へんとせしものに非ざるなし、彼のサキソニーの一寒見の事業實に是れに非ずや、ウエスレーの事業亦實に是れに非ずや。然るに彼の大擧傳道なるものは、近代の形式的基督教を最も能く代表せるもの也、是れ豈にルーテルの志ならんや、將た基督の志ならんや。

請ふ見よ大擧傳道の內容の如何に滑稽なるものあるか

を。壇上の牧師は叫むで曰く『悔改めたる者は其手を舉げよ』と、是れ已に形式也、然るに彼等又曰く『願くは今一人手を舉げよ、然り一人也、それにて悔改めたる者は恰も二十人となる也』と、彼等が其一人を叫ぶや、恰も羅市の商人が一錢にても物を高く賣り附んとすると毫も異る所なき也、其態度の賤劣にして、其心事の卑陋なる到底堂々宗教家の爲すべき所に非ざる也。

多くの信者を得んとすること必ずしも不可ならず、然れども斯の如き方法を以てするに於ては斷じて非也、宗教は決して一片の理路に依りて解釋せらるべきものに非ず、皇天上帝と心に神會默契し、深く人生の奥妙と其接觸するに於て始めて解し得べきもの也、浮薄なる一塲の說教を以て能く人を動さんとするが如きは蓋し謬れるの甚しきものと云はざるべからず。

吾人は今の教會は、至る處一師の形式に拘泥し、終に其生命を忘失せるを見る、彼の祈禱會なるものを見るに、牧師は信者に向つて祈禱を強ゆる也、懺悔を強ゆる也、嗚呼祈禱や懺悔や終に人に強ゆるにあらずんばなし能はざる乎、斯の如きは基督が最も力を極めて攻擊したりし所に非ずや、後世の教徒、徒に表に義を稱へ內形式に流れ、精神の大なるを忘れて、形式の小に走る、當今の基督教の萎微として振はざる誠に所以ありと云ふべし。

說教に形式あり、日々の習慣に形式あり、祈禱に形式あり、讃美に形式あり、彼等は一歩も其れ以外に逸する能はざる也、基督教は今や化して一の形式教となれり、而して信者は唯其形式に觸れんこと是れ恐るゝのみ、一人として基督の大精神を會得して、是れを身に行はんとする者なき也、茲に於て聊か志ある者滔々相率ひて去り『余は基督教徒なれども教會員に非ず』との奇異なる聲言をなすに至れり、蓋し當今の牧師傳道師なるもの、唯其形式を傳へて、一大生命の活氣を皷吹するものなければ也。

基督教は愛の教也、人をして神の愛に浴せしめんとするもの也、已に愛也、人高きに上らんとすれば、先づ低きよりせざるべからず、神の愛を解せんとせば先づ男女の愛を解するものならざるべからず、男女の愛だも解し能はざる者にして、焉ぞ能く神の愛を解するを得んや。此意味に於て教會は男女相愛するの所なりと云ふも不可なし、然るに若し二人の青年男女ありて、教會に於て能く相愛せば如何、曰く忠告、曰く教會裁判、

曰く除名、而して教會員の彼等に對する實に路傍の人の如し、嗚呼是れ豈に眞の基督教ならんや。

當今の基督教の形式を重ずる斯の如し、故に有爲の靑年にして道を求むる者あるも、其教役者は精神を與へずして形式を與ふるを以て、靑年は一面其煩に堪へず、一面其愚に呆れ、終に基督教と訣別するに至る也、島田三郎、德富猪一郎、竹越與三郎、金森通倫、市原盛宏、內村鑑三以上諸氏等が、教會を去りし源因の一は主として此處にあり、依つて思ふに今の教役者は唯其有爲の信者を逸し、無爲の迷信家を收容するの外、何等の能力なき者也、彼等は基督の僕と稱するも其實基督を賣る者也、彼等あるが故に基督教は振はざる也、基督の志は最初十二人の使徒によつて殺され、後多くの教役者に依りて亡ぼされたり、彼等豈にイスカリオデのユダに非ざらんや。吾人は更に其形式の根元たる今の神學校に就て觀察する所あらん。

續稿「貧民狀態の研究」は紙面の都合にて本號に登載する能はず、次號には必ず揭載すべし。

記者




## 海外大勢

### 滿州問題と歐米の輿論

滿州が事實上露國の手中に歸せりとの觀念は已に世人の抱ける所にして、よし日本及び英國の抗議ありて露西亞は滿州の地より手を引くとするも、彼軍隊は依然決して動く事なかるべし、一年前露は淸に約するに六ケ月間に撤兵すべきを以てし、第一の撤兵は去年々末に行はれ、第二回は本年四月八日に行はるべかりしなり、然るに撤兵に先ち露國は滿洲の支配に關し一の要求を提起せり、此に對する米國諸新紙の步調を伺ふに、先華盛頓なる「スター紙」曰く

露國は支那に對する滿州に就ての新要求が、充分自己を滿足せしむるに至る迄、撤兵の實行を否まんとするものなり、されば他日其要求容れられ、全滿州が露國の權力下に立つことあらんか、后來滿州

に對し支那が行政上の自由を得可きは夢想し難き事に屬す、蓋し露國が滿洲に於て開放すべき唯一の貿易港牛莊に於ける海關稅は凡て露清銀行に收められて、支邦稅關の手中に入らざるべし、此一事は即ち露西亞に一州の收入を賦與するものなり、又滿洲の何れの部分も決して他國に讓る可らざるを以て、露西亞は將來滿洲全土の支配權を得、又露西亞人に非ざれば滿州に於ける文武官何れにも登用さる能はずして、露西亞は玆に一州の行政上に絕對的權力を振ふを得、而して又露西亞は現存の支那電信線路に自己の電線を架設する權利を有するに至らば、通信上の獨占權をも保有すべし。

而して以上は我合衆國に直接の痛痒を及ぼすものなり、勿論合衆國は此問題に對しては是非容喙して以て淸露兩國に警告せんと欲するものなり、何となれば支那が露西亞の要求を容るゝは滿州一帶のみならず、支那全土を擧げて彼の手中に投ずるものなればなり、而してもし露國にして一州一縣の事件に依り支那政府を威赫し、北京に威を振ふに至たらば、他國は到底勢力平均を保つ能はざる可し、何人か露國の要求が如何にも鐵面皮たるに驚かざらんや。

殺氣は紛々東亞の天を掩へるが如きも實戰は多く期待せられ居らず、「紐育コムマーシヤルアドヴアータイザー」紙は日本及英國の抗議も遂に紙上のものたるに了るべしとて、曰く

此問題に直接の關係を有せる日英米三國の抗議が紙上のものたるに止まるは却て吾人の喜ぶところなり、勿論日本にては敵愾心の昂騰も甚しく、日英同盟は以て今日の用たらずやと呼ばるゝも、朝鮮に於ける露國が權利の讓步は日本政府に取りて非常に重要なるものにて、爲に日本政府は此の際戈を取るに猶豫ふの價有り、而して一方大英帝國は日本無きも敢て起つと云ふ程の意氣込もなし、更に北米合衆國に至ては露國の滿州占領が其對淸貿易に害を及ぼすべき以外に外交的辭令以上の危機を曳起すべき程重大ならず、故に日本が一船隊を牛莊に送りし如き事實あるにも係らず、こは只虛勢にて將來露領亞細亞の地圖上大黑龍江の南に新重要なる一州即ち滿州を加ふべき事決して疑なし。

と、又仝じく紐育なる「イーブニングポスト」紙も露西亞の政策は成功すべしと說けり、曰く

府の力か或は自國の革命今日に爆發するに非ざれは、露國が滿州を實際上に占領するを妨げ得るもの他にこれなかるべし、露國は其政策實行に要する地位と軍勢を有せり、されども彼の政策は今日迄は凡て露西亞獨得の外交手腕を以て行なはれたり、彼は朝鮮に於て日本との葛藤を避けんが爲に獨佛二國に仲裁者たる地位を與へ、北京に於ける近時の紛紜には牛莊を支那の手に返すべしとの公言を以て事の深入を避けたり、而して今や彼は牛莊の海關稅は露淸銀行に收めらるべくして淸國海關の手に入れらるべきものならずとの無理を言へり、海關の存する所即主權政府のある所たるは明なるに非ずや、然るに此點に就て何人が起て露西亞と相爭へるか?、橫濱よりの通信は日本の戰艦三隻牛莊に急行し、日本の人心は露國の要求に對し甚しく憤怒せりと傳ふ、されども吾人は此方向に戰の開かるべきを信せず、思ふに數月を出ずして紛爭は鎭まる可く、而して其間に露西亞は更に一步を進めたる成功をなすべし。

かく亞米利加新紙の此問題に對する態度は比較的冷靜なり更に歐洲諸國の新紙に至ては經濟上よりも寧ろ政治的關係よりして論じつゝあり「倫敦タイムス」は本問題に付き、長々しき論說を掲げしが、其要に曰く

所謂撤兵は滿州の諸都市に入り込める露軍を鐵道線路迄退かしむるものなり、されど鐵道線路は凡て重要なる都市に通ぜるを以て鐵道を守るの軍隊は又仝時に都市を守るの軍隊たり、而して其爲には莫大なる食料準備各市の停車場になされ居れり、滿州首都の撤兵は畢竟城壁の內部より城壁の外部に遷る者に外ならず、而して露國の放言せる處にては、六千人以上ならでは安全に保護するを得ず、依て其以上の兵員を永久駐屯せしむべき食料を備へたりと、他の諸都市も亦仝樣に堅固に守護せられあり、かくの如き有樣なれば折角或都市より撤兵するも、鐵道の要地に據て却て諸都市の咽喉を扼せるの觀あり、實力上には殆んど撤兵は無意義のみ。

此の如くして滿州鐵道は世に比を見ざる程軍隊の守護嚴重なる鐵道なり、三四哩毎に必ず兵舍あり、少しく重要なる地點は武備怠りなく、橋梁の如きは更に意を用ひて守護せられあり、されば鐵道守護に要する兵員實に夥しく、其數は誰れも定むるを得ず、只露國彼一人のみ其兵員數の程度を勝手に加減し得るのみ。鐵道守護は最早今日にては國境守護と云ふ可し、而して其兵員は三万人にして、一切官給に依り、三年間の服務なるが、其間の給料手當は本國に於けるよりも甚だ多くして優遇されつゝあり、云々




（露○熊○滿○州○を○飽○食○す）

「倫敦タイムス」は鋒を進めて露國の滿州封鎖を說き、世界に警告を與へて、往年日本の遼東還附にしてもし行なはれざりしものとせば、今日の極東問題は更に面目一變せる可きを說き、且つ曰く

往年日本は露獨佛三國が共同提議の中條たりし「滿州の占領は東洋永久の平和に害あり」との通諜に對し、血淚を呑みて之を還附せしが、其後三年を出ざるに露國は顧慮する所もなく日本が退きし其地方に軍備を施し堡城を築けり、而して更に巧妙なる外交的手腕を以て滿州の中心に一露都市建設の權利を得、三大鐵道を其地に集合せしむる特權をも得たり、かくて滿州は全く名實共に露國の有となり、今は武力に據らざれば彼を退くる能はざるに至れり。

と更に一歩を進めて滿州に於ける露國の巧妙なる施政を叙せり

殘虐非理の軍隊的行動は今日已に跡を絶ち、滿州の住民は却て未だ知らざりし文明の恩澤に浴しつゝあり、永久の兵舍は各市に建設され、各都市は電燈輝き水道布かれ、公園あり圖書館あり、過去五年間に滿州の荒野は全く面目を一新せり、而して幾千の露西亞官民は家族相携へて茲に移住し來り、東亞の平和を保つが爲戰勝者たる日本の手より奪はれし支那皇帝の一州は今や全く露國の一州たるなり。

佛國に至ては勿論同盟國たる上よりして此問題に付き露國の行動に反對の氣焰を擧ぐるものなく、むしろ露國の成功を望めり、全國外務省の機關たる「タム紙」曰く

亞細亞に於ける露國の驚くべき行動に付ては、諸方より通報頻々たり、要するに滿州の撤兵はむしろ占領を意味するものなるべし、而して亞細亞に於ける露國の行動は其目的に於て衆評の的たるも畢竟露國は支那を威嚇するに非ずして、餘り有る好意と奔走を以て支那に捧げ、恩澤を以て支那に蒙らしむるものなり。而してかく一方支那の爲めに盡くすと仝時に又自から利するに怠らず、彼は徒に條約の文面に拘泥せずして活潑自由に支那帝國と自己の爲に働きつゝあり、此爲に彼は道路を開き、銀行を建て、港灣を築けるに非ずや、露西亞は今日の此等の施設が早晩自己手中のものたる可きを知れり、又露國は兵火を交ゆるの頗る不利にして務めて平和を保ち自他の利を得ん事を欲せり。




滿州刀を以て支那を殺さんとする露人に向ひ英米等が側らより日本なる小犬を使嗾して嚇し居る圖なり。（米國新聞所載）

獨逸新聞の口調は平然無頓着を示し。且官報半官報共に排露的語調は全くなきが如し、ベルリンの「クライツザイツング」紙の如きは此問題に關係せる清露以外の國は日英米丈なりと言へり、更に露人自身の言に聞くに、頃者華盛頓駐剳の露國大使カシニー伯は全地の新聞記者に巧慧なる辭令を以て語て曰く

露國は今日諸外國が滿州に得つゝある商業上の權利利益を排斥するものに非ず、殊に北米合衆國の如きに至ては大なる好意を以て迎ふるものなり、蓋し北米の貨物を滿州に輸入するの必要なるは苟も滿州問題に目を潑げる人の熟知する所しにて、滿州開拓に全力を盡くせる露國の喜んで之をなすは盲を俟たざる所なり、米國製の鋼鐵、木材、木綿製品及び諸

種の建設用品等は今や滿州の切要せる所にして、之等の事情は米露兩國舊來の交情をして益す親知ならしむると共に、滿州に於ける米國貨物の輸入は露人の大に歡迎する所なり。

滿州に於ける新條約港の開始に付ては今玆に明言する能はず、されどもかゝる運動の今日滿州の狀況に甚だ適當ならざるは事情に通ぜるものゝ知る所なり、勿論單純に商業上より言へば大に又異なるものの有りと雖ども新條約港の開始は商業の開始に次ぐに政治的紛亂を以てし、終に平和の擾亂を致すへし、現今牛莊は一の條約港にして爲に滿州に於ける米國貿易は著しき增加を致しつゝあり、聞く所によれば支那に來る米國製綿糸木綿等の八割は牛莊より滿州に入ると云ふ。

滿州に對し米國が有せる影響の特點は、商業にありて領土に非ず、平和の保有にして戰亂の破裂にあらず、而して露國が希ふ所も亦同じ、されど露國政府は滿州の平和を持たんが爲め、又千九百年の亂を再びせざらんか爲め、今日北京に於て撤兵條件其他の協商中なり、蓋し千九百年反亂の直接影響は米國にも著しくして、聞く所にては米國内幾多の紡績工場は戰雲全く鎭定するに至る迄休業の已を得ざるに至りしと云ふ、かゝる事實及現象は華盛頓政府をして北京より來る誤りたる中傷的流言に迷はさるゝ人心の鎭撫に充分の力を用ひしむべき證左たり●

何ぞ巧言の甚しきや之よりは率直にして飾り無き一文は「週刊ハーパース」紙上に顯はれたり、筆者は今米國を訪へるかの露國半官報「ノウエウレミヤ」の政治記者アレキシスエドリキーネ氏なり、曰く

滿州の地は實に二十万の兵を用ひ、二万の壯丁の血を以て吾人の手中に服せしものあり、又吾人が爲に費せる財貨は實に一億万ルーブルに上るものあり、而して短少時日間に秩序を整へ、制令を敷き、立派なる平和を普からしめて、遂に今迄吾人に非常なる敵意を示せし英國新紙殊にタイムス紙迄吾人に對し大なる賞讚の聲を上ぐるに至らしめたり、之等の點より見れは凡ての權利より云ふも滿州は當然吾人の有たり、されは他國の滿州に對する要求は一に吾人の權利と財產を犯す者なりとより外考ふる能はざるなり、云々

## 露帝と及び其周圍

露國皇帝ニコラス二世の政治的思想に對する歐洲諸新聞雜誌の批評は區々にして湊合するに難きも、帝が獨裁政治を好みて併も專制壓制を嫌ひ、獨帝の如く餘りに公開的ならずして、序々に目的を行はんとするものありとは各一致して承認せる如し、羅馬市刊行の「ツリブーナ」紙露帝の少時の教育を叙して曰く

ニコラス二世は專制主義に對する露西亞政策の刷新を含めるロマノフ朝の遺訓に從つて教育せられしものにて、指導者として三人の將官あり、他に一人の佛人教師ありき、而して其の勉學日は一心不亂に勉學に餘念なく、休息の時間は實に僅少にて、夕に至れば繪畫音樂及擊劍の練習に耽れり、帝は希臘語も羅丁語も教へられざりし代りに善く近世語に通曉せり、又帝が勉學時代の私室は實に狹くして中には一箇の鐵製ベッドと小卓あるのみにて、裝飾物としては帝自から新聞の挿畫を切抜きて貼布せしものゝみなりし。

如此にして成人せし帝が、一度帝位に即くやよく忠實熱誠以て事をなす風あり、身體は割合に小なれども、纖弱ならず、今日迄左程重き病に犯されし事なしと云ふ、而して帝の性質の最も驚くべき轉化は其神秘的に傾きし事にて、彼は墓中に眠れる祖皇帝アレキサンダー二世より畏僕の

解放は露國の大利益あらずと告げられしならんと稱せらる。

帝の政治事業に參與する坐右の人々の勢力に付き、露西亞自由派の一人エフ、ウオルラスキー氏は有益なる文字を「倫敦ニユース」に掲けたり。

露西亞には從來和衷協同せる內閣絕えてなし、各大臣は他大臣と各相輔佐せざるのみならず、却て其中の或人々は寧ろ相反目敵視せり、國民に對して直接の責任なく恰かも雇主が番頭を傭使解雇するが如くに任命免官せらるゝを以て、一部の人を除きては露西亞內閣の大臣たるものは任命の最初に當り先づ皇帝を擒にせんとして競爭す、かくて他に超越せる勢力を得んとするなり、而して現今の如く皇帝の性情が或壓伏に易く屈する時は競爭は一層度を高め來りて、各大臣の政策上に明白なる勢力を顯はすものなり。

上大臣の狀躰已に如此なれば、皇帝を周圍せるものは武官たると文官たると僧侶たるとに論なく、朝廷に於ける權力爭奪は絕へざる紛爭中にあり、されども亦中にはホビエドノスツエフ氏の如く堅く道義を守て俗流以上に起つ人もなきにあらず、ホ氏は神聖教師會の幹事として先帝を大に感化せし人にて、皇帝に對する彼の教訓は自から怨をなすべし、去年氏が辭職を請ひし時皇帝は非常に之を悲しみしと傳ふ。

之を要するに、現今露國皇帝の周圍は、復雜なる感情や利害や、專制帝國に有り勝ちなるお家騷動的の事多くして、時には帝をして五里霧中に迷はしめ、其正當の判斷に窮せしむること多し、されど帝は到底專制君主としてよりも立憲君主としての器なり、平和を貴び壓制を嫌ひ下民に同情有り、若し帝の周圍をして其大臣の半數又は朝臣の大部が大藏大臣ウイッテ氏の如く、自由主義を奉ずるものたらしめば、露西亞は又昔日の如き露西亞ならず、文明國として恥しからぬ大維新を見るべし。

# 海外雜纂

## 西比利亞流罪人の慘狀(承前)

ウイント氏
蒼生譯

### 流罪地の生活

「スレドニー、コリムスク」では冬よりは夏の方が暮し易い。何故なれば夏の間は「コリマ」川に魚類が多く繁殖し、且つ村の周圍の森や野には菓實や野菜が出きるからである、雷鳥や鴨や、他の山鳥なども春には澤山出る、固より銃獵は禁止されてゐないから此時季には盛んに食物が得られる、此處に住んで居る人口の總計は、土着の住民やら、罪人やら警官までも加へて殆ど三百人餘も居るから勞働などに隨分人手を要することがある。だから夏の間は追放人も漁りしたり、獵をやつたり木を伐り薪を作る事などで、少々の貨錢を得ることが出來る。併し冬の間は止むを得ず漫散(のらくら)として暮さればならない。但し此時季には露西亞の本國から二度郵便物が送つて來る、其の配達夫は即ちコサック人である、けれども春夏初秋の間は「パークホヤンスク」と同じやうに、數多の沼澤や湖水が氾濫して「コリムスク」の周圍數百哩の森林がまるで太洋と變じて仕舞うから他國との交通は全く絕える、之等の沼澤は冬季になると悉く氷で張り詰めて了(しま)ふから馴鹿の橇車で驅け渡ることが出來るけれども、氾濫

の餘は淺い處でも人の股を沒するので到底も渡りて行くことが出來ない。

此處では夏といつても、別段日光の美も、花卉の麗もあるといふのでないから、大して愉快なことは無い、但水蒸氣と雲の峰とは隨分面白い。如何に晴れ渡つた日でも太陽は霧の幕に被はれて幽かにしか見えない。又雨が大變よく降る、時としては數日の霖雨に小屋は雨漏りて流れさうになることがある、殊に晝となく夜となく蠅や蚊の群に攻められるので、一層不愉快でならない、此の時季には最も病氣が多い。其中についても濕氣に中りて發生する熱病が最も夥しい。傳染病の如きも屢々流行して、吾等が此處に居る時も痘瘡か荒れ回つてゐた、最も之れは主に、土人中間に流行るので歐州から來た者には殆ど襲はれたものがない、又中央亞細亞と同じく癩病も土人間に流行する、露西亞人の最も罹り易いのは氣管枝炎であつて、之は特に春季に多い、けれども之等の諸病に對しては避病院もなければ、又豫防の方法も全く備つて居ない、追放人の中に「ミスキービッチ」と呼ぶ醫學生があつて、此人は出來る限りの力を盡して病人の看護や、傳染の豫防等に骨を折つた、併し何分、藥品もなければ醫療器などは勿論一つも具つてゐないのであるから、折角の盡力も全く無効であつた。余は前に此處に病院があるといつておいたが、行つて見ると、まるで馬小屋のやうで、半分は雨や風の爲めに全く朽ち果てゝとても人が住まれさうにもない、他の半分には樣々の綵ひをして、漸く土人の一家族が住んで居つた。




（露國と日清韓）

## 流罪人の奇病

然し斯る肉體上の病氣よりは更に精神上の病氣の方が激烈であつて、死亡者も一層夥しい。其病氣は即ち「ヒステリー」のやうな種類であつて、主に婦人中間に流行するが、一般に役人や追放者の男子間にも幾分か之に冒されて居るものがある、此病氣の襲うのは極めて不意に來るので、今まで何事もなく、靜謐に落付いて、坐して居つた者が俄然大聲で叫んだり、歌つたり、又は跳り出したりする。一度斯うなれば、もう一生其病人の精神は元の通りにならない。此病氣に罹つてゐる者の最も不思議な現象は、他の聲音や擧動を少しも違はず、眞似ることである、それで余は次のやうなことを實見した。或夜余は追放人の家に招かれて、いろ／＼當地の模樣などを聞いたり、語つたりしたことがあつた、其の時坐には其追放人の同

僕が澤山來合せて居たが、其の後數日經つて、余は其席に交つて居つた露西亞の一婦人に街道の眞中で出會した、此の婦人は此處で生れて、此處で育つたのであるから、固より此土語の外は知つて居る筈がないのに、其女は直ぐさま吾が兩手に取りついて、巧みにも、余が其時友の「クリンカン」氏と話した言葉を佛蘭西語のまゝで、明らかに繰り返し繰り返し云つた、此の奇妙な病氣は同じ西比利亞の殖民地中でも外の處には絶えてないそうである、而して其の源因は無論明らかには分らないが、多分此地の堪へがたい氣候や又は地の底へても這入つたやうに天地が只もう寂寞で見るもの聞くもの一として變化がないといふことなぞに因るものらしい。されば本來此の病氣は此地特有の一風土病に過ぎないものと見える、其れが證據には此處の警察署に勤めて居る一醫部の娘が數年前矢張り此の病氣に襲はれたが、「ヤクツク」の方へ轉地した爲めに漸く癒えて了つたといふから。併し境遇上止むを得ず、轉地することも出來ないて其のまゝ此處に留つて居る者は二三年も經つと今度は到底癒えることの出來ない眞の狂氣に變じて仕舞ふのである。

此惡病を豫防するには隨分工夫が出來ないこともあるまいと思はれる。例へば政府が之れ等追放人に何か考へ仕事でも與へて精神を他に轉じさすやうにすることも善い方法であらう、さすれば例へ無報酬でも彼れ等は乾度喜んで其れに從事するに違ひない。ところが政府は極めて冷淡なもので罪人の身體や精神には何如なことが起らうとも一向無頓着のやうである。數年前に追放者は多勢の小供を寄せ集めて之に物を敎へることを許されたので、以前よりは遙か愉快に暮されるので、彼等は非常に喜んで居つた、然るに其後間もなく「セントピータースブルグ」から令が出て此唯一の特權てすら終に取消されて仕舞つたのである!!

（完結）

# 晩年の成功者

(一)亞米利加の大銀行たる「モルガン及ドレクセル銀行倫敦支店」はゼーエスモルガン氏に依て代表さる、氏は初め單に書記として渡英せし人にて其中年を過ぐるまで少しも人に知られざりしが、亞米利加鐵道の大買收及び太西洋滊船の大合同より俄に世を驚がし、今やピーヤポントモルガンの名は世界に尤も大なる響を與ふるものとなれり。

(二)サー、ロバート、レードがかの大冒險を企て、世の注意を曳きし時は彼年已に四十五歲なりき、今や彼は實にニューファウンドランドの王と稱せらる。

(三)蘇古蘭人ドーナルド、スミス氏は十五歲の時ハドソン灣會社に入り刻苦勉强五十歲を過ぎて後事務役を辭せしが、夫より投機を始め、ジムヒルなる仲間を得たり、此男はレッド川殖民地に荷物を運搬しつゝありし男なり、かくて二人は工業央にして拋棄せられある鐵道を買收して西加奈陀鐵道を敷設し今日重要部の一たるウィンニペッグ市を創設せり、而して今や彼は加奈陀の高等事務官たると共に軍事々務官を兼ね、モントリール府に向ては一大病院を贈り、大學を惠み、而して更に三百万磅を以てストラスコーナホーストと呼ばるゝ加奈陀聯隊を建設して帝國に捧げぬ。

(四)千八百六十年合衆國陸軍大尉たりし已に壯年を過ぎたる一武官、グラントと稱する一人は、ミッゾウリ州のセントルイス市にて軍用防壁を車にて運びつゝありしが、五年后には合衆國陸軍大將の名簿中にユーリセッス、エス、グラントの名顯れ、更に三年を經て彼は大統領の職にありき。

(五)那威の大詩人ヘンリイク、イブセンが其名高き處女作「社會の敵」な

嘗さしは五十歳を超へし后なり。

(六)ショートハウス氏は四十七歳にしてバーミンガムの化學品製造者なりしが、彼は二十餘年間隙々に小説に筆を初め、完結の上印刷に付して、僅かに友人間に配付せしが、之即ち英國語にて書ける小説中最も有名なるものゝ一たる「ジョンイングレサント」なり。

(七)空氣入ダイヤーの發明者たるダンロップ氏は其當時六十歳をすぎたり。

如此事例を列擧すれば尙多きも、玆に面白き對照を示せる事あり、即ち英國人は結果を善からしめん爲め、先づ最初の出立點を誤め、少時より將に發達し得べき事業或は有望なる事業に着手し、之を除々に成し遂ぐる風あるも、米國人は浮薄にして投機的性質を帶び、一事より他事に此より彼と、幾度となく業を換へ、一舉巨万の富を得んとする風あり、さればこれが爲め亞米利加には一朝の富豪甚だ多く、英國には多年蓄僨の富豪多し。

# 螢火亂點

▲伊太利に　は家屋に近く接して米を作るべからずとの法律千八百六十六年より施行さる、米田は最も蚊の發生に適すが爲めなり。

▲アリゾナ　は世界に有名なる馬の價廉き國なり、一頭平均廿四圓

▲穴中其他　にて挨息する動物にて視覺を有せざるもの百七十二種有り

▲英國の陸軍にて現時身長の尤も高き者はメクローと云へる一近衛兵にて六呎十吋四分の三の丈ケ有り

▲全國の海軍は一昨年の一年間に、一昨々年より三千八百七十五人の人員を増せり

▲世界一の　健康國民は英人なり佛蘭西人の死亡七に對し英國は六

▲佛蘭西の　葡萄畑、現今四百万エークル

▲全國には　八十万頭の家犬有り、其税金四百万圓に上る

▲メキシュ　のシーラマドレ山間に、近頃發見されたる瀑は世界一の長き瀑なり、曲折無く直下九百七十八呎有り

▲ライン河　上に千八百八十四年四百六十七の蒸汽船有りしもの、現今は千百八十三艘有り

▲瑞典には　今猶用ひつゝあるものとしては、歐洲第一の古船（恐くは世界第一）を有する國たり、エマニエル號と名くる兩桅船にて、昔て牛御用船たりしもの、今猶材木運搬用に用ひらる、千七百四十九年の昔に建築せしもの

▲ニコーヨ　ルクはセントペテロスブルフと同じく、人間の行方分らぬ事件最も多き都府なり、去年一年五百八十人の生命全く不明となれり

▲一千八百　九十一年英國にて女子の數男子より多きこと八十九万六千七百二十三人、十年後の千九百一年には增して百零八万二千六百十九人となれり

▲北米合衆　國去年一年間に費せし石炭三億噸に上る

▲葡萄牙は　歐洲各國中、石炭の産額一番に少なし、一年の發掘高二万二千噸に過ぎず

▲英國は一　万三千方哩の炭田を有す

▲土耳古に　は紀元五百四十年の昔、已に入港船に對する檢疫の法律出來たり

二、▲ポンペー　の市街は猶發掘をつゝけつゝあり、然れとも今の割合

にて除々發掘せば、完全に工事を了はるには今後猶三十年を要すべし

▲白耳義の　人口は一平方哩に五百九十九人、ベネヂユラは僅に四人

▲伯林市に　一千三百三十の公けなる建築物有り、其中八百二十三は政府に四百九十七は市に屬す

▲英國牛津　のイートン校は一千人の少年學生を寄宿せしむるの設備有り

▲專賣特許　を得るに白耳義にては僅に五十圓を納むれば足る

▲印度及び　ロンドン間は十五日にして郵便を受授す、フイジー島とロンドン間は早き時猶三十五日を費やす

▲ナポレオ　ンが作りしシンプトン山道には、二百六十四の橋梁有り

▲火星は地　球よりも一日に就て四十八分間長き晝を持つ割合となる

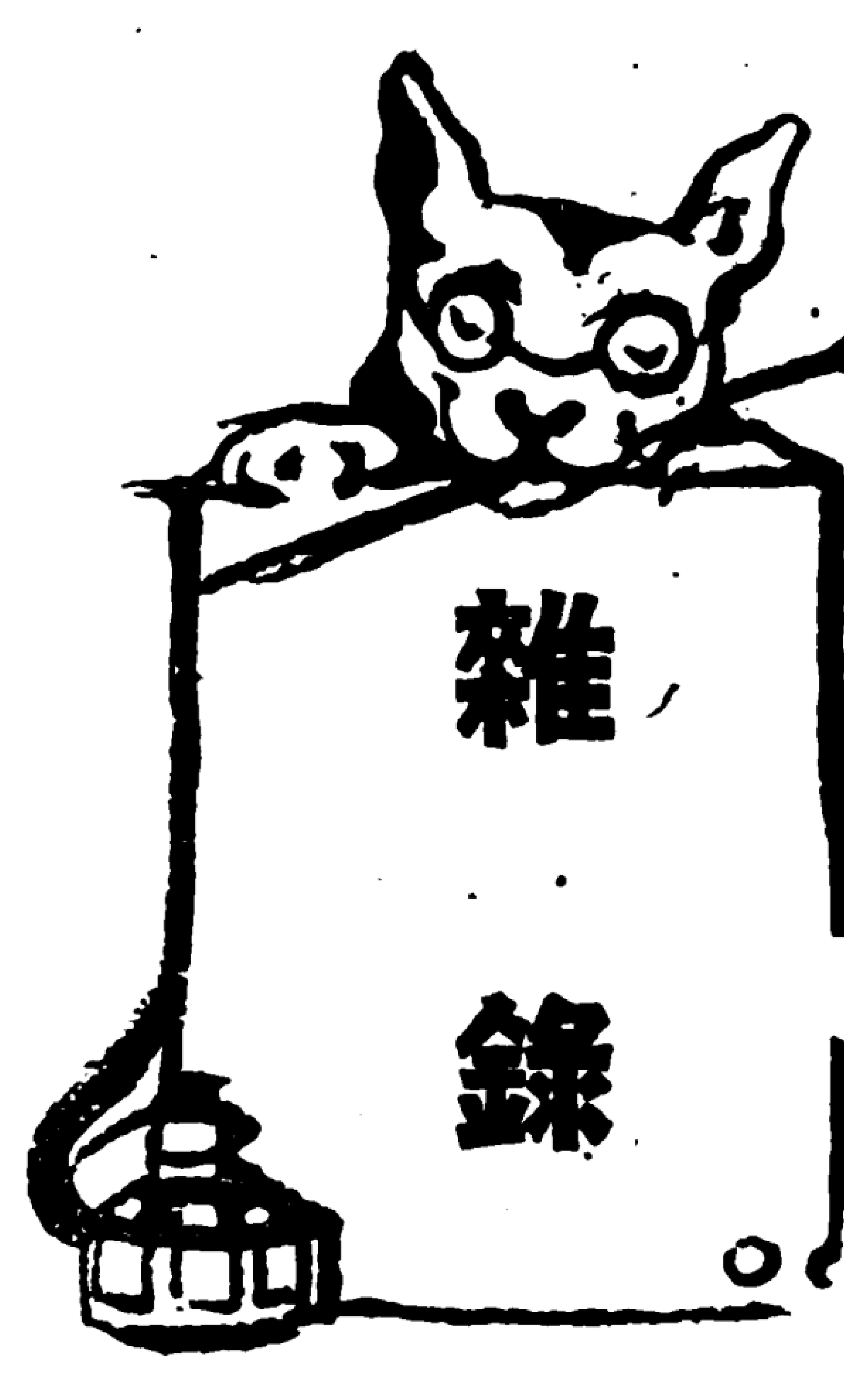
▲ロンドン　にて一日間に、使用する鹽は平均十二噸か或は其上に出づ

▲幻燈機の　最も大なるは直徑九呎に畫を映じ出だすものなり其の價、千五百圓を要す、又これに要するレンズ一個の價は、四百圓を要す

▲普通岩石　の中にて動物又は植物の痕跡を全く見る能はざるもの、只花崗石のみあり

▲北米合衆　國は加奈陀より四十四倍の新聞發刊數を有す、然れども人口は十五倍に過ぎず

▲全合衆國　にて黒人の家屋總計、最近の統計にて二十六万四千二百八十八軒有あり




# 日本と歐米の新聞（下）

斯波貞吉

▲論說小說其他　總て外國新聞の論法は、我邦新聞の論法とは非常に相違して居る。日本の新聞て論說を書く人は漢學の素養はあるが、割合に科學の素養に乏しく、外國の文章などは充分に咀嚼しないで書くから、何うしても漢文の口調が脫けない。寧ろ漢文に接近することを努めて居るのであるから、今でも八家文的の論文を新聞社の社說に於て見るのである。或る外國新聞は「滑稽なる論文」と題して、或る日本の新聞の論

説を譯して、讀者の犧牲に供したことがあつた。併も之は有名な文章家の書いたものであつたが、論旨が餘りに不合理で、單に文字を修飾したのみであつたから、譯したものは實に滑稽に想はれた。日本の新聞の論說を讀んで、文章は旨いと云ふ人があつても、成程と說に感服するものが少ない。之は文章ばかりでなく、書く人の知識の程度にも依ることとてあらうが、何うも人心を動かすに足りないやうだ。中には文章の構造ばかり注意して、最初から間違つた前提を置いて論じて居るものがある。之では如何に文章が旨くとも感心の仕樣がない。又正味は二三行ばかりのことを、長々しく書いて居るものがある。兎に角新聞の論說は主張てあるから、人を動かす所がなければならぬ。讀者に文章を評せらるゝやうでは、最早主張となつて居らぬのである。恰も人を說服しやうとして、自分の顏の美醜を批評せらるゝやうなものである。相手は疑ひもなく自分の說を冷笑して居る。我邦の新聞には眞に國民の一部を代表し、或は一團躰の眞の機關たるものが少ないから、隨て歐州（米國には機關新聞多からず）諸國の新聞の如く、論說に重きを措かれないやうであるが、歐州諸新聞の論說は外交上の問題を決するに足ることがある。例へば或る問題に關して英國の「スタンダード」新聞に斯う書いた、獨逸の「ケルニッシエ、ツアイツング」に何う論じたと云へば、直ちに夫れが其國々の政府の意見として、外交上の態度を改めることがある。或る問題が起る每に、續々電報を以て國々の重なる新聞の論旨を傳ふるのは之が爲てある。日本の新聞の論說が、此程度に達するにはまだ遠いことてあらう。夫から外國新聞の論文が、普通の文躰と異なることは無論である。兎に角論說は人を動かすのが主であるから、感動を與へぬ間は、いくらでも書き續ける必要がある。故に充分の餘地を存して置いて、併も一回每に人を感服せしめなければならぬ。之が普通の文に異なる所で、普通の文章ならば有りの儘に自分の主張を述べ盡せば夫れで善いが、新聞の論說ではさうは行かぬ。英國の或る新聞で盛んに或る問題を論じて居つたとき其問題に關して權能を有する人と稱すべき或る大學敎授が、態々其新聞社の主筆を訪問して、其問題に關する論文を寄せたことがあつた。主筆は其論文を熟讀して後言ふには、誠に遺憾なく論ぜられてあつて結構ですが、若し相手が此論文を讀んでまだ降服しなかつたら何うなさると云つて尋ねた。すると敎授は夫れて降

服しなければ相手が馬鹿だから仕方がないと答へたが、主筆は馬鹿でも何んでもギューの音も出ないやうにしなければ、新聞の論文にはなりませぬと云つて笑つたことがあるさうだ。只學問ばかりでも、又は只文章ばかりでも、新聞の論説は書けないのである。小説は西洋の新聞にも載せてあるが、其一回分は非常に長い。大抵は名高くなつた小説家に書いて貰ふので、隨分驚く可き高い原稿料を拂ふやうである。別に新聞の小説として異なる所はない。夫から日本の新聞に乏しいのは探撿家の談話、若しくは旅行家の記錄等である。探撿家は日本に多くないのだから致方ないが、旅行日記の如きものは、今少しく興味あるものが出來さうに想はれる。孰れも千篇一律で、何處を旅行した記事も格別に變つたことがない。之は着眼が外國人と違つて居て、依然漢學流の思想しか持つて居らぬからであらう。實に外國新聞の旅行記事は我新聞界のみならず文學界に於ても、大に研究すべき一種の美文であらうと思ふ。

▲印刷の不完全、報道の遲延　我邦の新聞の發達を鈍からしむるのは、一つは文字の不完全なる爲である。多くの活字を要するため、印刷場の面積を要することも多く活字を拾ひ集むるにも多くの職工を用ひなければならぬ。外國にてはリノタイプ印刷器械を用ひ、一人の職工椅子に依りて記號を押せば、直ちに字形を印して速座に一行毎の鑄形を造る如き便利は日本の文字を用ひて居る間は思ひも寄らぬことである。故に記者が原稿を書き終りて印刷に附するまでに、西洋の新聞よりは餘程多くの時間を費さなければならぬ。之が爲に報道の後れることは、文字の改良せられない間は致方のないことである。外國の議會の記事は議會に在る新聞社員より續々電話にて本社に通じ、本社にては電話にて聞きながら、リノタイプ印刷器械にて之を速記するから、議事の了るときには新聞社にても鑄形の出來了るときである。此樣な迅速なことは、日本では到底眞似も出來ない。併し追々に迅速なる方法も發明せらるゝであらう。夫から外國では一日に幾度となく新聞を發行して、報道の迅速を努めて居る。我邦にても近來一版二版三版などを出して居るものがある。現に萬朝報朝日時事も之を實行して居るが、まだ今日の事を今日報道すると云ふ譯に行かぬ。否行かぬ譯ではないが、讀者が其必要を感じて居らぬ。田舍などへ行くと二三日も新聞をためて置いて讀む人がある。東京でも

朝の新聞を晩に買つて讀む人がある。取次所から取れば、配達が遲くても安いからと云つて平氣な人がある。まだ一般の國民が報道の迅速を要求して居らぬらしい。之では新聞がいくら骨折つても駄目である。外國の或る片田舍で、新聞の配達を待つと後れるからと云つて、毎朝電報で近傍の市街から新聞の記事を傳へて貰つて居る所がある。此電報の配達と新聞の配達とは、僅に二時間の遲速があるのみだと云ふことだ。我邦では報道の遲速どころではない。全く新聞を讀まぬ人が澤山にある。否讀めぬ人も澤山にある、又新聞業の最も發達して居る匈牙利では、時々刻々電話で報道する新聞もあるほどだ。我邦では外國のことを度外にして居るから、一日に幾度も新聞を出す必要もない。外國では晝夜となく他の諸外國から電報が來る、其電報が商業などには非常に影響することであるから、新聞社は一刻を爭ふて讀者に報道する必要がある。日本でも實際は迅速に報道する必要があるのであらうけれども、其必要を感じて居らぬ丈進歩が外國に後れて居り、又後れつゝあるのであらうと思はれる。

▲新聞の發賣數　新聞の賣れ高て、國民の進歩の程度が分るとのことであるが、之は實際である。最も多くの發賣數を有する新聞は、米國紐育の「ウォールド」新聞で、其發賣數は百万枚に近いとのことである。露國の「ノーウォー、ウレミア」は、名高い有力な新聞であるが、四五万枚に過ぎないさうだ。「タイムス」の如きも十万を超えない。東京で萬朝報などは十二万枚で。今尙二臺の輪轉機を三臺に增さなければならぬほどに、讀者が殖えて居るから、先づ賣れ高で言つたらそんなに少ない方ではなからう、巴里の新聞にも世界の賣れ高の多い新聞の中に數へて居つた。併し國民一般に就いて言つたら、新聞購讀者の數は外國に比して非常に少ないてあらう。田舍では村役場の外、一村に一枚も新聞の入らぬ所がある。曾て萬朝報の社員が探涼に出掛けて、或る村に珍らしい立派な瀧のあるのを發見して、村民に何うしてこんな立派な瀧が世間に知られないで居たかと云つて尋ねたら、こんな所だから來る人はないのであらうと答へたので、イヤ汽車の便利もある、知つたら來ないことがあるものかと云つて、其後新聞に其事を書いた。すると續々人が出掛けるやうになつた。村民は俄に人が來るやうになつたので、驚いて其故を探ると、皆新聞で知つて來たと云ふことが分つた。そこで又新聞の勢力に驚いて、新聞は村を

繁昌にして呉れた有難いものだと言つて、其村では各戸盡く萬朝報を取ることになつたと云ふことである。個様な場所は今尚諸所に少なくないやうだ。此人智の程度では新聞は兎に角、國の進歩が覺束ないやうである。併し之を進めるのも新聞の役目である。

▲將來の新聞　今後諸國の新聞紙が何の樣な發達をするか、之を豫想するのは素より六かしいことである。外國では將來の新聞は、有らゆる科學上の新知識を與ふる書物の如くなるであらうと云ふものあり、或は又全く小說の如きものとなつて、新聞以外に小說はないと云ふやうになると豫想するものあり、又時々刻々に幾回となく色々の出來事を報道して、恰も幾度も號外を出すやうなものになると云ふ人もある。孰れの說が善いか定むることは出來ぬが、兎に角新聞は今後益々迅速に世上の出來事を報道し、且益多方面に亘りて種々の知識を授くるものとなることは、確實に豫想し得らるゝことゝ思ふ。我邦の新聞も、必ず此方向に進むであらうと思はれる。隨て記者の學識も一層進まなければならぬ。歐米の新聞記者は、少なくとも三個國以上の國語を知らなければならぬ。此等の事は我邦の記者にも追々に必要となるに違ひない。新聞記者の業を學ぶには、新聞社以外の場所に於て學ぶことの出來ないのは勿論であるが、新聞記者となるに就いての資格は、大に進められなければならぬ。又新聞の價値を進めるには、讀者も大なる關係を有するものである。新聞は讀者が全く要求せぬ所のものを供給することは出來ぬ。新聞は種々の滋養物を讀者に勸めることは出來る。然しながら全く讀者の好まぬ滋養物を、無理に食はせることは出來ぬ。世には又惡德新聞を攻擊する人がある。併し惡德新聞を造るのは讀者である。若し惡德新聞を讀んだり買つたりする人がなかつたならば。惡德新聞は決して存在することを得ぬ。詰り讀者の要求を滿足せしむるがために、惡德新聞も生れて來るのである。故に讀者が進まない間は新聞も矢張進まないのである。勿論之は程度の問題で、新聞は職として讀者を誘導しなければならぬ。只吾々は、新聞の發達には讀者も大に關係を有することで、新聞のみを責めるのは間違ひであると云ふことを以て此稿を終るのである。

**▲中學罵倒論**（有榮）次號より掲載

# 善魔曰く（其十）　完結

青柳有美

○人は熱を食はざるべからず。是れ生理學家の知らざる營養質なり。是れ、人類の特權なり。

○天才は演繹し、凡才は歸納す。

○北米合衆國の帝國主義は、東大陸の諸勢力によりて其平野の分割せられんとするを怖るるより來る。

○或る人に依頼して第三者の爲に職業を索めしめんと欲せば、よろしくこれを送りてその許に寄食せしむべし。然らずんば容易に周旋しくるゝものに非ず。

○國民によりて其趣味を異にするは、其體質を異にすればなり。

○神谷傳兵衛製造近藤利兵衛發賣の『香竄葡萄酒』は、日本葡萄酒界の大勢力にして、世間また此の名を識るもの多し。焉ぞ知らん、これ亦その始め『甲產葡萄酒』の聲韻を剽窃して、賣弘めを計らんとせるものならんとは。

○『新小說』などの附錄繪葉書に、便利なる斷截孔を穿ちあるは、實に日本人種が甚しき無精ものなるを證明す。

○ショウペンハウエルの人情に通すること、遙にベーコンに如かず。

○人の『生』を欲するは、これ『生』を欲するに非ずして『死』を恐るゝなり

○女子の長所として男子に勝れたるもの一あり。その配遇者と子孫とを思ふの切情なり。されど、これ又利己心より來る。即ち保護者を失はんことを憂るなり。

○老人たらんことを欲するもの、宜しく能く眠るべし。

○苦痛の永續は、人をして遂に之を感ずること薄きに至らしむ。是れ宇宙主宰神の無量慈よりなり。

○人生に緣りて得るところは幸福に非ずして經驗なり。しかも、其經驗たるや、來世の爲にあり。

○人のなほ幼なるや皆な盜心あり。菓子を盜み金錢を盜む。これ人間本來の性に盜人根性あるを證す。これ生存競爭の虎の卷なり。

○米國新聞に於て驚くべきは、姦通と姦通に因れる殺害事件の多きにあり。これ皆な男女交際の自由にして、しかも離婚の困難なる爲めなり。

○玆に二元素の化合體あり。これに第三元素を接す。時に先の二元素忽ち分解して、その一は遊離しその一は新元素に合す。これを制せんとするは即ち天に逆ふ

なり。法律は遂に天則に勝つべからず
〇嫉妬は生存競爭の動力なり。
〇女子は初等教育時代に於て、其進歩力遙に男子の上にあれども、高等教育時代に至れば、其進歩力の遲々たること實に驚くべし。否な女子は或る一定の程度以上、到底進歩する能はず到底理會する能はざるなり。
〇藝者の力むべき修養の一は決して金錢を談らざるにあり
〇我れ有美品行方正の人物たらんが爲に、將に女郎を買はんとす。
〇基督口を開けば曰く『これ聖書に錄せしところに適はせんがためなり』と。其意蓋し『古人吾れを欺かず』といふにあり。
〇俳優の技藝上に於ける欠點を知らんと欲せば、須らく遠距離より之を見物すべし。然らば、觀る者を動かすところ、その『人』に非ずして唯其技藝たらむ。
〇人を重んずる勿れ。
〇一縣に多數の中學あらば、各その授くるところの外國語を異にせよ。假令へば四校あらんに、その二つは英語にして、一は獨逸語、他は佛蘭西語なるが如し。
〇ドウスル連は、義太夫の發達に欠ぐべかざらるものなり。
〇基督を『神の子』といふは、皇帝を『天孫』といふが如し。
〇子には數々不肖のものあれども、兄弟は概ね平等なり。性情智力に受くるところ、其源を一にすればなり。
〇支那朝鮮にありて皇后皇太后政を攝る時、又外戚の勢を得るもの甚だしきに至るは、女子の男子に接するを忌む國習ありて、その引見し懇談し得るところは、僅に緣故の男に限らるゝを以て、勢ひ唯其助言に聽きこれに依賴せざるべからざるに至るを以てなり。
〇天才は望遠鏡の如し。遠きを望むに適すれども、近きを觀るに適せず。
〇書を繙ひて卷首を讀むこと一二章、而して全卷の意を諒察し得ざる輩は、全卷を讀了するも又遂に其意を解せざるべし。
〇婦もし夫の爲に苦まざるべからざるに至れば、茲に夫の力量を輕ずるに至る。
〇小兒は先づ初めに人の顏を書く。而して圖畫練習の終極はこの人物畫にあり。又人長するに及んでのち漸くトーンの應用を知れど、小兒は初めにたゞ線畫を書

くのみ。人物畫より始めて人物畫に終るべき綸畫術、豈に又線畫より始めて線畫に終らざらんや。
○生きたる正當の夫ありながら、衷心なほ寡婦の念あるものあり。しかも、此くの如き夫の天下に名ある男子たるを悦び、其妻たるを誇ること是れ女のヴァニテヰーなり。
○ドーデーの語に曰く『我れは卿の爲に打ち却けられんことを知りつゝも、なほ切りに卿を甞め纒はんとする犬の如し。あゝ我れは死に至るまで卿を愛せん』と。
○化合は熱を生ず。此くの如く男女の愛着も又熱を生ず。故に稱して『熱狂するといふ』。
○近世の學者多くプレトーを却けて而してプレトーに達す。科學も又詩人を却けて遂に詩人の逢着點に達するものなり。
○神よ、あゝ我れに緣雨の文を與へよ。

《結》

## 成功實例（六）一私人

### 馬の彫刻家後藤貞行氏

北條環翠

(1) 能はず軍曹

氏自身の談に依ると、氏の母は既に世の常の人でなかつたのである。歳六十一で獨り富士山に登り、又六十三四歳頃まで絹機を織つて居られたさうだ、馬の彫刻家後藤貞行氏は正しく其母の氣象と才藝を受け繼いた人に相違ない。

廢藩後明治四年に國元を出て、三田福澤先生に學び、後暫く靜岡に居て父に別れて三年にして再び東京へ出たのである。其時に氏の妻君が乳呑兒を此世に遺して氏に殉じようとした一事は名工の內助者としてこゝでいふ必用がある。

氏は東京に出て多少成功する迄には百轉千轉しても屈せず起たねばならぬ、それで一度妻の精神を確めて置きたいと思つて「此儘では到底行末長く安樂に添ひ遂げる事は出來ないから、生きて居て恥を曝すよりも寧そ共に死ぬ氣はないか」といつた時に「お母さんに先立つ不孝は濟まないけれども殺してくださいい死にます」と明答した、そこで互に世の名殘を惜んで、氏は短刀を妻君の胸に押し當てゝヤットー聲刺し通さうとしても、泰然として口に靜かに念佛を稱へて居るから、氏は嬉し泣きに泣いて事の仔細を告げて、明治七

年廿七にして陸軍教導團に入り騎兵になつた。旣に此時馬に趣味を有して居たのである。十年役に出て無事に歸つた翌々年かに母を亡つた。

前後十年間軍曹を務めて「能はず軍曹」と仇名せられて居た、といふものは馬の彫刻に精神を打込めて仕舞つて外の事は一向構はない、每年々末の試驗に算術でも答案は「能はず」と書いて出して平氣で居る。こゝに於てか「能はず軍曹」の名があるのである。然しながら「能はず軍曹」の將來を見よ、彼は決して「能はず軍曹」に終るべき者でない。とは誰も技術を研究する爲めに薄給の全額を投じて居るから、日增しに生計の困難を來した。こゝに於て「能はず軍曹」は內職に

### (2) 石版印刷業

を創めた、但し卷煙草とか箸削りとは內職が違ふ。且其由來を聞かねばならぬ、一日所用があつて銀座を通ると、和田屋と額面用の繪を賣る店の奧の方に、いゝ油繪石版がかゝつて居るのが眼に附いた。軍曹嘗て戸山學校の畫學の敎官をして居たから繪の事は充分知つて居る。店へは入つて其繪を見せよといふと、貧乏軍曹のポッケットでは駄目だといはぬ計りに「お直段が高いからいけません」と一言で退けられた。軍曹殘念でたまらない、歸つて早速妻君のもの其他のもの、旣に賣り盡して僅かに殘つて居るものを二束三文に替へて、石版印刷の術に骨身を碎いた。哀れなる軍曹は隊が退けてから夜業をするのに、妻君は男の子を柱に括り附けて置き、女の子を背に負つて車を廻す、大方三時頃まで掛つて居た。熱心が困難に打勝つて、出來上つた繪は楠公父子訣別之圖、ナポレオン、大久保利通、グランド將軍等であつた。いよ〳〵遺恨十年一劍を磨き上げたから和田屋へ持つて行くと、主人が「大層よく出來きて居ますが、何處でお求めになりましたか」といふ、實は斯樣と次第を語ると主人は驚いた。其翌日和田屋から五十圓持つて石版印刷の御入用にといつて、これから刷れ上つた繪はどうか手前共で一手販賣を御願ひしたいと申込んで來た。軍曹は此內職で二千五百圓程金を得たから、地所家作も買ひ又初一念を貫く爲めに、彫刻に用ひる器械などを揃へ、いよ〳〵專門的に研究しようと思ふて石版業をやめて暫く熱心にやつて居ると、二千五百圓の金もいつしか使ひ果して、又元の木阿彌になつてしまつた。

### (3) 竹內無學先生

先づ原型から造り上げて一個の小さい馬を鑄るのに日

數は勿論のこと五六十圓の金が掛る。當時の給料では僅かに家族の糊口を支へ得らるゝといふ位に過ぎないから、固より原料を買ふべき餘裕はなし、又其時分に死んだ馬の足や頭を貰つて來て解剖して彫刻の材料にして居たので家の中が臭くて誰も寄り附くものがなかつた。然し氏は藝術の犧牲をきたないと思つたり、又藝術の研鑽に友なきを悲しむ樣な薄志弱行な人でない、然し材料に供する資なきを悲んで居た、遂に兎も角も妻子を里方に預けやうとして、長男が通つて居る學校の校長の竹內無學先生に其兒の退校を告げんと、事情を有りの儘に語ると、無學先生相學をも兼ねて居る人で、別に修身社といふものを結んで社員の運命を相して吉凶を告げ常に人々を警戒し或は教示して居る。先生曰はく「來年の三月まで待つがよい」と氏も亦正直だから直に其言に從つた。

其年今の大山陸軍大將に知られて陸軍軍馬局へ廻り、青旗といふ御料馬を預る事となつた。それで其馬の銅像を鑄ようと思つて苦しい中から無理にそれ〲準備を整へて鑄て見ると、格好といひ、風丰といひ、膚合といひ何ともいへない程よく出來て居た。氏は天を拜して喜んだ。だから之れに鍍金を掛けやうと思つたけれども、鍍金を買ふ金がない、其時の相場で僅かに一圓五十錢であつたけれども、無いものはどうしたつてない。天品を得て最後の一抹を試みやうといふ時に繪の具が盡きた時、港口に入つて今一梶で船が着くといふ時に暗礁へ乘り上げた時、殆ど其遺る瀨なさは變るまい、妻君が八百屋か何處かへ行つて居る間に、簞笥を搔き探して月々の賄ひの金があつたから盜み出して、銀座へ驅け着けて鍍金を買つて歸ると今更の事でもないが、子供の哀れな姿が目に附く、垢で車の母衣の樣に光つて居る上に、綿がぼろ〲下つて居る、氏は思はず其子を抱いて今買つて來た鍍金と、子供の顏を見比べて居る處へ、妻君が歸つて來て樣子を察して、何ともいひ得ないで唯ホロ〲と淚をこぼして居る。隣り近所は、はや正月の松竹が立てゝある、羽子突く音も聞える、氏は鍍金を仕事場へ持つて行つて淚を揮つて、磨き立てた、益々光りを添へた、軍馬局の人々に見せて非常な賞贊を得たのである。

翌年ある日のこと、宮內省から軍馬局に繫いである馬を五六頭率ゐて赤坂假皇居へ參れよとの御諚で、後藤貞行氏は青旗に乘つて御前へ出た。竹內無學先生の鑑相適中した。

て青旗を乗り廻して　天覽濟になると御厩課長某が後藤氏を呼んで青旗の銅像が鑄てあるさうだが、唯今天覽に供へるから、此馬車に乘つて行つて持つて參れとの事て、徃年能はず軍曹宮內省の馬車に鞭を鳴らして軍馬局に走せ、銅像を携へ來つて差出すと、御厩課長は之れを陛下の直御前に捧げ奉り、青旗をも引き出して、双方御見比べになり、御褒詞を頂戴し、其儘御留置きになつた、此時の氏が喜びは到底吾人の想像の及ぶ所でない、飛んで歸つて其事を妻君に話しても仲々信用しなかつたさうだ、程なく金品の恩賜に預つて、流石に物に感じ易き女氣の狂せん計りてあつたさうだ。後又御愛馬金華山の銀像も勅によりて造り、同じく御滿足の由仰せ下された銀杯に水を汲んで母の墓前に供へたとの事である、次に楠公銅像の馬を造る時藥剤强アンモニアによりて圖らず一眼を失つた、刻成つて先づ木像を、兩陛下の御覽に入れた時に像の傍にて御說明を申し上ぐる後藤氏に向はせ給ひ、其眼はいかにせしぞと御尋ねありしぞ由々しき、勇士が戰場の負ひ手、見えぬ眼にも御惠みの光が映じたに相違ない

（此項完）

# 米國殖民だより

米國加洲　篠原沼東

## 太平洋岸のサンピトロ港

一千八百九十八年、議案はじめて米國々會を通過し、越へて二年初夏、開港大祭の式を擧げたる、彼のサンピトロの築港も、最早其の工事の半を遂げ候。今より三年を經候得ば、全く其の竣功を告ぐる由に候。斯くて米國は、桑港、シャートルと共に、太平洋岸、三大貿易港を得候。

同港は南加州の中央、ローサンゼルスを去る、西南二十一哩、安全港としては、寧ろシャートルに優る可く候。

北米大平洋岸に通ずる航路は、由來概ね桑港を中點として、北方シャートルを有するも、南方五百哩の長沿岸に於ては、未だ一の世界的港灣を存せず、唯僅に其の南隅に僻在せる、サンデーコ港を見るに過ぎざりき。さればサンピトロの築港は、獨り南部加州の開發に止まらず進んで西南米洲の地をして、之を世界の中心に連絡せしめ、やがては桑港と共に並び起つて、大平洋

貿易の中心を爭ふの日、敢へて遠きを期せず候。事若し然らんか、是れ豈に我國民が、他山の石とのみ觀過す可きことに候はんや。

## 東洋米の勁敵

現に綿花の產出を以て、世界の市場を左右しつゝある合衆國は、亦米穀を以て、世界の市場を壓倒せんと努め居り候。

米產地は、ミスシツピー河岸より、南部及び中部ルイジヤナ州を經て、東南部テキサス州を過ぎ、ブラゾマ河以西に達し候。其の延長四百哩、幅員約そ四十哩。此地初めは、一面不毛の荒野に過ぎざりしも、たまく白人の地下の利源を穿索するに際し、計らずも此に自然的大池水あるを發見せられ、やがて好乎の米產地たる可きを推知し、これより中央西部の民をはじめとし、東の方新英蘭、紐育州、若しくはミチオソーダ州の、瑞典那威人なども頻りに移住し來りて、開拓耕耘を專らとし、草萊蓬々たる米大陸の一部は、忽ちにして穰々たる新稻田となりぬ。

現耕地は三十五萬エーカー(一エーカー四段)に過ぎざるも、若し尙ほ溝渠を通じ、河川を引き、亦た勞働者其の人を得ば、更らに五百万エーカーの水田を得る、必らずしも難事業にあらずと聞及び候。

收穫は元より一様ならざるも、平均一エーカーにつき、百六十二斤入のもの十俵を生產し、豐年に際しては、十四俵乃至十五俵にも達する由に候。

現耕地より生ずる米產額は、凡そ二百萬バレル(百二十八万二千石)にして、合衆國內、消費高の三分の二を供し、其の歐洲に輸入せらるゝものは、既に東洋米と同様の價格を以て賣却せられ居り候。

されば米人間には、早くも左の比較を以て、米國米と東洋米との將來を論ずるもの有之候。

一、日本勞働者は、米國人に比すれば、賃錢非常に低廉にして、僅に其の六分の一に過ぎざること。

一、灌漑概ね天然の給水に依ること。

一、苅入、打穗、すべて手機械を用ゆること。

以上は日本農業者の、米國人に比して、割合に資金を要せざるの利あるが如きも、其の仕事の不規律なると、餘りに小仕掛けなるとは、其の最も著しき缺點にして、一人の耕作し得る所、僅に一エーカーの四分の三に過ぎざるべしとの事に候。

一、米國農業者は、勉めて機械力の應用に依り、其

の仕事は迅速に、且つ規律あり。
一、灌漑は悉く揚水喞筒を用ゐ、一工場よりして、一分時間、六万乃至七万ギャロン（一ギャロン二升五合）の水を、水流上三四十呎の高所に吸ひ揚げ、之を大溝渠に送り得るの便あること。
一、耕鋤、播種、すべて馬力機械を使用し、能く人力の幾百倍をなし得ること。
一、收穫に際しては苅入機械（人口の二百倍）ありて、一日にして能く、穰々たる稻田何哩を苅り得ること。
一、打穂には蒸氣力を用ゐたる、巧妙迅速なる機械に依りて、籾と米と藁とを分ち、米は自から嚢中に納まりて、一日百四五十嚢（百六十一斤入）を作り得ること。
、是れ米國農業の大仕掛けなる所以にして、一人の農夫にして、なほ百エーカー（一エーカー四段）以上の稻田を耕作し得る所以、而してまた米國米が早晩東洋米を壓倒し得る所以なりと申し候。
古來農本國として其の豐穰を誇りつゝある我國民、以て如何の感かある。此地洵に我事業家及び農業家が、其の新手腕を振ふ可き、好移住地の一にあらざるかと存じ候。

## 模範殖民地

サクラメント、バレーの極西、四千呎の高山によりて、寒暑の氣候を融和せられ、冬季温度、平均四十八度、夏季七十一度、晴天、一年平均、凡そ二百五十日、降雪を見る僅に十ケ年一度の割合をなすもの、これ彼の櫻面（サクラメント）都郡の氣候にして、海面を拔く漸く三十呎乃至八十呎の平野に候。
一千八百三十九年、ゼネラルサターの、メキシコ政府より、領土を此地に給與せられ、サクラメント河と、アメリカ河との合流地に於て堡壘を築き、專ら菓物園を起さんとせしもの、是れ北部加州開拓の始めにして、現今の櫻府市街は、即ち其の當時の農園に候。
菓實は當地の主産物にして、其の種類も亦夥しく候。
冬期は、オレンヂ、オリヴ、レモン、
春期は、ストローベリー、ラスベリー、ブラックベリー、
夏期は、アップルカット、プラム、ピーチ、ペアー、
秋期は、九月初旬より四五週間、葡萄の採摘期なり
我移民に依つて創設せられ、白人間なほ、模範的殖民

地として知らるゝフロリン村は、實に此の櫻府を去る十哩、桑港の東方百哩の地に候。土地豐沃に、氣候溫和に、一年平均溫度七十五度、盛夏の候と雖も、尙ほ九十度を越へず候。

日本人の同村に入り、始めて耕作に從事せしは、千八百九十四年、廣島縣人中川某、和歌山縣人吉田某の兩人にして、ストローベリー及び葡萄の栽培に從事せしが、其の結果の頗る良好なりしよりして、千八百九十九年頃よりは、來住するもの漸く繁く、現今に於ては最早我國人所有の土地、四百五十エーカー、借地反別一千四百エーカーにも及び居り候。

日本人の能く此地に成功したる所以は、白人は概ね細耕小農に拙なくして、殊にストローベリーの如きに於ては、屢々失敗をのみ重ねしも、日本人は總じて手先き器用なるが故に、此等の栽培に就ては、却つて其の妙を得、着々希望の途に向ひ得たるものに候。今は唯だ益々同村の成功を祈るのみに候。

## 加州の黃金鄕

桑港を距る南方二百哩、サンオーキンバレーの中央に位し、加州黃金鄕として知らるるもの、是れ即ちフレスノ郡に候。

布市の殷盛を來たせしは、僅々三十年來の事にして、サ市に後るゝ亦三十年に候得共、其の繁盛の速かなる、遙かに前者の上に有之候。

當地は葡萄の產地として世界に冠たるもの、葡萄園の段別五万エーカー、乾葡萄の產額、約七千五百万斤、此の賣價凡そ四百万弗、加州乾葡萄の四分の三を製出す、尙ほ此外、所謂二番葡萄と稱するものは、概ね葡萄酒に釀造せられ、三百万ガロンの葡萄酒、即ち加州釀酒の五分の二は、布市より產出致し候。

每年十一月頃より、翌年三月頃迄は、當地の降雨期にして、恰も我が梅雨の候にも比す可く候得共、爾餘八ケ月は、通じて晴天のみに候。殊に夏季の乾燥期長く、太陽の射光と、大氣の乾燥とは、最も能くレーズンに適應し、自からフレスノ郡をして、葡萄生產地の冠たらしめ、黃金鄕の名をなさしめ候。

此地海面を拔く、僅に四十呎乃至八十呎の平原にして、極寒三十度、極暑百三十度、而かも健康を害するに至らず候。

葡萄の收獲は、一エーカー凡そ七十五弗より百五十弗前後にして、耕作及び取揚費用を合して、一エーカー

僅に二十弗乃至三十弗に過ぎず候。此地の賣價は、未だ葡萄の植付けなきものは大低五十弗内外にして、既に植付けを終り、最早收獲の期に達したるものは、中等地、約三百弗位に候。若し又た小作業に從事せんと欲せば、當市內、レーズン農業組合ありて、收獲を抵當として金員を貸し付くるの組織あれば、多額の資金を要せずして、借地の便を得候。借地料は總じて一エーカー四十弗以上五十弗に候。目下當地にては、我移民所有の土地二百四十エーカー、借地六百五十エーカーに候。

葡萄收獲期は大低九月初旬より十月初旬に至る、五六週間にして、此間勞働者の集ひ來るもの、日本人のみにてもなほ五六千人を下らず候。而して其の短期日に於ける賃金、一人平均百弗(二百圓)を減ぜずとは、眞に黃金鄉に於てのみ見得可き事に候。

斯かる金儲け多き場所だけに、また女郎屋、賭博場も隨分繁昌致し候。聞くが如くんば、三四年前迄は、其の賃金三分の二は、大低此等卑猥の地に於て蕩散せし由に候。然るに近來我移民間に於ても、漸々土地買入れの風行はるゝに至りてより。其の弊習も亦次第に衰へ行きて、昨年日本人の支那バクチに散ぜし額は、一昨年に比して概算僅に三分の一に過ぎずとは、支那街にての噂に候。

兎にも角にも、日本殖民の成功は、唯だ其の國民が家族と共に來住するの一事に候、而して終に永住の計をなす事に候。

借問す天下の新平民諸士、卿等は今尙ほ故國の邊隅に、社會的侮蔑を甘じつゝも、彼の大平洋沿岸の地に、新日本創設者の名譽を擔はんとするの氣力なきか。米洲は自由の地なり、社會的階級なき國なり、奚ぞ卿等が善良なる日本國民の來住を拒まんや。

## 北米勞働者の慣習と長技

各國其の風習を異にするからには、其の國民も亦特殊の慣習を有するは、敢て異とするに足らざるも、此頃北米勞働者間の狀態を瞥見したる所、大槪左の如くに候。

(一) 伊、葡二國以外の白人勞働時間八時間乃至九時間、すべて仕事に規律あり。屋內整頓、外部よりも却つて內部の裝飾整理に重きを置けり。

衣服淸潔、品質の如何を問はんよりも、先つ其の垢付

きたるを恥ぢらうの風あり。
食事善良、美旨風味を食ふよりは、滋養分を取るを以て主意とするの傾向あり。
總じて生計上、最も能く衛生經濟に意を用ゆる白人の美風に候。但だみだりに團躰の力を利用して、稍もすればストライキの弊害を醸さんとするは、彼等が現時の長所にして亦短所に候。
フルーツの栽培は最もよく彼等に適し候。

（二）　伊太利及び葡萄牙人

勞働時間最も不規律にして、氣の向きたる時は晝夜を分たずして働き、意の進まざる時は二三時間にして怠り、半日にして止め、若しくは又終日徒食して顧みざるが如し、全然氣隨氣儘主義なり。
食事頗る粗雜、寧ろ其の胃嚢を充たせば足る。
衣服亦最も不潔、而かも敢へて介意せざるが如し。
屋内亂雜一種不快の臭氣を帶ぶ。其の夫人亦多く懶け勝ちなり。
彼等は氣概なく、進歩なく、また不平なき所、如何にも悠々として、自ら衰弱國の面影を示し候。
野菜の耕作は彼等の長所に候。

（三）　支那人

勞働時間とて、敢て規律あるにあらざるも、早晨より日没に至る迄で、孜々として撓まず、縱ひ其の動作の遲緩なるにもせよ、我慢強くして、根氣よき所、到底他人種の及ばざる所に候。
彼等は意外にも團結力に富み、貯蓄心を有し、而かも亦緻密なる思想を有す。是れ彼等が到る所排斥の聲高きにも係らず、必らずや一方の勢力をなす所以と存じ候。
家屋は概ね清潔なりと云ふを得ざるも、食事は總じて上等にして、寧ろ白人にも優る所あり。
衣服は依然中華の服を改めず、辮髮長く其の背後に垂れて、一見頑陋なる保守的思想を示せり。
ポテトーの耕作の如き、稠密なる手入を要するものは、最も支那人種に適する由に候。

（四）　日本人

勞働時間大低十時間、其の動作の迅速機敏を以て名あり。
衣食共に支那人と伊太利人との中間と見ば足れり。
若し其缺點を擧げ候得ば
一、仕事の粗雜にして無責任の傾向あること。
一、一時に多く儲けて又た一時に浪費せんとするこ

と。
一、猜忌の念強くして其の敵を愛するの量に乏しきこと。
一、最も能く小言を云ふこと。

に候。されぱとて、ストライキでも起して大陸を震動せしむる程の、氣力も團結力も無之候。

但し他人種に比して割合に清潔なると、低廉なる賃金を以て働き、而かも最も敏捷なる點よりして、到る處好人氣を以て迎へられ居り候。

大根まびき、葉物の摘採り等には、最も其の妙を得たるものに候。

## 氣候の變化と國民の氣力

昔者希臘のヒポクラス云はく、同一なる氣候は懶惰を養成し、變化ある氣候は心身の勞働的努力を誘導す、而して安逸と懶惰とは卑怯を生じ、勞働的努力と辛苦とは勇氣を生ずと。また幾分の眞理を穿てるものに候。

一年常春の布哇よりも、常秋の桑港よりも、余は寧ろ極寒三十度、極暑百三十度のフレスノを愛し候、而して布哇は我移民の最も健康を害し易く、桑港は懶惰者の集合地に候。

日本程の國に於て、近頃名聞的避暑避寒などの流行、漸くさかんなるが如きは、是れ畢竟其の國民をして、惰弱卑怯ならしむべき、社會的遺傳をつくるものに外ならず候。

## 田園生活の獨逸人と市街生活の伊太利人

序ながらに、當地に於ける獨乙移民の概況を述べ候得者、彼等は、概ね中部及び西南部の地方に移住致し居り候。これ畢竟獨逸移民の癖として、一般に市街生活を厭ふの傾向多きより、自然斯かる人烟稀疎の地を選びしものかと存じ候。

割合に文盲の徒少なき事勞働を重じ、正直に、忍耐力に富む事、思考力に長じ、原理の研究を好む事、是れ總じて彼等の長所とか申候得共、宗教心の乏しき事、現金主義なる事、酒を嗜んで粗野のきらひ多き事などは、却つて遙かに我移民に過ぎたる由に候。

人樣々には候得共、總じて最も市街生活を好むは伊太利人にして、最も田園生活を愛するは獨逸人との事に候。市街と云はず、田舍と云はず、兎にも角にも、到る所一團躰を組織して、常に一方の勢力をなすものは、

支那廣東の移民に候。不思議にも彼等は、一種の團結力を有し、忍耐力を有し、最も頑固なる保守的思想を有するは、或は彼等が現在の短所にして、而かも亦將來の長所たるやも計られず候。若夫れ日本移民に至りては、市街生活も微々たるものにて、概ね田舍勞働に候得共、其の根氣の程も、亦支那人には敵しかぬる樣子に候。如何なる故にや我勞働者は一般に、仕事の有無、賃錢の多寡を問はず、いづれも同所に長く、定住することを嫌ふの傾向有之候。デーウオークよりはピースウオークを喜び、半ヶ年も引續く仕事よりは、一二ヶ月にして仕上げ、諸々方々へと飛び廻ることを好むの習風有之候。是れ亦た、胸に永住的心算の絶無なるが爲めに候ら半か。

## 日本人の所在地

加州に於て、日本人の所在地と云へば、其の範圍はかなりに廣き方に候。ハンバルト、ソノマ、メーリン、サンフランシスコ、モントリー、ベンチユラ、ロスサンゼルス、サクラメント、フレスノ、サンタバヽラ、サンマテオ、サンタクラヽ、サンタクローヅの諸郡、到る所に散在致し居り候得共、その勞働者の、主たる集合地とも見る可きは、サンタクローヅ郡のサンノゼ、ワッソンビル附近、モントリー郡のサリナス、キャストビル近傍。サクラメント、フレスノ所在とも云ふ可きか。

縱ひ五六十日間に過ぎず候得共、加州葡萄の本場たる布市の如きは、夏季收獲期に際せば、隨分とも盛況を呈する由に候。我が勞働者、凡そ五六千人も集合可仕候。其の賃金平均七十弗と見積るも、總額約四十萬弗を減ぜずとの趣きに候。かくて其の大半は、概ねチャイナバクチに失はるゝとは、さても亦一奇聞に候らはずや。

怪しむ勿れ、敎育なく、趣味なく、家庭なく、永遠の計もなく、只夫れ短日月に於て大成功を射り、やがて蘇秦の嫂をして郊迎せしめんとのみ、夢想せる彼等にとりては、賭博心投機心の盛なるも、寧ろ當然の病弊かと覺へ候。ひとへに黃金を目的として起れる、西班牙殖民は、頗るこれに類似するものありき。而して只今たゞ、失敗の歷史を見るのみに候。米人間一種の諺あり「日本人は額に汗して支那人を養ふ」と。嗚この罪果して何人に歸す可きか。實に嘆はしきは彼等の狀態に候。

## 日本人の土地所有者

九千九百八十二萬七千二百エーカーの全土、其の農作地、三千万エーカーを有する加州に於て、我移民の所有地は凡そ左の如くに候。

| (地　名) | (エーカー) | (姓　名) |
|---|---|---|
| さくらめんと郡ふろりん村。 | 四〇、 | 巽　榮治郎 |
| 同 | 八〇、 | 松田及山田組 |
| 同 | 八〇、 | 小柳　平吉 |
| 同 | 八〇、 | 西本　滿之助 |
| 同 | 一、〇三、 | 田中　新太郎 |
| 同 | 三六、 | 横井新左衛門 |
| 同 | 三〇、 | 石川　組 |
| 同 | 四〇、 | 天野　才兵衛 |
| 同 | 八〇、 | 石垣　健三郎 |
| 同 | 二六、 | 田中　組 |
| 同 | 四〇、 | 中村　組 |
| さくらめんと郡ゑるぐろーぶ。 | 四〇、 | 池田　組 |
| ふれすの郡ふれすの。 | 四〇、 | 隅田　寶一 |
| 同 | 四〇、 | 河野　才吉 |
| 同 | 四〇、 | 毛利宇一共同<br>前田寅吉 |
| ろーさんぜろす郡ろーさんぜろす。 | 一五、 | 平泉　小二郎 |
| 同 | 五、 | 池田　百松 |
| もんとりー郡さりなす。 | 五、 | 北與　三松 |
| さんまてを郡さんまてを。 | 七、 | 竹山　祐嗣 |
| あらめだ郡ふるつべる。 | 三五、 | 堂本　譽之進 |
| さんふらんしすこ郡ゑんぐるさいど。 | 三、 | 木村　某 |

なほ此に三千万エーカーとせるは、現在の耕地のみに候得共、開拓灌漑其の人を得、其の道を盡さば、たやすく膏沃の田園たる可き万頃の荒野、茫々としてものさみしげに、新主人の來往を待ち居り候。日本を狹ましとする程の事業家、農業家、未だ其の新手腕を振ひて、新日本を起す迄ての氣力なきか。

幸に讀者諸君と記者足下の益御健勝を禱り候匆々

### ▲英國殖民の盛況

佛蘭西も獨逸も殖民地經營に本國より財を投ずるに反し、英國の諸殖民地、いづれも本國の補助を仰がざるのみならず、本國の財政を助くるもの丶みなり。唯南阿弗利加のみ本國の補助を受け居れり、これ戰後の經營止むを得ざるに出づ。

# 思潮

## 我工業界の悲むべき現象

「實業の日本」　男爵　澁澤榮一氏

紡績事業、絹布製織事業、毛織物、麻織物製紙鐵工其他の工業は從來の經過寧ろ寒心すべきものあり、殊に紡績事業は最近に於ける我國の大工業として世人の注視する所なりと雖も、一二を除きては利益極めて薄く、其好況なるときに辛ふして多少の配當を爲し得るも少しく不況なるときは欠損を生ずるもの往々にして少なからざるなり、毛織物の如きも晩近發達の趨勢を呈したるに拘らず、事業は往々にして失敗し、後藤毛布製造所の如き悲慘の運命に陷るものあり、其他試驗事業としての製鐵所の如き大失體を演出しつゝあるは世人の熟知する所なり、今や僅に政府事業として辛ふして之を維持しつゝありと雖も、之をして民間事業たらしめは其破產失敗に了るべきは既に二三年以前にあり、又造船事業に於ても長崎造船所の如き三菱の力を以て能く之を維持するありと雖も、其他は多くは薄利益に甘ずるか然らざれは損失せざるなし、要するに最近勃興の工業なるものは何れも皆良好の結果を奏せざるものゝ如し。想ふに之が原因としては舊式廢殘の機械を使用せるに依るもあるべし、技師職工の不熟練原料の買入に其法を誤れるものあるべし、最初の設計は不完全不備にして後年永く損害を來たせるもあるべく或は資本欠乏し高利の借金の爲に利益の大部分を擧けて利子支拂に充當せるものもあるべし、特に之が經營者其當を失し措置其宜しきを失したるもの最も多きに居るが如し。蓋し事業利益の擧否は主として人物の如何に存す、能く事業の大勢に通し勤勉精勵久ふして屈せざるの人を得て始めて其發達を期するを得べければなり。其原因の何に存するを論ぜず、各種事業の多數は損失し若くは少くとも薄利なるは疑ふべからざる事實なり、換言すれば內國工業品は品質に於て外國品に劣り價格に於て却て不廉に失するを以て、外國市場に於て外品と競爭するの困難なるのみならず、內國市場に於ても亦却て外國品の爲めに壓倒せらるゝの感あり、夫れ利益の存する所人爭ふて投資すと雖も、利益の薄少なるは何人も避けて趨かざるなり、過去に於て盛に膨脹したる我工業の前途伸張力に乏しく寧ろ退縮に傾きつゝあるを見て、世人が此方面に對する投資を躊躇するは蓋し怪しむに足らざるなり、故に今後國內に於る需要の大に增進するにあらざれは我工業の前途必らずしも大に望ありと稱する能はざるべく、吾人の竊に憂慮して措かざる所なり。

## 青年處世の心得

「警世」　伯爵　大隈重信氏

諸君が學びし學問と、この社會とはまた特別なもので、なか〱諸君の想像の及ぶところでない。一歩社會に踏みだせば、四面みな敵——優勢なる敵が諸君の面前を塞いでゐる。伏兵がしば〱起つて、諸君の不意

を擧つ、豫めこれに備へる譯には往かぬ。今の青年が世に出て事業を爲すに當り、初はなか〳〵元氣壯んなれども、困難に出遇ふか、世事意のごとくならざれば、直に屈托挫折するのが多い。すべて世間を慷慨して不平家となつてしまい、終には厭世家となつて唯一身を潔くせんとするこれは既に敵の俘囚となつたのである。

厭世觀は良心の發動であるから、實は貴ひ心理作用ではあるが、人は血氣が壯んでなかられればならぬ。釋迦の樣に千古の立法者とならば兎もかく、われ〳〵は時としては血氣を猛んにして此の弱い心を敲き潰ぶすべしてある。

私は是まで、どんな困難に出遇ふても愚痴はこぼさぬ。慷慨はしない、全体慨慷して千里の途を往かれるものでない。屈托して途中で斃れてしまう。

世の中は一口にいへば善惡の戰である。而して惡の勢力は中々恐るべき者である。併し私が事物に當つて失望しないといふのは、其の惡の方面を見ずして善の方面を見るからである。惡人もやはり善を慕ひ惡を憎むの情は一つである。湯に這入れば血液は皮膚全体に擴がつて、脳中には少しも惡ひ考はない。好い心持になつて寢てしまう、眠むつてしまへば惡人も聖人も變りはない。人間の性質は皆一なのである。私などは世の中に惡人はない、敵はないとコウ信じて往くから、世の中に恐ろしいものはない。

漢の時代には名節を尊んだ。曹操の樣な絕代の人物——クリスチヤンにしたならクロムウエルの樣な人物、天下を取らうと思へば何時でも取られる、取りたくてたまらぬけれども取らぬ、名節を重んじたからである。

世の中の制裁といふものには如何なる英雄も反抗はできぬ。善の力は實に強いものである、終局の勝利は必ず善に歸する。青年は慢りに世の中が腐敗したとか濁ごつてをるとか慨慷ぜずに、此の過を大悟せればならぬ。風紀が紊れたとか、澆季になつたとか、これは支那人の口調である世季なんて云ふものはあるものでない。

# 臺灣人の宗教心類別

「臺灣協會々報」記者

臺灣人は如何なる宗教を奉ずるか、今臺北監獄囚徒の臺島人六百三名に就き全監獄教誨師が調査したる所を聞くに、全く信仰なき者三百三十五名、稍や信仰心を有する者二百六十八名ありたり、其信仰心を有する者を種類別して記載すれば

| | |
|---|---|
| 觀音菩薩を信仰する者 | 八九名 |
| 天公を信仰する者 | 四三 |
| 土地公を信仰する者 | 二三 |
| 天地を信仰する者 | 一五 |
| 眞宗を信仰する者 | 一四 |
| 媽姐婆を信仰する者 | 一四 |
| 關帝（關羽）を信仰する者 | 一三 |
| 廣澤尊王を信仰する者 | 一一 |
| 保生大帝を信仰する者 | 九 |
| 城隍爺を信仰する者 | 七 |
| 曹洞宗を信仰する者 | 六 |
| 淨土宗を信仰する者 | 六 |
| 耶蘇教を信仰する者 | 二 |
| 佛祖を信仰する者 | 二 |

| | |
|---|---|
| 仙公を信仰する者 | 二 |

其他太陽公、玉皇三太子、伯爺公、帝王公、上帝公、祖師公、天上聖母、玉爺公、卒天尊王及び日月等を信仰する者各一名

次に信仰する目的を種類別に記載すれは左の如し

| | |
|---|---|
| 幸福を祈る者 | 一一五 |
| 金儲けを祈る者 | 五九 |
| 家内安全を祈る者 | 五一 |
| 悪を知り善を爲す爲に信する者 | 一九 |
| 意味なくして盲信する者 | 二四 |

次に信仰の出所を種類別に記載すれば左の如し

| | |
|---|---|
| 自から考へて信ずる者 | 一一六 |
| 祖先傳來の儘に信ぜる者 | 六七 |
| 他人より傳聞して信ぜる者 | 三三 |
| 父より教へられて信ぜる者 | 三一 |
| 布教師より教を受て信ぜる者 | 一六 |
| 母より教を受けて信ぜる者 | 九 |
| 父兄に伴はれて宗教に加りし者 | 八 |
| 宣教師より教へられし者 | 一 |

又前記各囚徒の教育程度は無筆者四百廿七名、卒ふして姓名を書き得るものより、三字經四書五經を讀み得るもの百七十六名なり。

# 警察と社會の公德

「東京教育時報」　警視廳第二課長　松井茂氏

大さに於ては英國の倫敦、支那の北京にも次ぐべき我東京は人口百八十四万でございまして巡査は三千人許りも居ります、所が巡査には欠員と云ふことがありまして其甚だしきに至りては三百人の多きに達することもあります、今日でも九十一人許りの欠員であります、さうして巡査の勤務は諸君も御承知の通り、二十四時間毎の交替で當番と非番とあつて當番の二十四時間をは、一派出所に於ては三人の巡査にて勤務して居る又欠員がありまするど二人勤務となります、若し規則通りに三人てあつたならば一人は一時間休憩して一人ば、一時間見張をして一人は一時間巡回すると云ふ樣な勤務方法と成りて居りまして、翌朝八時に替勤することである、それで、一時間他の人が見張をして居る間に一時間丈け甘く寢られるかと云ふと左樣の譯には行かないのであるそれでは非番には規則通りに休みになりまするかといふと、決してさうはいかぬ、實に巡査勤務の内幕は諸君の想像するより以上のものである、私は巡査の辯護士ではないが此事は一應申述て置く必要があらうと信じます、幾ら雪が降ても雨が降つても、何程寒い晩でも、それ「ペスト」それ强盗といつて殆んど不眠不休に献身して居ります、實に自分の身躰を公共の爲めに犠牲に共して居ります、警視廳に於ける巡査にして職務に倒れたるものは其數二百人の多きに達して居ります、其職務の爲めに斃るゝのに兵士の軍事に於て斃るゝのと異なる所はない、それで規則の上では一ヶ月間に於て十五日間非番がある譯でありますが實際に於ては非番の日に於て武技の演習會にも出なければならぬ、それから又、法律の研究會にも出席せなければならぬ、又例の戸口調査といふ者なども非番の日に於て之を行ふのであります、それに又休日たるべき非番の日に於ては行幸啓の御警衛それペストが發生した、やれ兩國煙火の取締だとかいう樣な具合に必要に應じて出さるゝのであります、それて頻繁なる警察署では實際上暇は得られないのである、さうして立番巡査の取扱ふべき職務の範圍は

中々廣いものであります、之に反して伯林や、倫敦などの警察に於きましては、車体衛生營業などには各専門巡査の役がありまして之が監督官たるべき者も各分業的になりて居るのである、例へば劇場寄席などの取締に關しては警視廳に一人の立派なる書記官が課長として其下には試補もあり又筋書檢査の爲文學者が三人斗りも居ります、其他騎馬巡査の役も夙に行はれて居るのである、要するに我邦の如き不公德なる公衆を有する此の如くにして公衆の警察官に對する尊敬心は彼の如く巡査の人員の少きことは此の如く其職務の繁劇なる事は此の如くである、それ故何程警察の方面で盡力しましても其目的物たる公衆の人々か自ら守るといふ觀念が欠けたならは決して公德といふものは、行はれまいと思ひます

# パナマ運河の概況

「經濟協會に於ける演說摘要」　峰岸繁太郎氏

(一)哩數　大西洋岸のコロンより太平洋岸のパナマまで直徑三十六哩、運河に多少の迂回あり四十七哩となる。

(二)地勢　高低不同、大西洋面は緩斜面にて太平洋岸は高し、然れども其高きところにて三百呎乃至四百呎の海拔、運河の爲に土塊一億二千萬立方メートル除かざるべからず。

(三)事業　合衆國て引受けしに就てコロンビヤ政府へ一千万弗運河會社三千万弗を合衆國より拂ふことゝせり、着々捗取りつゝあり、竣工期限今後七八年を要す、竣工まで一億四千万弗を要す、所々寄船場を設け一万五千噸位までの商船及び軍船を自由に出入せしむるの豫定、且つ兩方の入口を自由港とする計畫、通過の時間は、十一時間に十四分。

(四)結果

1、米國の東海岸と西海岸接近。

2、東洋に向て歐洲よりの距離大差なしと雖、スエズは營利會社にて一噸二弗の通過料なるも、パナマは一噸一弗にて猶其上に低減せんとする意向有り、歐州の船舶大概此航路を取るに至らん

3、日本の生糸茶の輸出米國よりの機械類輸入共に便利なり。

4、同時に米國は已に生產過多に苦み居れるを以て、此運河を利して米國產を多く東洋に送り、支那朝鮮滿州等の日本の商品を驅逐するの恐れあり。

# 女子に必要なる性質

「成功」　鳩山春子

私の考にては、女子は從順で、一酷でなく、サッパリとして、活潑と、快活なのがよいと思ひます、女子にとりて、一酷なのは甚たよろしくありませぬ、例へは、禁酒禁煙の如きは、其事は至極結構であるか、さりとて、それを餘り嚴しく考へると、萬一其の良人か、酒を飲み、烟草を喫む癖かあるときは、不道德家として夫を責めなければならず、互に心持を惡くして、琴瑟の和を害する事になります、故に、此の如き事は、今日の日本の狀態では、適度までは之を看過するのも、亦た已むを得ないかと思ひます。

次にサッパリとして、快活なることが、必要であります、隔意なく、全情の念を以て、自然人を喜ばす樣な氣風が必要であります、婦人かこう

云ふ氣風でありますと、一家も自ら和睦して、親類朋友の交際も工合よく行くのであります、

之に反して、妄りに愚痴をこぼしたり、悪い顔を人に見せるなど云ふ事は、大に愼しまねばなりませぬ、世の中の事は、何事も自分の望み通り行くものでない、それを一々不平を起して、愚痴を云ふたり、悪い顔をしたりすると、家内の治まりも自づと悪く、他人との交際も圓くいかぬ様になるのであります。

女子の普通教育だけは、是非受くる様にしたいものです、教育がありませんと、女子は兎角物の道理が分らず、猜疑心をおこす傾があります、併し如何に教育を受ければとて、自惚がつよくなつて、妄りに人を輕蔑する様な事は、愼しまねばなりません、女子と云ふものは、躰質から云ふても、能力から云ふても、遺傳から云ふても、我日本に於ては、到底男子には及びません、中には女子でも天晴男子に立ち優つて居るものもありますが、それは至つて稀れで、概して申しますと、如何しても女子は男子に及びません、私は男の子も、女の子も、共に教育して見ましたが、初めの中は、女子の方が進歩が早い様ですが、十三四から後に至りますと、男子の方が女子よりも著るしく進歩いたします、故に、女子が少し許り教育を受けたからと云ふて、自惚れるのは心得違ひであります

## 高等小學の三年四年を廢すべし

「太陽」　江原素六氏

東京市の小學制度に就て、私は一つの改良意見を有つて居る。それは他でもない、市内の公立小學校の中で、四萬圓位も掛けた大きい學校になると、皆高等小學の三年四年を置かれてあるが、之れをば廢止して、其の代りに尋常小學を置くと共に、高等小學の一年二年を併せて置くことを必ず行ふ樣にしたいといふのである。何ぜそう申すかといふに、一躰、高等小學の三年四年なるものは、左程の必要がない、高等小學の二年を卒へたる者が、進んで其の上の學校に入らうと思へば、直ぐ中學校や高等女學校と連絡があるし、其他の低い學校に入るにも差支ないし、又た小學丈けで止める者のためにも三年四年が大したる學力を與ふものでもない、だから今日の處では、つまり中ぶらりんの者が入つて學ぶ樣になつて居る、此の如く高等小學の三四兩學年は、實際上左程の必要なく、否寧ろ餘計なものゝ如く見られてあるのに、多くの費用を投じて之れを置いて居るは、決して當を得たものでない、それだのに、高等小學の三四年を置いてあるのが多いのは、何ういふ譯だらう、私共の眼から見れば、此の如きあまり必要なき事に多くの費用を掛けるよりは比較的に必要で有益なる事に其の費用を投ずる樣にして欲いものだ、だから、私の改良意見といふのは、現在市内の公立小學校に、少なからず置いてある高等三四年をば、斷然と廢止して、之れに投じつゝある多くの費用を省き、それで、尋常小學四年の外に、高等小學の一二年を併せ置くことを、是非とも行ふ樣にしたい、そうすると、其の結果は、新たに小學校二十を増加する位の生徒を收容することが出來る、これは確かに調査して見たのである。

Without prinple, every movement is a step towards fall.

( Ram Krishna. )




## 旅亭の曉

片上天絃

あしたをつぐる雞は
をぐらき鳥屋を下りたちて
その羽ばたきもいさましく
東雲をこそさけびけれ
小窓をひらきながむれば
見よちからなくうすれゆく
星の光りもかすかにて
灰色の雲きえんとす
まだ曉の空ふかく
風のさやぎも音たてず
ならぶいらかはさながらに
巨人のねむるごとくなり

みなとに泊てし百船の
檣頭のともし影うすれ
波のひゞきもしづかにて
まだふなうたの音をきかず
軒端をわたるあさかぜは
葡萄のたなをおとなひて
葉音のさやぎこゝちよく
人の眠りをさましけり
とみればちかき山のはの
ならぶ小松の梢よりぞ
まづあけそめしこゝちして
やゝしのゝめは揺ぎけり

みよ松が枝のうすぐもは
南にきたにたちわかれ
このまをすきてさしそむる
あかねににほふけさのそら
ほのめきいでしほつ峯の
あさあたらしき光りにぞ
のこれるやみはかききえて
甦へりたる天地や

○

げにも旅路は夢ならず
あさひ輝りそふそらなれば
ながるゝ峯のしら雲も
はるけきすゑを慕ふとや
君にわかれてけふよりは
こゝろづよくもわれひとり
なつ野の草をふみわけて
幾むらさとをたどるらん
たびには馴れぬこゝろにも
姿さだめぬ人のよの
かのうきくもと身をなして
たゞよふ空はありとかや

## 鳩吹

繞石選

鳩吹いてさてつぶやいてさて去らず　摩天嶺
鳩吹の跣足露けき袴かな　初聲
鳩吹や柿熟したる明屋敷　天易兒
鳩吹けば鳩鳴くやうな心地して　萩生
鳩吹くや森の鴉の餘所心　琵湖舟
鳩吹を吠えて居るなり寺の犬　鳳梧桐
鳩吹や寺の木魚の一しきり　魯佛
鳩吹や狐狸につままれ神の森　柳家
鳩吹や山ふところの古社　繞横
鳩吹や寺の後ろの茶の木原　同
鳩吹や林を出てて小菜畑　蝶衣
鳩吹や黍刈る人に話し寄る　同
鳩吹を狐のだます花野かな　芒生
鳩吹や物これよりぞ秋の聲　同

俄雨鳩吹去んで仕舞けり　丁堂
里暮れて鳩吹去るや子守歌　同
鳩吹の遠音曇りて蕎麥の花　牛歩
榛の木の一路閑なり鳩を吹く　同

本回に限り三座を置かず

選者吟

鳩吹や此處らよかろと物の陰
鳩吹くや扨ては來りし鳩の聲
鷹匠の昔を夢に鳩を吹く
鳩吹の後ころ姿や朝ぐもり
鳩吹くや森をはなるゝ鳩の影
鳩吹の鳩待ち顔や閑却す

八月分課題　稲妻（七月十八日迄）
九月分課題　藥堀（八月十八日迄）

## 青すだれ

光風撰

○　羊愁生

大空を仰ぐ心のいや高し戀も苦惱（なやみ）もしばし忘れて

人知れぬ戀のなやみを歌によみてひとり誦しみるひやゝけき笑み

戀歌を小瓶に秘めて埋め置かん同じ運命の人あらばとぞ

ほゝゑめる他の子抱きて頬すりて我を父よの聲きかまほし

絶へず來て旅人憩ふ野邊の石敲かば戀の秘歌あらん

○　正富汪洋

美しき其のにて肌は言はずしてこゝに二年君と戀しぬ

狂ふとか非ず醒めたる一人子ぞ殺さるゝ迄世と闘はむ

詩の神に抱かれながらほゝゑみて招く君見て笑へば覺めつ

戀傲り榮（はえ）の歌にし狂はずば若き身つひに置所無し

われに似し人はゲーテかさあらずば常盤抱ける清盛なるらん

○　磯野魯佛

詐りの衣飾り得ぬ此肌を清しとめづる聖おはさずや

○　飄零生

世の中をもだえ〳〵て瀧つぼの水沫となりし人の子あはれ

○　田中花涙

別れては再び逢ふの時し知らずさすらふ旅の月にや泣かん

順禮に報謝まゐらす垣のそと卯の花こぼれ水流れゆく

夕虹の燃ゆる思に得堪へぬよ御神の業と眼蓋ふ子の

○　　羽田叢雲

歌會をへて更け行く夜半のおばしまに藤の月みる人美しき

風をり〳〵卷簾にさはる高樓にまどろみがてら遣の月みる

○　　山田野梅

納屋うらの枇杷の果實(このみ)も新しきいのちこもりて露したゝれり

かりそめの家居柴垣日あたりの二葉朝顏萠えいでにけり

にはとりのなく聲ながく麥の秋かたやま里のひるしづかなり

見たりわれ水鏡して山姫があをばあらしに朝髮とくを

○　　栗山直扶

片折戸叩く鳥帽子に花ちりぬ朧月夜を吹く風もなく

まきむくの檜原は暮れて入相の鐘に麓のさくら亂るゝ

舞ひあがる雲雀の曲に春闌けて朝東風靑しをちの麥畑

# 漢詩

柳塘選

## 溪上觀螢

含潤道人

溪暝月未上。輕煙樹杪橫。流水不見色。淙々暗裡鳴。
忽疑捕魚火。螢光灼而熒。三點又五點。纔末次第生。
須臾千萬點。亂爲滿空星。乍開還乍闔。疎密幾變更。
輕々飛拖尾。寂々過無聲。波間隨處影。虛中自在行。
元是根腐艸。緣何爲此形。日月恩不受。風露養性情。
車胤今亡矣。困學誰借明。今宵觀殊壯。吟遊到三更。

刻劃入細、風露句亦妙、

## 野寺讀經

紛々塵事奈難勝。且把金經伴野僧。半逕松陰風外磬。
滿塘蒲響雨中燈。嚼來道味甘於蜜。悟了人生冷似氷。
自悔多年被形役。家山合臥白雲層。

二聯情景兼至、

## 閑亭試茗

乍霽輕寒試茗天。綠陰庭院日如年。漸收燕子花邊雨。
猶罩郭公聲外煙。成化古瓷青秀潤。仲山小草墨清妍。
新芬一啜删塵骨。誰道燒丹別有僊。成化花瓷仲山草書並余所藏

先生襟度洒落自箇中領略來

## 堀切村觀燕子花

雨送麥秋寒入衣。郊亭喚茗水縈圍。遠風吹動尖々綠。
萬紫凌波驚燕飛。

燕子花形容、描寫極巧、

過墨堤

長堤十里雨痕晞、茅店茶煙颺午暉。一夢繁華覺無迹。
綠陰涼處白鷗飛。

綠陰幽草勝花時、亦此意耳、

初夏閑適　　日野梅溪

綠竹猗々三徑開。孤園風趣轉佳哉。籜龍怒躍籬根出。
麥浪湧流山影來。肱枕時欹牽蝶夢。腹書未曝愧豚才。
茅廬雖矮還堪樂。坐見閑雲向岫回。

夢遊西湖

奇夢快行千里程。春湖瀲々淺沙明。香蕉新月花相笑。
影蘸靜波山不驚。游泳躍飛魚服麗。浮沈出沒鴨身輕。
醒來猶訝舟中在。風螿竹陰涼一棚。

梅雨初晴喜賦

水走溝渠琴瑟聽。雨餘快似宿醒醒。新秧稍長蛙聲外。
月射書樓暮色青。

宜園一派好風調

# 西征雜詩（一）

菅桐南

自漢口抵岳州、舟中夜氣爽涼、月色如流、與客相斟、陶然一醉、即作長江之歌、示客、一

源頭不知何處起。翕合百川作一水。天低水高不見涯。
滔々一瀉九千里。我來散髮駕長風。火輪截水太快駛。
須臾大月懸舷頭。遠山如烟落水涘。擧酒俱客賽江神。
波間出沒八尺鯉。勸君眞成愛江山。善愛江山是國士。
君不見北門鎖鑰一解弛。如此江南何所恃。

近聞强隣擁兵在境上、虎視眈々、欲逞圖南之志。燕京社稷、鼎之輕重果如何、誦此詩、不覺按劍蹶起。

弔屈大夫

騷客遺蹤何處尋。煙橫大澤日西沈。神光一點來相照。
萬古茫々汨水潯。

筆端亦放一點神光。

# 南遊雜詩（一）

上原清陰

登香港女王山

山躍海傾天倒開。煤車載我上崔嵬。更凭高閣對風景。
拂袖淸飈千里來。

石閣巍々倚斷厓。悠々山水隔風霾。回頭下望塵寰處。
粉碎香江十二街。香港元有淸泉。名香江。故猶存此稱。

篇首起手雄偉、有天空海濶之氣象。

過呂宋

碧落寒收斗柄低。海風拂暑夜淒々。家山回首三千里。
片帆先過呂宋西。

不費經營處、却可愛。

星陵雜詠

一

朝暮不聞鐘鼓聲。市街只見犬羊行。若無船舶往來事。
一島宛然太古情。

二

滿港晴波映曙暉。悠々鷗鷺近人飛。朱顏鶴髮老縣令。
時汲新湖負得歸。

縣令陀氏齡七十餘。每晨自汲湖水浣浴。

紀實之作、却饒風趣。

三

一歲不知霜雪寒。山河滿眼綠陰鎖。如今風物似驪山。
二月中旬見瓜果。

巧用典故、本土風物、寫得極妙。

四

月照北軒斗柄低。露珠如雨滴空閨。海南風物皆奇異。
未到三更既聽雞。

不經實境、不着得一字。

長州夜泊

萬頃晴波萬里風。扁舟夜泊荻蘆中。長州寂寞無人住。
椰子林端月似弓。

風景可愛。

過赤道懷人

人說坤輿此處分。南溟北渤水連雲。前途無限關心事。
半憶家鄉半憶君。

首々洗刷鉛華、自見高手。

# 評論

## 隨感小錄

零翁

●繁文褥禮は罪惡の奬勵法なり。 所謂お役所流と稱する馬鹿に手數多き書式有るが爲め、心ならずも罪を犯かすもの甚だ多し。

一度拾得物又は遺失品の届出でを經驗したるものは、再び途上に物を拾ひたるとき、又は遺失したるとき、これが届出でに躊躇せざるもの果して幾人かある。

一度スリ窃盜の難を届けたる者が、二度目に其難に逢へる時、餘程の金目に非る以上、之が届出でを拋棄せざるもの果して幾人かある。

一度寄留届や其他の諸届書にて區役所或は諸官廳の受付より出頭の差紙を得たるものは、次の時直接の利害切迫せざる以上、怠慢に附せざるもの果して幾人かある。

これらは皆良心無きが爲めに非ず、所謂繁文褥禮の爲め間接罪惡を奬勵せる結果なり。實際此繁劇なる社會に身計の多忙に追はれ居る者が、途上に物を拾ひたるが爲め、警察へお百度を踏まされ、一圓足らずの盜難に五六度書式の書換へを命ぜられ、捺つた揉んだに馬鹿々々しき時間を徒消して居らるべきに非ず。

大概の届を口頭に濟まし、止むを得ざる諸届書は印刷に附し置きて之を賣下げ、同じ午前九時出頭の差紙を寄こす位ひならば其差紙に此點を斯くすべしと親切に指示すべき筈のものなり。

警察署、區役所、其他の諸官廳に於ける沒融通主義、混ゼッ返へし主義、或は代書人制度等は早く全廢したきものなり。

●晝間の興行物と惰民の製造所。 休み日にも非るに、演劇其他の興行物を毎日午前より開演するは、各

個職業を持てる文明國民の間に見られざるの事なり。

此頃演藝法案なるものを目論み、次期の議會に提出せんと計る者あり。その法案に依れば、演藝開演を日曜土曜の外は歐米の如く午後四時より夜十二時までの間とし、場内の飲食及び幼者の觀覽を禁ずと云ふ。大に善し、これに依て早く惰民の製造所たる面目を改め、晝間勞働の苦を慰する清潔なる娛樂場とせん。

●上野公園の三不平

一　博物館に出品目錄の印刷無きこと、及び出品物に英語の說明無くして外國人を苦むこと特に外人が我國の美術に就て參考せんとするには何の手懸がゝりをも與へずして彼等には先刻承知の動物標本のみ外國語の說明あるは何の意たるを解する能はず。

一　動物園、パノラマ等の入口、左側通行の制は皆反對となり居れり。これらの改造は寄席の改築などゝ異にして只一部分の小變更をなせば足るなり。實際警視廳が都民をして左側通行の慣習を作らんと欲するならばかゝる種類の建築物を悉く改めしめざるべからず、警視廳の手緩さ加減驚くに堪へたりと云ふべし。

一　音樂學校有て音樂臺無し。土曜日曜或は毎日晩來公園内に公衆に向て生徒の演奏を公開せよ、これ學校の爲めなり、生徒の爲めなり、公衆の爲めなり。

●圖書館　に入る、洋書にても和本にても裸躰書又は裸躰畫類似のものある場合、希臘の神樣にまで必ず陰部に鉛筆以て毛を描きあるを見る、眞に度し難き國民なる哉。

小學生徒に樂書を禁ずるに止めずして他の樂書まで見つかり次第拂拭せしむるの議は早く實行せよ。

●ケチ臭き廣告　淺草觀音に詣す。門内小き花崗石にて積み上げたる小燈臺有り、一石一人づゝ寄附者の姓名屋號を彫刻す。電燈瓦斯燈夜猶晝の如き此境内に、かゝる燈臺は何の用ぞ。寄附としても廣告としてもケチ臭きこと限り無し。其上公園としての風致を害し、佛閣としての神聖を損ふ、由來神社佛閣の提燈や石柵に新吉原何々樓などの名有る不躰裁の極みなり。

●寄附に對する撰擇を愼め　曰く神社、曰く佛閣、曰く學校、曰く敎會、曰く孤兒院、曰く苦學生、曰く何々慈善會寄附の音樂、曰く何々救濟會補助の芝居と、其名は宗敎なり敎育なり慈善なり救濟なり、其表面の目的いづれも立派ならざるはなし。然れども一々これ等の寄附に應じ居れば到底堪へ得べきことに非ず、況

んや玉石混淆羊頭狗肉のイカサマモノ其半以上を占むるに於てをや。

サレドモ寄附其物は決して惡きことには非ず、其事が實際有望にして國運の進歩社會の改良に必要なる事業なりせば大に之を助け之を成立たしめざるべからず。只愼むべきは鑑別に在りとす。出すに慣せざるものには一錢をも出さず、出すべき寄附は萬金をも惜まず、かくして眞個寄附の功能を完からしむべし。何處へも唯惜むべきは今の富豪が口實を寄附金の多きに托して卑吝なる素町人根性を蔽ふの口實とし、其實何處へも鐚一文を出さず、社會公益の爲になる多くの事業に向て何等の補助をも與へざることなり。

●奇妙なる虛榮心　鐵道馬車內にて僅か二三錢の出し前へを吾れ立て換へんとて爭ふこと。

●流產會　神戶クロニクルの記者評して曰く「日本に於ける多くの會流產せざるもの稀れなり」と、邦人の計畫せる何々會と云へるもの多くは未だ物にならざる前に立消へとなるを云ふ。

●田中鶴吉氏　曾て東洋のロビンソンクルーソーとして明治立志編中に特筆大書せられし同君は、今サンフランシスコに在りて芝居小屋の掃除受負人たり。一時に大名を博するは却て其人の不幸なり、今後の川口慧海氏たるもの大に注意するところ無かるべからず。

●敎育家の演說　今の敎育家は談話又は演說の最も拙き階級なり。自分の思想を正く言ひ顯はし得るもの殆んど稀れなり。師範學校などには是非辯舌の練習科を置くの必要有り。近く帝國敎育會に於ける英語敎授法硏究部の討論筆記を讀んで此感特に深し、彼等は皆語學の敎師なり。

●臺灣民政廳　には鴉片の專賣法有り、文部省には忠君愛國の專賣法有り。

●讀書界の傾向　神祇釋敎戀無常、戀愛文學盛行の後に宗敎物の賣行き善きは當然なり。

●西國立志篇と明治の人物　三國誌有り、水滸傳有り、八犬傳有り、これら通俗の刊行物が天保時代より明治の初年に掛けて陰暗の間に、當時の青年を動かし一生の行動を支配したこと著明なるものありき。明治に入りてより中村敬宇氏譯の西國立志編は確かに當時の青年を動かし今日少しく名を成せるものにて同書の感化を受けざるもの殆んど稀れなりと云ふ。現時此種の書冊に代りて青年を動かしつゝあるものは果して何書なりや、新刊多きに過ぎて却て西國立志篇

の如き深大なる影響を與ふるもの一もこれ無し、これ現代青年に採ての一の不幸なり。

# 新聞評壇

## ▲我輩の遺憾に存ずること

カール、マークス投

我輩が、今の新聞紙に對して、最も殘念に存ずるのは、弱者に同情のない事、言ひ換へると、弱いものいぢめをする事、即ち强者へ阿諛する事である。

試に毎日の新聞紙を取つて御覧なさい。中産以下の階級、小官吏、勤め人、書生、女學生、職人、看護婦、下男、下婢、若くは後家等に對して、新聞紙は何ふいふ態度を執つて居るか。

第一、名前を呼び捨てにする。呼び捨てにする事夫れは決して惡い事でない、貴族も平民も上下推しなべて同等の人類である以上は是が取扱も同等であるべき筈である。所が今日新聞紙の態度は其樣でない、上流に向つては氏とか君とか敬稱を添えて置きながら、中産以下の者丈けに限つて呼び捨てにする。何故、斯ういふ差別を設けるか。封建時代の昔ならば兎も角、明治今日の時勢に於て此の如き差別を設ける必要が何處にある。甚だ不都合千万、封建制度の遺風が殘つて居るといつても差支はない。巡査ですら、人に對して呼び捨てを廢した今日、社會の先覺者たる新聞紙が封建の遺風を守つて居るのは甚だ怪しからぬでないか。

第二、斯ういふと、或は、夫は犯罪人、少なくとも惡人の場合のみといふ者があるかも知れぬ。左樣、然らば何故、貴族が惡事をした時に敬稱を除らないか。例へば、某といふ貴族があつて、到る所、女を漁して歩るく、此時に於て、是を書く筆鋒は如何か、平民とは違はないか、イヤ左樣でない。大に違つて居る。矢張相當の敬意を加へて居る。同じ人類で、同じ罪惡を犯して居るのに、何故一方を敬つて一方を輕蔑するか。此處に至つて、我輩は、今の新聞紙を叩き潰したくなる。

第三、貴族の事には、非常に注意するが、中産以下の者の事には少しも注意しない。否、貴族の事は、辯護的に惡い事も佳いやうに書くが、中産以下の事になると、善い事も惡いやうに書き立てる。殊に若い女の事になると、面白半分に作り立てゝ書く。斯ういふ偏頗な取計らいをして、夫で新聞紙の面目が世間に立つか。

第四、殊に癪にさわるのは未亡人、後家に關する態度である。未亡人、後家は世の中の不幸なるものであつて、甚だ憐むべき人間である。然るに、此人間に關して何か出來事があると、新聞紙は尾鰭を附けて（而かも、必ず此後家が婬奔であるかの如く）面白可笑く書き立て、此不幸な人間を玩弄物にして居る、書き立てられる當人の身になつたら心細さ、うらめしさは何の位であらう。人道の上から見ても、實に無慘至極決して用捨のならぬ罪惡である。後家と、居候と、下女と、を玩弄物にするのは、川柳の十八番であつた、今の新聞記者は、社會の木鐸だなどゝ威張つて居つて、百年前、しかも川柳如きの眞似をして居る。二十世紀の新聞記者の頭は、川柳より先きへは進み得ないのか、あゝ何と淺ましいではないか。

第五、後家と聞いて直ぐ婬奔のやうに書き立てるのは、今の新聞記者の極り文句である。後家、豈悉く婬婦ならんや、夫を必ず婬婦のやうに貶しつけるのは、事の眞相を探る探訪が淺いからでも有か、詰り同情がないからである。否、彼等の心根が下劣だからである、下劣だから、同じ原因を拵へるにしても、色事より外には思ひ及ばぬのである。今の新聞記者は狒々の生れ代りといつても差支はない。

未だ澤山あるが後は追々責める事にする。

## ▲新聞の文壇に就て

磯野魯佛

◎此に言ふ新聞の文壇とは小說なり講談なり詩なり歌なり俳句なり、其他各種の批評文なり小品文なり、紀行日記などあらゆる美的文字にして專ら新聞紙上の副産物として云ふべきものゝ總稱である。併し今は單に續き物たる小說講談について愚見を述べやう。

◎人心の異なること其面の如しと云ふから、多數の人を相手にする新聞紙は勿論其趣味を多方面に取らねばならぬ、併しどこまでも自家の天職と云ふことを考へ、單に衆愚に阿るのみの手段は斷じて避けねばならぬ。

◎個人に主義と主張が必要なる如く、新聞にも亦主義と主張がなければはならぬ、そして其主義主張は各面一貫相抵梧するやうなことがあつてはならぬ、近時我邦の新聞紙にはドウモこの統一と云ふとが乏しいやうに思はれる。

◎第一面の論說欄では堂々正義とか人道とか公德とか至極御尤な議論をするかと思へば、第三面の艶種では

姦通とか詐僞とか戀愛とかの誇張的挑發的の文字を列べ立てゝ一に多數の俗受けを計ると云ふ樣な事が近來一種の流行でゝもあるかのやうである。

◎殊に小說や講談ときては全く治外法權でゝもあるか、隨分いかゞはしいものが彼方此方に見受けられるのは僕等の門外漢には、實に不可解の甚しい事である。

◎速記術の發達と共に各社競ふて講談ものを載せるが、これは敢て惡い事ではない、中には趣味の下落だなぞと僭上的の誤託を吐くものがあるが、僕は彼の下等な戀愛小說や、淫猥なる寫實小說などから見ると名人上手の釋師の口演物の方が餘程面白いと思ふ。

◎僕は思ふ、新聞は社會の耳目、輿論の木鐸たると同時に、最も有力なる國民敎育の大敎場であると云ふ自信を以て、今日趣味の劣等なる多數の同胞に可成的通俗の方法を以て諸般の知識を供給せねばならぬ、故に講談もの丶撰擇の如き、事に幹たるもの丶尤も注意一番すべき事で、たゞ紙面さへ塞げばよい、多數の俗受さへ博せばよいと云ふ丈では餘りに自家の職責を輕んずるものと云はねばならぬ。

◎それから今日新聞文壇の一大缺陷は滑稽小說の皆無な事である、三馬一九の昔は言はず、近世に於ても故人となつた魯文先生(これ僕が少年時代の恩師なれば先生と呼ぶを許せ)や南新二や採菊老人や、今尙餘喘を保ち居る得知篁村の全盛時代には多少見るべき滑稽ものもあつたが、當時の小說家先生は何れも如何はしき戀愛ものや淺薄なる悲哀的作物の外、筆を滑稽ものに染める者がないのは明治文學史(などと鹿爪らしく云ふには及ばぬ)否新聞文壇の大々的欠陷ではあるまいか。

◎勿論數年以前讀賣新聞に『八重襷』、日々新聞に『でれ醫者』とか云ふ滑稽ものが出たことがあつたが、何れも例の事件の錯誤から生ずるおかしみでッマリ一場の樂屋落に過ぎない落語の燒き直し見たやうなもので、決して文學上に所謂滑稽的作物ではない、が僕は敢て世の批評家の口眞似をして出來ない相談を持ち出すのではないから、猥褻にあらざる限りは樂屋落ちでも落語的でもよろしいから大に滑稽的小說の新聞紙上に續々掲載されることを望むものである、死馬の骨の五百金は軈て千里の馬を買ふの手附金であれば、今日無名の青年詩人中より他日のモリエル、ヂッケンスの出ないとも限られないから、新聞當局者は十分此等の作物を歡迎して單調なる文壇に一種清新なる趣味を添へて貰

ひたいのである。

◎以上は僕が現時の新聞文壇特に小說講談に對する希望であるが、以下少しく今日新聞に掲載されつゝある小說講談につきて可否の略評を試みるならば、まづ二六の『むほんにんの娘』は目下二百七十何回と云ふ長篇であるが大抵の人は得讀ぬやうてある、僕も一二回讀んで見たが面白くないから一向讀まぬ、モー大概にして止めたらよからう、附錄の『德川十五代記』再刊以來の厄介物たゞ手ふき紙位に過ぎぬ、斷然中止改正を命ずべしだ、『換菓編』はものがものだけ明治文壇の一佳例として愛讀すべき義務あるものとす、船越十右衛門可なり。

◎萬朝報の呼物は涙香氏の『噫無情』である、氏が譯筆は年一年彩華の煥發するのを見る、氏が反譯の躰は自ら氏一家の主張ありて徒に原文に忠實ならんとして讀者を顧みざる生硬飜譯物多き新聞文壇の今日、涙香氏はどうしても新聞經營家としての特長を備へた人である、併し松葉氏の『地獄極樂』ときては讀者泣かせの一人よがり、二六の杏西氏と共に大向ふからひつこめ〳〵の消極的喝采を博すべきしろもの、まづい松葉とは誰だと思ふつがもねーと威張るか知らないが。

◎誰がなんと言つても僕が嫌なのは東朝の抱一庵の飜譯、小說である、時代おくれの漢文調七分、國文調三分の、故思軒の眞似かあらぬか、「請ふ閣下、賣文の痩狗を憐めよ」、「ナニ賣文の痩狗とな」、「さなり、不遇の文士、轗軻の詩人に一片のパンを惠めよ」とやられては頭痛岑々たるを禁じ得ない、それから讀賣の『魔風戀風』これこそ讀賣子の特長たる尻切り蜻蛉となつて飛んで行つても僕は決して苦情は云はぬ、報知の『食道樂』世間の批評家なんぞが何と云はうと頓着なくドシ〳〵やるべし、僕が友人の妻君なぞは近來中々料理通になつて、尚進んで料理法を研究すると云つてゐる、戀愛小說の實地研究は恐れるがこんな研究は十分やるべしてある。

◎每日新聞の第一面に第三面におまけに附錄にまで講談づくめとはいかにも鼻否目につく次第ではあるまいか、沼南氏には文學趣味がないからそれまでだが、社中には松野みどりの別號を持てる尚江氏の歌論中々に聞くべくそれに竹柏門の大橋氏も居る筈だから少しはお氣が附かれさうなものだ、トルストイやラスキンの評傳をものせる梅處先生なんぞ一大奮發をして泰西に有名なる社會小說の反譯でもやらかさぬか、尤も先年

の『リジャ』の樣なものは新聞小說としては到底失敗のものたるを免れない、已を得ずんば探偵ものでも可なりだ。

## ▲新聞社會の花形役者

馬脚生(投)

▲▲▲▲讀賣新聞　五來犴猥坊、此の人、法學士にして健脚家、辯護士にして小說家、而して亦た甚だ喧嘩好き、文學好きなり。目下揭出する所の「東西兩京の大學」は實に其筆に成る。此記事ありて、僅に掩々たる氣息を繫ぐ事を得。是を除けば、讀賣新聞は全くゼロ。

▲▲▲▲毎日新聞　杉賢阿彌、獨り毎日新聞の秘藏子たるのみならず、實に日本劇評家中の花形なり。毎日が嶢耶氏の論說以外、世間に重視せらるゝは、此劇通あるが爲め。

▲▲▲▲日々新聞　近事片々か、歷史小說か、我れ其取捨に苦まざるを得ず。然れども、花形といふに至つては、孰れも老け過ぎたり。然らば、終に夫れナッシングか。

▲▲▲▲二六新報　野田某、一名增田、又の名山田。惜むらくは、又々喰らひ込んで服役中。

▲▲▲▲報知新聞　弦齋以外無論ゼロ也、由來此新聞は引き締つたるを以て特色とせり、然るに水飴の道中するやうな文章かき牛山などを引張つて來て何ふする積りにや。

▲▲▲萬朝報　幸德秋水、堺枯川、川上翠陵、而して黑岩淚香。

▲▲▲▲朝日新聞　右田寅彥。抱一庵先生を數へんには、餘りに大家に過ぎたり。

▲▲▲▲中央新聞　判別し難し。なきにあらず、候補者多き也。

▲▲▲都新聞　渡邊默禪、花柳だよりの記者。

▲▲▲▲時事新報　寧ろ北澤某のポンチか。

▲▲▲▲國民新聞　蘆花去つて其人なし。

▲▲日本　子規沒後、缺ぐ。

▲▲▲▲國家新聞、日出國新聞、人民新聞、なし。

## 先進と知友とに告す

有美

われ田舍の中學に客たること茲に八ヶ月、再び出でゝ京に歸る。胸中蓄へ來りしもの、たゞ萬腔の中學罵倒熱のみ。中學校舍を罵倒し、中學教員を罵倒し、中學生徒を罵倒せんとする熱、たゞ是れのみ。文藝のこと永くわが腦底より去れり。批評眼は限なく痴鈍のものとなれり。今やわれ實に天下の愚人なり。されど本誌の主筆われを顧みて評論の一部を擔當せしめんとするに意あり。辭せずして其任を受く。蓋し、何種の依賴も總てわが身に能ふところは、一切これを却けざること、是れ我が生活の主義にして、また評論の筆を驅る一事は大なる快樂をわれに與ふべければなり。

悲哉、今の才人、自ら重んずること厚く、自ら誇るところ高くして、長者先輩を輕しとする心誠に盛なり。友人なにがし或る講話會の爲に演説を乞はんとして泉鏡花君を其寓に訪ふ。鏡花君意稍々すでに決せしと雖ども、病師紅葉の言に聽くべきを以て答ふ。紅葉はその『以ての外』なるを説ひて止めたり。君の直に返して曰く『先生の一言は親方の言に同じ。反くべからず』と、斷然出演を謝絶す。此くの如きを今の滔々たる才人に觀んとする夫れ實に難哉。われ德足らず養格らずと雖ども、力めて長者を尊び先進に敬重せんとする心掛けあり。また我が名の爲に冷なる水一杯にても惠み與ふるに吝ならざりし人には、ながく之を感銘して終生報謝の念を絶たざらんとするものなり。されど、あゝ、職業の神聖なるを如何せむ。

これを若し路傍の一楽人たらしめば、唾するの勞を取るをだも尙ほ且つ肯んぜざるべき凡容醜貌の一婦人に向つてさへ、其たゞ一藝者たるが故に萬金を投ずるを辭せざるものあるに至ては、藝者の職業の實に神聖なるものあればなり、此くの如くにして、われ既に評論の壇に立てば、大義は則ち親を滅せざるべからざるに至り、父に反き母に離れ姑と爭ひ、時には長者を罵り先進を撃ち、日頃私情に於て『先生』と崇むべき恩主にも、無禮にちかき言なき能はざるに及ぶべし。况んや知友にをや。是れ、悲むべきことなり。されど、止むなし。「敦盛樣は院のお胤と知りながら」も、その首を刎かざるべからざること、是れ職業の苦衷なり。これ我が豫め切に天下の諸先進と知友とに謝免を乞はんとするところなり。あゝ、「職場の義は是非なし」と御思召せ。

## 希臘語研究を奬勵せよ

誰か今の世の哲學を新奇なりといふや。日は出て又その出づるところに入る如く、希臘以來數千年、いま猶ほ希臘の昔を襲套するに過ぎず。誰かヘーゲルとカントとハルトマンとを以て新らしといふものぞ。今の世の哲學界に獨逸の哲學は、一方にプレトーを祖述するものと、他方にアルストートルを祖述するものと、第三者にありてこの兩者を折衷するものとに過ぎざるのみ。その祖述の形式と折衷の形式とに或は異りたるところもやあらん。これを新らしといふのみ。されば、プレトーとアリストートルと其泉源たるソクラテスとを知らずして、歐州の哲學は遂に知らるべきに非ず。

プレトーとアリストートルとソクラテスとの偉、あゝ計り知るべからず。

日本の學者、近頃外國語の智識を誇らんとすること切りなり。是に於て、英語を學べるものは、更に獨逸語と佛蘭西語とを修め、自ら三國の語に通じ世界の學藝を丸呑みにせるを粧ふ。されどその丸呑みにせしところは世界智識の糟粕のみ。以て大に頭腦を養ふに足らず。成肉質の智識は唯希臘のソクラテスとプレトーとアリストートルの眞髓を消化して後始めて、之を得らるべきものなり。而してこの大智識豈に飜譯を通じて得らるべけんや。飜譯は遂に飜譯なり、到底これによりて著者の大精神に接し其神髓に悟入し得らるべきものに非ず。日本の漢學者中、割合に堅固の人物多き所因は何ぞや。これ、飜譯に依らずして支那學の原始たる老莊孔孟の大精神に直接し、これに肉迫するを得ればなり。然るに、日本の歐學者の獨り片々として風に飜るモミガラの如く、誠實と剛毅とを欠くものある所因は全く希臘語の智識なく、ソクラテスとプレトーとアリストートルとの大精神に觸れ、歐州學藝の源を手づから汲む能はずして唯末流を追ふに汲々たるを以てなり。日本の學者たるもの、近世外國語は唯その一を知れば足る。其餘の語學力はよろしく之を希臘語の研究に献ぐべし。是れ急務なり。

又かの中世紀に於けるルネーサンスは、之を稱して文藝の復興と云ふ所因のもの、盖し歐洲の文藝が再び興隆して希臘の盛時に復歸せるを意味し、ペトラーク、ボッカチオ等先づ希臘の詩文を咀嚼し、グナリノ、フキレルプ等希臘古文書の配布に力め又ピザノ等主として希臘古美術の法を傳唱し、爲に歐洲の文藝に一活力を與えしを以てに非ずや。然らば、歐洲今日の文學美術は、全く希臘の文學美術に感觸することなくして、決して其眞精神を味はるべきものに非ざるなり。而して、飜譯は又遂に希臘文藝の大精神を傳ふる能はず。誠實なる歐洲文學の研究者は、是れに於てか、まづ希臘の原語によりて、ホーマー、ユリピデス、エキユラス、ソフオクルス等を味ふべきなり。然らずんば、徒にたゞ末に走りて歐洲文學の骨髓に到達し得らるべからず。かの博言を衒はんとして、切りに佛蘭西語と伊太利語とを振り廻はさんとする物好先生の如き、力むべきは何ものよりも希臘語の研究にあり。

日本の地ウキルヘルム二世の如き才人多く、たゞ近世外國語のカヂりかけに汲々たるのみにして、希臘語の

研究に熱中するもの無きは、深く悲むべきことなりとす。帝國大學文科大學にして若し希臘語をその學科目の主要と爲すこと、歐米諸大學の如くならば、これより稍々篤學にして眞實ある學者を出すに庶幾乎。帝國大學生と日本の學者との總て淺薄にして偉大なる思想を欠くは、其罪全く希臘語を學ばざるにあり。

かく帝國大學が希臘語に重きを措かざる間にありて、獨り兀々として其研究に骨折つゝあるものは、基督教神學生なり。これ注目すべき學界の一大事ならずや。或は恐る、日本の歐洲樂が早く基督教會によりて輸入せられたる如く、又希臘語研究の、日本學術の樞府たる帝國大學に先ち、却て基督教神學校によりて創始せられ、後漸くにして一般學者の注意を惹くに至らんかを。學生にして先見の明あらんものは、あゝ今より先づ希臘語の研究を始めよ。

## 稿餘錄

●淺薄皮相なる寫實主義、詳くはナチユラリズムの横溢せること、何ぞ夫れ今の如くしかく甚しきや。小說家素よりこの弊に襲はれ、義太夫節また滔々としてこの外道に走り、綺語演劇又漸くこの惡感化に染まんとす。あゝ、今や觀るところ聽くところ悉く幽玄の妙微なきに至れり。あゝ、われは去りてワグネルの神話主義を聽かんかな。

●政治界に滿州問題なるものありて、稍々天下の話題たれども、文藝界は何時ながらの天下太平なり。われ文藝評論に筆を染めんとし、しきりに此處そこらの新刊書と雜誌類とを捏れかへせども、遂に論議すべき一項目をだも捕ふ能はず、憮然として筆を投ずること暫しなり。敢て同情す、桂月大人の商賣は仲々汗の出る仕事にして、その『明治國民[illegible]』の爲に辨妄の文を綴ること四六倍板三頁半なるに至らさるべからざること誠に御無理に非ずと。

●如是我聞、藤村操、人生を解する能はずと稱し、自ら華嚴の瀑壺に投じて死せりと。あゝ死せる乎死せる乎、果して死せる乎。われは寧ろ其死を疑はんとするものなり。人生を解する能はずして悶々苦絕、遂に煩死せんとするまでの惱みあるものは、決してかの如くしかく美はしく流暢なる文を遺し、又かの如くしかく演劇的なる最後を爲し得るものに非ず。樹を削りてこれに字を染むる如きは、これ川上音二郎が舞台に於ける兒島高德のことなり。或は恐る、藤村操、いま尙ほ生きて何れの地にか逃れてあらんかを。もし又藤村にして眞に死せしとするも、これ人生を解し決するに苦んで死せるに非ず、その一旦既に家族知友に自殺の通知を遺し送りしより、その遺書の手前に對し面目なく、イヤイヤながら勇を鼓して自殺せるものに非るなきか。われその遺文を讀んで實にしかく想はざるを得ず。知らずや生物は決して悠々死に臨み得るものに非るを。あゝ、何ぞかの文の些か亂れたる痕なきや。

●桂月しきりに後入齋たらざらんとする素振り、近頃矢鱈に間投詞澤山なる鳴物入の文を書くに力むれども、遂に桂月は後入齋なり、悉く先人を祖述するに過ぎず。あゝ今の評壇も夫れ心細い哉。是に至れば抱一庵の如き寧ろ飜譯業を廢止して全く文藝評論に其身を立つること却て萬全の策ならずや。奇激の箴言應々にして能く人の肝膽に肉迫す。其譯一型

人か盜賊か」後篇を讀むに、篇中最も傑出せるほとりは、六號活字に刷りあげられたる手證の自序文にあり。されど、醜譯は是れ先師思軒の遺業にして、その味また格別の趣を存し、遂に天下の大人物福井茂兵衛によりて木鄉座のイタに上るものあるに至れるに非ずやと言はて、われ又何をか言はんや。

●幸田幸子伯林より歸る。たゞ其玉容の一たび『二六新報』に掲げ示されたるのみにて、天下また此女史を持て離すこと、曩日に延子大幸田子を迎へたる時の如くならず。げに薄運兒なる哉。是れ今年は演劇の歳として世間の注意多くは皆なこれに注ぎ、又その感興を西洋樂に貸す猶餘なければなるべし。されど、洋樂家のいやに高尚ぶりて高くトマル割合に、その技倆幼稚にして、未だ人心を感激せしむるまでに至らざるもの多きを知り、世間稍々本邦洋樂家に失望せるものあるによらざらんや。

●抱一庵君『新聲』誌友會に演說して曰く、黒岩氏の『天人論』を著せるは、自ら善人たらんことを心懸け、この著によりて已れを鞭韃せんためなりと。又或人曰く、『天人論』を著せるは、これ涙香の入りて哲學界に探偵となれるなりと。

●近著の米國文學雜誌を觀るに、何れも近來は短篇を多く緝むる傾向となれるが如し。小說といひ論文といひ總て短きもののみなり。

●露國陸軍大臣クロパトキン氏が、その自ら日本に對する主戰論者たるを天下に知られながら、又現皇帝ニコラス陛下が大津の難ありしを承知しながら、なほ進んで日本帝國の領土に足を踏み入れたるの度胸實に羨むべきものあり。さきにはチエンバレンの南阿行あり、今又クロパトキンの日本行あり。アリヤン人種はドコまでもズウ〳〵しきもの哉。

●基督教界は、海老名彈正氏酒を飲み藝者を買ひ、金森通倫氏牧師職に復歸するに至らば、少しく觀るに足るべきものあるに至らんか。

●東京を離れたること八ヶ月。この間五大變化あり。第一は電氣燈の光力著く減殺せられたること。第二はハイカラ式洋裝の進步。第三は書籍雜誌小賣店々頭の新造搆。第四は人力車夫走驅力の減退。第五は『帝國文學』の眞面目となれることこれなり。

●天下のキザなるもの『帝國文學』の雜報に如くは無しとは、これまで一般に知らるゝところなりしが、今や決して此る臭氣をとゞめざるに至れり。（但し論說のクダラ無きは無類なり）。その六月分に載せたる『國家と詩人』『現實派の文藝』『罪惡の福音』の如き皆な眞實あるものにして、大に人を動かすに足る。されど最後に、『おー我が友よ』と叫り出されて記者のノロケを聽かせらるゝに至りては、讀者も亦災難なる哉。借問す、この記者、この號一卷と共に薔薇一もとを添えて、「戀ひ慕ふ唯一人の君」に贈りしや否やと。あゝ其君の悅び如何ばかりぞや。

●近來の小奇觀は、日本學術の樞府なる赤門より出づるこの『帝國文學』記者のノロケと、『教育實驗界』新刊の口絵に冠せられたる『大坂博覽會餘興人類館人類標本』の文字なり。共に噴飯に堪えず。

●近頃の新聞劇評中最も面白きは『二六新報』なり。たゞその未だ女寅閣下のために肩を持つに至らざるを惜む。又女寅先生の技藝先頃著く輕妙になりしと共に、稍々眞摯を欠くものあるに至れる觀あるは甚だ遺憾に堪えざるところなりとす。

●口を開き筆を取れば、藝者を稱んで醜業婦と罵るに熱心なるものあり。日本の男女道德が歐米のそれの如く不建全ならずして、今の如く建全なるを得るは、これこの醜業婦あるが故に非ずや。藝者は日本の國粹なり。よろしく之を世界に語るへし。藝者の手跡を博覽會場內に擧げしがゆえに博覽會を醜しといふものの如きは、この徒到底共に道德を談するに足らず。

●一夜遠來の客を迎へて衆と共に、上野山王臺梅川樓に飲む。藝者の坐に侍るもの、巧に英語を誦す。しかも、言々猥褻淫靡殆んど嘔吐を催さしめんとす。而してこれ、皆な東京帝國大學々生によりて仕込まるゝものなるを知らば、誰か驚かざらんや。

●伊藤銀月君『靑柳有美の側面觀』を新刊の『新聲』に載す。これ一讀『成程』と驚き、再讀その解剖の鋭到なるに感歎し、深く懷舊の念に驅られ、古ろき幼年時代を回想すること切りなり。

# 人生問題の苦悶者と宗教學生

兼嶺

宗教家は人生に光明を與へ、安慰を與ふるを以て其天職とす。而して全國に數多き佛教、及び基督教の諸學校に在る宗教學生は、此宗教家とならんが爲めに學びつゝある者なり。

大悟の前には必ず大疑有り、大安慰の前には必ず大苦悶有り。聖者と呼ばれ、救世主と仰がれ、眞の宗教家たりしものは、皆悉く此大疑此大苦悶に向て苦戰奮闘、遂に之れを征服し得たる大勝利者に非るはなし。今日の宗教學生にして、若し眞に宗教家とならんと欲するものなりせば、其修養時代たる今日に於て大疑問大苦悶の難關を透過せざるべからず。果して彼等はこれらの問題に向て奮闘しつゝありや否や。

吾人は此點に於て、一人の藤村操も所謂宗教學校より之を出さゞりしを怪む。

言ふこと勿れ、宗教學生の悉くは彼れ藤村の如き病的思想を有せず、皆健全なる思想を有するが爲めなりと。已に人生問題解釋の陣頭に立つ、勝つか、負くるか、ハタ手傷を追ふて退くか、其いづれかならざるべからず。眞の宗教家は其勝利者なり、藤村操の如きは其劣敗者なり。世間幾多病的の思想家は其手傷を負へる者なり。吾人今の宗教學校を以て其勝利者を出だす者とは思ふ能はず、サリトテ其劣敗者も亦手傷を負ふ者すらも出だす能はざるを思ふ。多くは人生問題解決の陣頭に立つ以前に、逸早く遁逃する者のみ。彼等は實に自家の天任に無頓着なるものなり、忠實ならざるものなり、眞面目ならざるものなり、熱誠ならざるものなり、自己の立脚地たる信仰問題に向ては何の修養をも試みざる世間尋常の青年と毫も撰ぶなきなり。

吾人素より病的思想家の輩出を好むものに非ず。然りと雖、宗教學生が全く自家直接の問題に向て、熱烈の氣無きを見て、宗教界前途の爲に大に悲まざるを得ず。

## 天理教禁止請願の議に就て

社會風教の上より見れば、同一の迷信にも種々の區別有り。其害有て益無きもの、其益有て害無きもの、益ともなり害ともなるもの、毒にも藥にもならぬもの等是れなり。

而して天理道門の全部、其他神道教會の一部、佛教の一部には僅かにその害有て益なきもの多し。聞くところに依れば本年の議會に天理教禁止の運動を試みんとせしもの有りしと。吾人はその何の爲めに中止せるやを知らずと雖、今後此議を成立せしめて、獨り天理教に止まらず、佛教各派神道各派中に混同せる天理教よりも猶風俗上、衛生上、教育上より見て、害毒を流すこと多き淫祠の部類を一掃せんことを望むや切なり。演劇改良案すらも議に上らんとする今日に非ずや。此甚大の害毒を社會に流がす淫祠に向て其撲滅議案の今日まで出でざりしは、寧ろ奇怪なりと云ふべし。

## 清澤氏と藤井氏

龍北生

○清澤滿之、藤井宣正二氏の死は正しく教界の二大損失なり、死んでも善きもの死せず死して善からざるもの死す、世は實にまゝならぬものなり。

○清澤氏の名は所謂白河黨の激發と共に揚る、氏等の運動は遂に龍頭蛇尾にして畢りたれども氏が義を執て屈せざるの眞骨頭は其れよりして大に認めらるゝに至る、こゝ二三年來浩々洞同人を率ひて精神主義を鼓吹したる、主義其物には多少の異論なき能はざれども熱誠沸くが如く道の爲に盡したる功や没すべからず。

○藤井氏は人未だ多く知らざるが如きも學者としても人物としてもたしかに當代に秀拔したり、其の佛教小史の如き氏が學問と識見とを窺ふに足るべきのみならず、病を力めて是の如き著作に從事したりし氏の勉强力は何人も感嘆し措かざる處なり、然れども氏が眞價は正しく今後に於て大に發すべかりしなり、是れ殊に哀悼の念を深ふせざる能はざるなり。

○予は藤井氏とは明治廿七年巳來最も親しく往來したりしと云へども清澤氏とはあまり多く會談したることもあらざりしが今に至ては大に殘念に思ふなり。

○明治十九年の頃清澤氏が尙大學生徒たりし時、今川覺神氏と共に京都高倉大學に來て哲學の講義をなしたることあり、是れ予が氏を見し始めなり、二十九年の

頃、白河黨の起りし時、予は聊か慰問の心持にて氏を京都上京なる何とか云へる寺院に尋ねたることあり而も不在にして逢ふことを得ざりし、三十二年上野公園三宜亭にて佛敎青年會の開かれし當時恰も氏の次席に坐し親しく語を交へしことあり、是れ予が氏を見し第二回にして而も最終なりし。

○清澤氏は短體瘦軀色黑く眼凹し、眉宇の間、英氣人を射るものあり、唾壺（肺病の爲め）を手にしながら侃々として論ずるところ自ら改革者の風ありしと記臆す。

○藤井氏は瘦軀ながら長身、風丰瀟洒たる白面の好紳士たりし、最も論辨に長じ諷謔往々にして人を刺すものありし。

○有體に白狀せば予は清澤氏の文を多く讀みたることなし、唯英文「宗敎の骸骨」を讀み、又哲學雜誌に掲けられし一二文を讀みたるのみ、故に清澤氏の文を評する資格なし。藤井氏のは佛敎小史を通讀したり、其の文簡淨整正、論斷する處最も力あり、而して往々絢爛の光彩を發し、文章の單調を刺激し讀者をして倦まざらしむるところ今日の所謂學者的文章に同じからず、爾れども氏の文章的本能は寧ろ旅行日記若しくは書牘體の通信文様のものに在り、文字率ね滑稽を帶び諷刺を含み實に痒き處に手の及ばざるなきの趣きあり、氏の遺稿としては定めて英佛滯在記若しくは印度紀行の如きものあるべし、予は切に其の公にせられん日を待つべし。

○清澤氏と藤井氏とは多くの點に於て極めて似たる處あり、熱心なる似たり、勉强なる似たり、或る場合に於て性急なる似たり、共に哲學科出身の文學士にして共に肺病を以て仆れたる似たり、而して一は鄉里に於てし一は外國に於てしたるは同しからざれども共にその死日を同ふしたる亦奇なりといふべし、唯清澤氏は巳に敎界の人としてとにかく手腕を揮ひたりしも藤井氏は重に敎育者として外にあり其の宗敎的活動を始むるは恐らく是れより後に在りしならん、是れ藤井氏自身も地下に瞑し能はざる處なるべし。

○大谷光瑞師の中央亞細亞、印度內地探險は大陸に向ての東洋人最初の學術的、又は宗敎的大壯擧なり、藤井氏は師と共に印度を縱橫に探險し、本號載するところ口繪の王舍新城（舊城は光瑞師自ら探險）の如きは氏の獨り舊蹟を探りし處と云ふ、佛敎史上に貢献すべき幾多の材料を得ながら其功を終へず眞に憾むべし。



雜評

## 梅黄榴朱

小觀記者

○板垣伯曰ふ予は無學なれども先天的に物の機先を知る、曾ては民權の伸びざる可らざるを知りて自由、民權の論を唱へたり、今は風俗の改良すべきを感じて風俗改良會を起したりと。

○板伯に接して最も忘れがたきところは其の眞摯なる言貌に在り、一點政略を弄するが如き迹なき他の老輩に多く見ざる所なり、果然伯には眞個の健兒多し。

○伯、築地の茶話會席上、諸友に語れる中に曰く

私は一躰岐阜で死んだら上都合なりしも夫れも死ねぬから今更ら死ぬるといふ譯にも行かぬ

と誰か一掬の情涙を濺がざらんや。

○伯、動もすれば世に誤解せらる、想ふに是れ伯の人情に厚きを利用して自ら爲にせんとする野心家あるが爲のみ、林有造君等の罪最も輕からず。

○林氏は後藤伯の小なるものにして片岡氏は板伯の後繼たるべきものなり。

○伊侯の政治的嗣子はどうしても巳代治氏にして隈伯第二世は終に尾崎氏ならんか。

○曾て渡邊無邊子を勝海舟に擬したるものあり、而れども彼は勝の機智なし、超脱の賚なし、俗なり、凡なり。

○俗物にして仙骨らしく氣取らんとする甚だ六ヶ敷し、無邊子の如き禪機とか仙風とかの評判を取りたる、本人には即て迷惑なることならん。

○政治家には隨分第二世第三世も出來くべし、而も七里恒順師死して敎界第二の七里なく、福澤翁死して學界第二の福澤なし。

○明六雜誌を見る、當時の編輯長は森有禮氏にして最も多く寄稿せしは津田眞造、西周、西村茂樹等の諸氏なり、兩氏の洋字を以て國語を書するの論、神田孝平氏の國樂を振興すべき論、附たり角力排斥論、津田氏の廢娼論などあり、是等は今日にても八ヶ間敷く論ぜ

らる、議論の進歩せざるを見るべし。

○川口慧海氏の西藏紀行この頃の時事紙上に連載せらる、人は其の奇の多きを以て却て氏の入藏を怪しまんとす、眞僞自ら判明すべし、吾人は唯今日に於ては之を事實として氏の冒險敢爲を多とすべきのみ、之に就ても憶起すべきは能海寛氏なり、氏の踪迹を知らざる茲に三年、氏夫れ遂に目的を達したりしか、將に今尚雪山氷海に間關し居れるか將に又た…………吾人は彼の可憐無定河邊骨、猶是春閨夢裡人の句を誦して時に潸然たらざらんとするも能はず。

○藤村操なる一學生が華嚴瀑上に死したる、實に憫れむべし、「ホレーショの哲學夫れ何するものぞ、宇宙は遂に解す可らず」吾人は彼か其の餘りに早く見限りたるを悲しむ。

○解す可らざる故に悲觀するの要何處に在る宇宙の眞相解す可らざるを以て死せばハーバートスペンサーは四五十年前巳に死すべかりしなり、藤村の死はある神經に磨せる病的たるは素より免れじ。

○然れどもかく眞面目に研究して始めて哲學も趣味あるべし、早く卒業でもして月給にありつきたがる滔々たる大學々生の如き宜しく顧みるべきなり。

○宗教など最も這種の熱誠なくしては悟入すべからず給にかきたる牡丹餅にては到底ウマからざるなり。

○僧侶の墮落とはこの熱誠のものなく眞面目のものなくなりたるの謂なり。

○熱誠と云ひ眞面目といふ、利口もの、利口ぶるものより見れば素より氣違の沙汰なり。而も維新の大業は此の氣違連中の賜なりと云はずや。

○維新の諸豪、最も大なるを西鄕南洲とし、最も敏なるを橋本左内とす、西鄕曰く先輩には藤田東湖を推し、同輩には橋本左内に伏すと。

○左内は當時早くも露國と親しむの吾國に利なるを主唱せり、其の論明白、博大の識、遠大の觀、今日に於ても敬讀すべきものあり、惜しむべし、年二十六にして斬らる。

○當時春岳公をして重からしめたるもの横井小楠橋本左内等の力最も多し、而れども鴻雪爪翁の參謀も亦忘る可ざるもの丶如し、鴻、福井孝顯寺に住する十年、機鋒頴脱方外の身を以て公に尊信せらる、福井を去て江州彦根に移らんとする時公に呈するの詩あり。

巾錫曾從拄翠微。荷衣橡食亦恩威。恩威到處如天潤。
只許山雲自在飛。

## 新罪言

藍川

▲開戰論

戶水寬人開戰論。無聊之極發狂言。雷同附和眞堪笑。白面書生萬口喧。

▲黑鳩公

滿州荊棘尙難通。擭骨萬人慷慨同。羊質虎皮爲底事。大臣爭拜黑鳩公。

▲古今稀

日月無光寒爾維。如斯慘事古今稀。君臣道斷皆讐敵。積骨爲山血作池。

▲各分飛

藤侯耄耋被群譏、匍匐何人奉指揮。堪笑群鴉喧噪後。東西南北各分飛。

▲談舊事

當人輕薄且休論。一片丹心不復存。徒使板翁談舊事。白頭老婦說新婚。

▲東京市

曠職多年貪俸祿。無端墜木笑猿猴。四肢徒動東京市。一個頭顱不可求、

▲腐敗多

收賄問題天下譁。法廷消息近如何。自冬涉夏猶淹滯。官署如蒸腐敗多。

▲電車賃

蛙住井中猶得意。不知鯨鰐蹴滄波。錙銖徒議電車賃。其奈國家經濟何。

▲入峽中

鐵路開通入峽中。龍蟠虎踞弔英雄。無端想起軍旗字。發若雷霆疾若風。

▲喚不還

松蘿書暗掩紅顏。一去幽魂喚不還。百丈飛泉懸素練。長爲涕淚滿人間。

## 新へなづち

久良岐

▲聞學生自殺乃作長歌

千早振る　神代の昔
伊邪那岐の　神の命（ミコト）が
はしけやし　妹の命を
はるぐに　尋ね求ぎつゝ
遠々し　夜見の國に

在り通ひ　通ひいまして
殿戸より　入りて見ませば
蛆たかれ　とゝろぐ妹を
畏こしと　逃げます時に
黄泉津醜女　追ひしくまにま
千曳石　引塞へまして
玉鉾の　道さへませば
かくり世と　現し此世と
立別かれ　隔てしからに
幾人か　思ひふかめて
あきらむる　事なりかでし
隱り世の　神秘帳を
常久に　垂るゝ悲しみ
垂花の　藤村の子は
若竹の　若くしあれど
明らむる　學の道に
事足らぬ　人の智識を
なげかひて　うたがふまにま
いさぎよく　命さゝげて
神の犠　學の牲と
二荒の　荒山中の
荒瀧の　水上に立ちて
人の世と　神の御國と
いづれかも　住みかよけんと
筆取りて　木立にしるし
百尺の　高き岩ほゆ
さくなだり　落つる水泡と
諸共に　消えてぞ失せぬ
あはれ〳〵　勇ましき子か
僞の　繁げき此世に
かくばかり　心きめなる
丈夫の　若子はなきを
いたづらに　命死にけん
あはれ〳〵　雄々しき子かも
その子らが　歸る時無み
歎かひて　獨居れども
せんすべもなし

▲送久保醫學士之歐西

鼻と云ふ鼻のこと〴〵研究らめて鼻高々に歸り來ませね

▲前月花壇にたてる眼の先にて左眼の白めをつき破ぶり、飛だ鎌倉權五郎も痛さに閉口佐々木竹柏園主齒いたみのため苦しむよしをきゝて

吾なやむ目いた鰈のかれ飯を食すにいたしと齒を
やめる君
なやむやむやむなやなやむむや／＼の文字さへ分
がず目をいたしちふ

▲佐々木氏よりの歌
世の中のあまりさだかに見ゆる眼をわたしと葭の
つゝきけらしも

## 馬言驢語

駝生

●書禪詩禪の號は誰でも用ゆるが、此頃「獵友」と云ふ雜誌を見たら獵禪と云ふ新熟字が有つた、禪の濫用も又茲に至て極まる。

●「輪王」と云ふ雜誌有り、多くの人は聞て自轉車乘りの機關と思ふ。見れば日蓮宗の機關である、更によく見れば保險會社の機關雜誌である。

●此頃「馬醉木」と題する歌學雜誌が出た。

●昔し讀賣新聞で全智全能の露國皇帝と云ふ原稿を校正の誤りで無智無能となり、周章狼狽號外を出して謝罪したことがある。これがそも／＼校正の誤りの最大なるものであらう。元來校正の失錯には天來の滑稽が多い、桂湖村君が曾て福井學圃君の詩に賛辭を呈して「日東詩祖」と書いた、ところが新聞では「日東詩蛆」と現はれ、學圃先生の激怒を買ふたとがある。數月前本誌の公論日誌では好謠會が間違ふて好淫會となつてをつた。

●讀賣でワルソーと云ふ地名を惡僧と書き、都下多くの新聞がクロパトキン氏を黑鳩公と書きしなぞは餘り躰裁が善くない。

●十年程前本郷追分で看板に兎肉販賣を誤て鬼肉販賣と書き人を騷がせたことがある。

●江戸ッ子はシラメの刺身を賞玩し、贅六はマムシのどんぶりを喰ふ。

●仙臺の劇場に「スリ御用心」の張紙皆「シリ御用心」となり居れり。

●埼玉縣の或る部分ではアヘル(家鴨)ヘルメシ(晝飯)ヘモノ(干物)と呼ぶ、試みに彼等に「火の子が飛んで來た」と言はして見玉へ。

●今度出來た甲府の停車場には「かふふ」と驛名が書いてある。

●蜀山人が曾て「ウデアヅキ」「ユデアヅキ」「イデアヅキ」と一の看板行燈へ三方へ三樣に記して誰れにも分

る樣にしたことがある、それに似て非なるは新宿停車場にシンジュクの羅馬字綴が三樣に書かれてをることである。

●村井煙草の廣告を一口一匕と呼んだ漢學者があるとは兼ねて聞いたが、此頃又ヒ一口一と呼んだ田舍者があると聞いた。

●或る中學生他人に書て貰ふた文章を「日一ッ飲み、日一ッ喰ふ」と朗讀した、何の事かと原文を見れば「且つ飲み且つ喰ふ」と云ふところであつた。

●英語の看板は大分正しくなつた樣だが、マダ〳〵妙なのが澤山有る、ブレッドハウス、パンショップ（麪包屋）フラワーマーチャントコンパニー（花屋）センダクター（洗濯屋）皆東京の眞中で發見した看板である。

●西洋人の中には東京を「トーカイオ」京都を「カイオト」と發音するものが多い。

●東京の兒童は英語を習ふ時ヒー（彼）をシー（彼女）と間違へて困る。

●一人一口にて呑むから一合と書く。

●或る漢學先生論語の「色難」の二字に就て何か好き對句は無きかと問ふ、一儒生言下に返辭して曰く、ソンナ事は「容易」です。



讀者之文壇

## 少年教育の上より見たる華嚴の瀑

（藤村は何故問題となれる）

表裏洞觀生

一躰自殺といふことは、善くない事である。誰がどんな場合に、どんな事情でやッたとしても、自殺者を賞賛するといふことは、吾等には出來ないことである。笑ふべきものはあらう、憐むべきものはあらう、ずッと進んで、泣いてやるべきものもあるかは知れぬが、褒めてよいといふ自殺者は、あり得べからざることである。

近頃藤村操といふ少年が、未熟な頭で宇宙を觀じ、不

可解と自棄して、　その他にまだもそッと有力な原因があッたと言ふものもあるが、……遂に身を日光華厳の瀑から投じて、自殺したといふので、新聞でも雑誌でも、大騒ぎをやッて居る。我等は、頗るこれを奇怪と思ふのである。

曾て藤村操の前に、益田某といふ少年が、華厳瀑から投身したことがあつた。また藤村操の後に、京都の商人とかいふ青年が、矢張りこの華厳瀑から投身して自殺したといふことである。然るに、たゞ獨り藤村操のみが八釜しく持て囃されて、他の二人者の如きは、僅かに小新聞の三面記者が嘲罵の筆に葬られたといふに過ぎないのである。同じく少年であり、同じく華厳瀑であり、同じく自殺であつて、そして世の毀譽褒貶の差、雲泥月鼈も啻ならざる所以のものは、抑々何等の理由によるものであらうか、人あり曰はく、藤村の死は、人生問題に煩悶した結果であつて、他は、痴情とか借金とかのためであるといふ點が、即ち兩者の貴いと貴くないとの別れる點であると、成程人生を不可解と觀じたのは、まアよいとして、さて死はよくこの不可解を解き與れるものなりや否やに想到することをさへなし得ざりしが如きは、その浅薄幼稚なること、失戀の結果この世を厭ふべしと觀じ、若くは債鬼の呵責にへこたれて、この世を愛しと觀じたる、彼の益田某京商人某等の人生觀と相距る幾干ぞ。彼若し人生問題に煩悶したりと言ひ得べくば、此亦人生問題に煩悶したるの結果なりと言ひ得べからざる道理があらうか。既に彼此等しく人生問題に煩悶したるの結果なりと言はゞ、藤村操のみ少年哲學者の尊稱を擔ひ、他は痴漢の汚名を蒙るといふのは、實にわからないことの極點である。況や藤村操は、鼬の最期屁的「巖頭の感」を遺したる表面の事實の外、更に裏面に、益田某京商人某等の死因と、畧ゞ同一なる原因を包めりとさへ言ひ傳へるものがあるのだものを。

そこで我等少しく考へて見たが、由來日本人程、肩書を尊ぶ人間はない。名論卓説でも、肩書のないものゝ唱へたのでは一向に耳を貸さうともしないが、肩書の立派な連中の言ッたことなら、どんな迷論濁説でも、感々服々する。それと同じいように、華族の息子とさへ言へは、少々足らなくつても豪いと思ひ、博士の親類だとても聞くと、大層學者かなンぞのやうに思ひ込む傾きがあるのである。藤村操が、若し吾等の弟か姪であつたら、世間は必ず一笑に付したらう、「巖頭の感」

を狂人の寢言とも見たであらう、死因を失戀とも發狂とも解するを憚らなかつたらう、しかし藤村操は幸運兒であつた、彼は博士那珂通世さんの姪と生れ、その死するや、この盛名ある叔父の能文を以て、痛惜賛歎の意を、日本第一の好新聞「萬朝報」紙上に發表せられ、殊に小說飜譯家として、新聞經營家として、この「萬朝報」の社長として、近くは「天人論」の著者として、學者無學者上流下流、あらゆる階級に畏敬せられつゝ、ある黑岩周六さんによつて和せられ、滔々として天下の注意を喚起するに至つたのである。これだけの道具が揃つて居れば、縱令「巖頭の感」がなくとも、縱令死因が何であらうとも、一寸世を騷かせるには足るのである。

とかう言つて仕舞つては、實も蓋も無さ過ぎる。實は我等とても、この前途有望な一少年が、無學なりしため、愚なりしため、疑問を解いて呉れるものがなかりしため、早まつて二ッとない大事な生命を捨てたのを氣の毒には思ふのである。然りたゞ氣の毒に思ふのであつて、決して豪いとも貴いとも褒めたいとも何とも思はない。從つて世間が、わい／＼騷いでこれを珍重がり、猥りに哲學者を以てこれを許し、甚しきは、知人から金を集めて碑を建て、不朽にその名を傳へやうなンて、愚擧を企つるものがあるとは、誠に以て抱腹絶倒の至りである。

我等は思つた、若し藤村操が巖頭から飛ンだ時に、そのまゝ瀧壺へ落ち込まずに、木の枝か岩の角にでも引ッかゝッたなら、彼は乃ち心機一轉して死を思ひとゞまり、こゝに始めて眞人間となり得たであらう。從つて修養を經て「不可解」を解し得るにも至ッたであらうに、誠に殘念なことであつた。又我等は思つた、若し藤村操が、あンなことまでして、確に死ンだものと思はせて、巧に姿を隱くして、もう一年もたつてから、飄然として歸つて來たらどうだらう。叔父さんや黑岩さんは怒るであらうか、喜ぶであらうか、多數の日本人は、どういふ態度を執るであらうか、さうなつたら、始めて人の心の底の底がわかるであらうに、誠に惜しいことである。

つまり藤村操は、愚にして憐むべきものであつて、これを擔いで、なンのかのと持て囃すのは、少年教育の上から言つても、社會風教の上から言つても、甚だよろしくないことであるといふのが、我等の結論である。

# 消夏法としての海洋學研究

高橋鐵太郎

科學の研究は品性を清高にするもの也。彼の英のグランドストン氏や、米のフランクリン氏や、佛のラプラス氏や、皆是れ政治家として外交家として俗塵の中に生活せし人々なるにも係はらず、其品性の清高なりしものは全く科學的素養の賚のみ。我國に於て元老と稱する品性の最も賤劣汚下なる仲間に於て夫の榎本武揚氏の如きは卑俗の中多少他の老物輩と撰を異にしたるが如き觀あるは全く多少の科學的趣味を解するが爲めのみ。京橋西紺屋町の地學協會に集會のある時氏の姿を見ざる事は甚だ稀れ也、蓋し氏が地學協會の會長として我國の地理學界に貢獻したるもの決して少からざるを認めずんばあるべからず。

由來我日本人の頭腦や甚だ明晰にして科學の研究に最も適當なるものあるに係はらず、古來漢學隆盛の餘弊として明晰なる頭腦を驅りて動もすれば則ち散漫疎浅に流れしめたり、故に今日に於て國民的頭腦改造の第一着事業としては科學的智識を養はざるべからず、而かして讀書子の如きは最も思を玆に致さざるべからず、人或は科學の乾燥無味をいふも是れ所謂『食はず嫌ひ』にして凡そ科學程多趣味なるものはなかるべし。殊に夏期休業の如きに際して氣象學を研究して雲の變化、風の動靜、或は雨、霰、雪、雹、霙、露、霜、雷、電、火球の現象を知る以て夏を消するに足るべく、又星學、天文學を研究して太陽系統、宇宙、星群、遊星、恒星、衛星、彗星、及び地球、太陽、月の運動、曆の原理、四季の生ずる理由、晝夜の長短を生ずる理等を辨ふるも妙なるべく、或は地質學を研究して地球發達の歴史を知り、地震の起る理由、火山、溫泉の生ずる理由、或は山嶽は何故に嵯峨として雲表に聳ゆるが、河川は何故に汪洋として流るゝか、湖沼は何故に森々として湛ゆるか等の理由を知らば三伏の暑熱も爲めに消失せん、其他生物學、岩石學、地文學等皆消夏的研究の好學科なりと雖、余は今最も多趣味にして實益ある學科を紹介して、我讀書家に勸めんと欲す、そは則ち海洋學也。

元來我日本が海國にして國民に海事思想の必要なるは余の喋論を待たざる處也、而かして海事思想を養ふには海洋學を奬勵するより急且つ要なるはなし、而かして海洋學を研究するには夏期休暇を利用するよりよきはなし、夏期休暇に於てくだらぬ和歌、俳句、漢詩、新體詩、小說の類に耽らんよりは趣味多くして實益ある海洋學を研究するの勝れるに如かず、蜿蜒たる激浪、危巖を嚙み、澎湃たる怒濤、艨艟を撲つは何の理ぞ、汐の干滿する、潮流の生ずる、海嘯の生ずるは何等の理ぞ、海底の有樣は如何、平板なるか、凸凹なるか、深さは如何等多趣味なる問題は皆是れ海洋學の研究に待つあるのみ。豈いかに壯快なる學問にはあらずや、故に余は學生諸君に切望す、夏休休暇には必ず海洋學を研究せん事を。

海洋學に關する著書は歐文には種々あれども邦文にては肝付兼行氏の『學海探究の指針』山上萬次郎氏の『新撰大地文學卷の二、卷の三』位也。而かして余の目下印刷中に屬する『海洋審美論』も亦此必要の爲めに著作したるもの也。

# 沈李浮瓜

杏村生

◉何れの家でも飯の菜は、亭主の好な物よりは、女房の好な物が膳に上せられるのを見ると、どうでも女房の權力が亭主を壓してゐる事と思ふ。

◉芝居や寄席で日延と云ふと、必らず大入なるに依つてであるが、淺草觀音の開帳の日延は、餘り參詣が少なかつた故で、換言すれば、大入に付日延ではなくて、不入に付日延なのであつた、まあ是などは面白い日

延である。
◉江戸歳事記などに據ると、東京に閻魔大王は百あると記してあるが、今日では漸く五十餘しか無い。その無くなつた譯は、廢寺となつたのにも依らう、失火にも依らうが、中には佛像を賣る和尚も多いので、自然滅じたのであらう。夫れかあらぬか古道具屋などにも閻魔や何ぞの佛像が店頭に曝されてある。
◉元祿以後の物には少ないが、其以前の石塔は往々紛失するとやら。明治の世になつて妙な泥棒が出來たものだ、御用心御用心。
○[illegible]は女の美いので賣り、魚は男のいなせで賣る。
○新俳優は成田屋とか音羽屋とか其屋號を呼ぶが、新俳優には別名がないので、何れの料理屋でも之を呼ぶに曰く、壯士屋さんと。
○役者と云ふものは女を欺す事や、子の出來ぬ事は固より寒中水を浴びたり、暑中綿入を着たり、白粉を塗つたり、朝寢をしたり、夜更をしたり、有らゆる不養生を仕盡して、親から受けた身體髮膚を害するもの、役者に上越す事は無い、畢竟役者は自身を傷くるばかりでなく、亦他人を害することも夥多しいのだから、毒を社會に流すことは、遙にペストやコレラ以上である、故に自分は世界の役者を集めて之を亞鉛塀で取圍み、漸次片隅より燒却するやうに仕たいと思ふ、と斯樣話した老人が在つた。

# 短文

## 紳士と貧民との家庭に就て

▲今日新知識の隊長、ハイカラ親玉を以て任ずる例の米窟に中の字の付く先生は、始めの内こそスウイトホームとかプラトニツクラブとか云ふを口癖のやうに言つて居るが、何がさて猿に近い連中であるから、持參附令夫人の我は顔なる振舞が少々鼻について來ると、そろ〳〵牡丹侯爵なぞの眞似がしたくなつて、御用有之京都大坂地方へ出張を命ずの御墨付が降ると、時こそ來れ命の洗濯と兼て人知れず一二度おなじみになつた新橋あたりの阿嬌をゴテ〳〵然たる丸髷に結はせ、一等の汽車室阿呆の限りを仕盡し、京大坂の贅六に艷福を羨やませる、サテ正直一圖の第三者は定めし東の都に殘され賜ひし令夫人こそ孤燈寂然空しく閨怨に惱れ給ふならめと思ふは皮相の考である、殿樣御出立のそも〳〵より御車は歌舞伎座あたりに枉げさせられ、はれての後の待合に閨燈影淡く例の小團次とか家橘とか云ふやうな覺性の膝に垂涎三尺口を拭つて人は知らじと思の外四知の誡まのあたり、殿樣の秘密は二六の紙上に、殿樣の内幕は朝報あたりにすつぱぬかれて知らぬは矢張り當人同士互に新聞つきつけて、サア〳〵のせりあひ宜しく、血で血を洗ふ閨門の亂れは、復もやさる新聞の三面記事、見出しは然も圏點付の「當世紳士家庭の亂脉」
「オヤお歸りかへ、今夜は大變遲かつたのねー」「ウン宵の口のからあぶれに所詮だめだらうと思つてたら、新橋行の上玉でお心付まで頂いたから、おれも大きに威勢がついて今一ツ甘い仕事を見付け樣と上り滊車を待つてたら、今度はおめへ本郷までの女客で少しは荷物もあつたが、よく親切にして吳れたつて、又御祝儀さ、それからもういひ加減に切上げやうとブラ〳〵やつて來ると向ふから上野の停車場までやつて吳ろと御聲掛りだから商買宜利で愁ばつたら大きに遲くなつたが、其代り今夜は大福々だぜ、お前此間何が欲しいたつけなア、下駄か、買ひれー買ひれーかう云ふ時買つて置かれーじやアいけれー、明日買ひれー」「それもそうだか私の下駄より三坊の靴を買つてやつてお吳れな、今日もお向ふの平岩さんのぼつちやんが靴を穿いてたら、おいらにも買つて吳れつてれ

だるんぢやアないかれ、誰しも同じ事で子供の時にやア人の眞似がしたいものだから、お氣の毒だが一つおごつてやつてお呉れな『ウン坊主めもうそんな事を云やアがるか、買つてやんれー買つてやんれー、なんならおいら是から往つて買つて來てやらうか『そうされー、だかお前草臥れてるだらうから明日におしな『ナーニあるくはおいらの身上だ、そんならちよツくら往ツて來るから…… お前もう夜業は止めにしれー、又病むといけれーぜ——

＊　＊　＊　＊

翌朝三坊が不圖目を覺して枕上を見ると、きれいな靴に赤い靴下まで添へてあつたから、いきなり飛び起きて兩手に靴を握んで可愛い〲ればけ眼をみひらいてニコ〲笑みかたむけて居るので、兩親も何かなしにアハヽオホヽの笑を禁じ得なかつた、適是れ俗に碎いた虎溪の三笑。

ア、平和の神樣は彼の紳士なぞと稱する汚れた家庭はお嫌で常に此の樂しき貧家の軒下に宿り給ふものと見える。（本郷　磐佛）

▲吁？紳士の胃に不消化となる丈けのものを貧民の口に入れしめなば、如何に我國の上下の家庭は健全ならん、吁胃腸病多き紳士！營養不足に苦める貧民！（波嶺）

▲日本の家庭に音樂らしひ音樂の無いと云ふ事は實に千載の遺憾である、假りにも紳士と言はれる程の人の家庭には、少くともオルガンの一ツ位は備へて置ひてもらひたひれ、紳士などと言はれる奴等は侍合へ行くのを二三度儉約すれば譯はないだろう、貧民でもさうだ、是非共ヴアイオリンの一ツ位備へて置ひて、一日の仕事をおへて一家團欒した時、主婦が之れを奏し、子供等が合奏する樣にでもしたらどうであらう、尤も今の日本には西洋樂器に適する樣な善ひ俗歌も出來てないが、ストライキ節ばかり唱つてると、人間が矢鱈に下卑下劣に爲つてしまふ、音樂大家先生樣々は何をしてゐるのだ、貴族富豪の子女を教へる斗りが能ではあるまひ、少しく一般人民に西洋音樂の趣味を吹き込む工風でもしたらどうだ。（啾々田夫）

▲現今の紳士とは所謂高襟的の男の現化だろうと思はれる、が然しながら十か十迄そうとは云はれない、そりや立派にゼンツルマンの資格を備へて居らるゝ方々も中々多ひが未だ是等の變名紳士の多ひのとは殆んど比較になつたものでなひ、だから其家庭なども腐敗、墮落、紊亂、等の形容詞は彼等家庭の特長である。そこへ來ると貧民の家庭なぞは實に圓滿なもので、夕顏棚の下涼み、なんて古から風流人否万人の口から斷へず稱賛せられて居る、成る程そうだろう、畜妾、色狂病なんぞは夢にも知らないで飽くまでも眞面目に末長く圓滑を保て行く事を始終心掛けて居る。だから僕なんかは紳士と聞ひては嘔吐を催し再度其家庭を耳にするに至つては眩倒せざるを得ずだ。情ないのは現今の紳士。（R.S.T.）

▲紳士の家庭の眞相は果して如何樣なるものなるかは、吾々貧民の窺ひ知り得る所に無之候得ば、何とも申上げやうも無之候得共、貧民の家庭に就て少々申上度き事之有候間、耻し乍ら玆に私の家庭の眞相を御報告申上候、他の一般貧民の家庭も、多くは私と大同小異のものと御賢察被下候ばゞ、差したる違ひは無かるべくと存候。

私には母（六十五才）と妻（四十二才）と三人の子供（皆女）と有之候、私は足駄齒入業を營み居り候が、母と妻とはマッチノ箱を貼り、長女（二十才）と次女（十六才）とは村井卷煙草工場へ通勤致居り候、此五人の一日の所得は、合計三十五錢乃至四五十錢位に過ぎず、私の如きは終日諸方を驅け廻りて一錢の所得すらなき事、往々有之候、六人の家族にて一ケ月僅に九圓乃至十二三圓の收入に候へば、生活の困難なる事は略ぼ御賢察被下度候、御參考の爲め左に膳立を御覽に供し候

朝、粥、漬物、
晝、外國米飯、煮〆（多くは野菜類）
夜、外國米飯或は粥、味噌汁（鰯の干物などの時もあり）

『貧すりや鈍する』と云ふ諺も之有候通り、貧乏すればお耻しきまでに愚痴ぽくもなり憤りぽくも成り泣きぽくも成るものに候『モオー明日のお米が無いぢやーないか、如何すると云ふんだらう、質の利子も拂はればならないし、それに家賃だつてまだ先月分が其儘になつて居るんだし……アヽ、モオー婆婆が厭やになつてしまう』。これは女房より時々聞かさるゝ愚痴に候、これも至極尤もに候、然しあまりうるさくこぼさるゝ時には癇癪ムラ〳〵と起りてつひに論に花が咲き、近所隣りに濟まぬ迷惑を懸け候事も度々有之候、誠に恐縮の至りに候。

家主の旦那などは、大概胴慾非道のお方に候故（失禮な云ひ分なれど）タナコの爲めには衛生もヘツタクレもあつたものにあらず、長屋（私共の住む）の多くは冬は寒く、夏は熱く、床低く、空氣の流通惡しく、宛然是れ豕小屋に候、コレラ赤痢などの惡病が多くは貧民窟より發生するは、あながちに私共が不精の爲めのみに因る理由にても有之間敷と存候。

齡老ひ行くに從ふて、未來の事も氣懸りに相成候故、夜分暇の折にはお寺へ參りてお說教など聽聞致し度存居り候得共、何處のお寺に於ても夜間の御說教は無之、大に失望致し居り候。

寄席などへは家内代る〳〵にて、年に一度宛位氣晴しに行く事有之候、近傍の緣日には、必ず小供引き連れて散步乍ら參り候。

過日安邊磯雄先生の公園論を拜聽致し候、日比谷公園の如ものを作るよりも寧ろ都下の人口調密なる所、或は各貧民窟に於て幾多の小公園を施設する必要か有る（勿論市の體面上より云へは日比谷公園の如きも必要なれ共）公園は恰も家屋に於ける窓の如きものであるから、元來空氣流通の宜しい日比谷などに左程急いて公園を造る必要があるまい。とは、先生の御話しに御座候、誠に感謝之至りに候、皆様の御意見は如何に候哉。

ふところ手して生涯楽しく日送りなし給ふ富豪の方々多き世に、一と日とて骨休むる事も得せずせつせと働き候ても樂々と日暮らしも出來ざる始末、男の面目皆無と可申、汗顔の至りに候。

『貧乏者の子供澤山』とつれ〳〵皆様より御笑を受け居り候次第に候が、妻も目下妊娠中に候故、此末の事益々案じられ候。最早夏に入り申候、九尺二間の裏店に家族六人、一つ木綿蚊帳の内に寢ねばならぬ苦しさ御推察被下度候。

思はずくだ〳〵しき長文と相成申候、御都合上短文欄に御掲載無之候とも、我が尊敬する記者閣下の御通讀を辱ふするを得ば有難存候　頓首

（芝　碌　父翁）

▲紳士の語は唯た美髯唯華飾酒食を恣にするの人稱なり、貧民とは粗食襤褸を身に着け、此等の紳士なる者に蔑視せられ絕ず苦痛を受くる憐むべき人を云ふ。

紳士なる主公傲然として美味香酒に飽くの側らに家族は僅かの殘肉と殘物にて腹を充たしつゝあり外に醜業婦に戯るゝの彼は內に下男下婢を酷役するの彼なり。

貧家の親爺妻子共々漸く口を糊し一椀之盛切に貧賤の洒子供は腐れかゝりし僅かの殘り物に味なき下等の米にて辛く飢を凌ぎ親に向ては不絕衣服の喧嘩又は働き不足の小言のみ。

而して其家庭の亂脈や一なり、其不平や一なり、其無教育や一なり、紳士は貧民の美髯華飾せるもの貧民は紳士の襤褸を被たるもの、共に健全なる國民に非ず。

（熊　川）

▲今の所謂紳士は只だ外形ばかりが立派て、其內情に至ると迚ても紳士

など丶大きな顔をして誇ることは出來ない、貧民の家庭と比らべたら實に外形は宵壤の差があるが、一度其裏面を窺へば裏店に居るものとソンナに差があるやうに思へない、一家の和樂を欠きたるところ、其の心情の冷かなるを、殆んど氷の如きものが割合に多く、社會の風教を紊亂する源は、皆此の紳士と貧民に胚胎するので、實は紳士と貧民は二つながら一國の危介物なのであると思ふ、紳士と貧民の殺風景たる家庭を目撃すると、實に嘔吐を催す、殊に立派な紳士の家庭に向つて甚しく感ずる、貧民は氿に憐むべく紳士は寧ろ疾むべし。（一來）

▲日本紳士の家庭に欠くべからざるもの、三あり、日はく妾、日はく、日はく借金證文、日はく呼鈴。（ちゝか）

▲貧民の家庭を訪問する婦人の團隊あり、之れを救世軍愛憐隊といふ。（青葉生）

▲日本紳士の家庭は漸く改善の途に就けり、嘗て其靑年時代に於て社會の腐敗墮落を罵り、悲憤慷慨せし徒、稍々年齒を加へて世相を知るに及びて先づ家を齊へて而して後に國を治むべき所以を悟りしによる、明治の新家庭は洋行歸の從五位様の書齋にあらずして、中流紳士の茶の間にあり、（仝）

▲貧民の家庭といへば必ず子多き事を連想す、帶しどけなき女房を想ふ、味噌漉を想ふ、澁團扇を想ふ。夕顔棚の下涼を想ふ。（流東生）

▲家族十人連にて博覽會見物、二十五日間の旅の空、遍く關西の勝を探りて家に歸る、費す所三千圓餘紳士の家庭に於て初めて之を見る、頃日不景氣を憂ひて縊死せるものあり世はさまぐなるかな。（ＯＰＱ）

# 課題

## 我家の消夏法（七月十六日）

## 近時の出版物に就て（八月十六日）

# 新刊紹介

## ▲▲宗教清話　心靈夜話

暁烏敏氏輯

京都東六條　法藏館發行

共に精神界一派の光明主義を鼓吹せる斷片なり。兎に角に現今の佛教界に於て信仰を求めんと欲するものは此一派の教に依らざるべからず、前者は暁烏氏一人の筆多く、後者は同派の人の書多し、（定價十五錢）（同廿錢）

## ▲人生問題

楠龍造氏著

仝　法藏館發行

楠龍造氏は學殖ある人、浩々洞同人の中に別に一旗幟あり　吾人は氏の學が大に其思想を穩健ならしむる所あるを知る。先に佛教管見の著あり、此著亦讀むべきもの多し（定價二拾錢）

## ▲處生の道

御風貞人著

大坂東區南本町、金尾文淵堂發行

自我とは何ぞや、社會とは何ぞや、個人としての生活、社會に於ける號一、道德的生活、道德的進步、以上目次（定價拾錢）

▲人道教育論　ラルフ、ワルド、トライン原著

東京神田南甲賀町八　内外出版協會發行

動物虐待防止會叢書の號外ともいふべきもの、譯者は山縣悌三郎氏には非るか、泰西の偉人傑士が動物に對する溫和なる感情を有せし例を擧げたり、小册子なりといへども悉く吾人會心の文字なり　飜刻自由

▲天人論　黒岩周六氏編

東京京橋區弓町廿一　朝報社發行

同氏の別著、氏が所謂美文以外の文章美をも見る事を得べし、詳評は公論欄の芳村氏に讓る　（定價參拾五錢）

▲創世記概論　グンケル博士原著　中村正路氏譯

東京市小石川上富坂町卅九　ハンスハース發行

一名を「創世紀の斷」といふ。誠に然るべきものなり。創世記を一種の詩的宗教的物語として研究したるもの、本書には之れを高等批評といへり。又曰はく「日本の古典に古事記日本書記に於ても用ひらるべき斷に關する新らしき提説を看出すならん」と、吾人は寧ろ佛經に此所謂高等批評を加へて經説中の史的詩的物語を研究せん事を世に勸むるものなり近來の良書といふべし。　（定價廿五錢）

▲戰爭的基督教　山室軍平氏箸

東京芝區二丁目　救世軍日本本營發行

山室氏は先に平民の福音を著はして救世軍の面目を肖像した、今又此書あり、此書は其續篇ともいふべきもので、氏が油の如き雄辯を紙に記したので例の平民的のすゝめである、基督の救道熱者への殉教史、貧民の福音、家庭の宗教等に於て大に吾人は動かされた。　（定價廿五錢）

▲チエンバーレーン　吉川曾水氏著

東京神田南甲賀町　内外出版協會發行

現英國殖民大臣の小傳なり、現代の流行兒より帝國主義と商業經營に重る全篇十四章、實に彼は現代の流行兒なり世界の流行兒なり、我國も亦一面に於て彼の如きものを要す誰か彼の經營の才を學ぶものぞ。　（定價廿錢）

▲我家の犬猫　堺枯川氏著

東京神田南甲賀町八　内外出版協會發行

動物虐待防止會叢書の第一編で、名の通り枯川氏の家族であつた犬と猫の歴史であつて、誰が讀んでも面白い、我輩は敢て此書を大方の老壯少年諸君に推薦する。　（定價八錢）

▲女學之栞　松原岩五郎氏著

東京日本橋區本町　博文館發行

女學世界の編輯員と稱する人の此書、御手前は同誌にて拜見致居候得共今更に感じ入り候、女學生の卷、主婦の卷、母親の卷、共に皆ハイカラ風に陷らず、御家流に拘らず隱健なる御主義と存候、附錄の女流大家の教育意見も亦聞くべきもの多く有之候、但し女學校案内を添へたるは如何なる思召にや緒言だけ言文一致體にしたるも異様に存候、　（定價參拾五錢）

▲迷の跡　曉鳥敏氏著

東京本鄉四丁目九　文明堂發行

明治今日滔々として信仰のなき詩人文學者の間に於て、詩人に非ず文學者に非る氏が迷ひの中に佛光の閃くを拜しつゝ歌ひ出でし此一卷、未だ千古の絕唱なしと雖、此書を懷にして綠蔭に行かば必ず白衣の觀音を見ん。

▲不良年少感化法　伊藤思恭氏著（定價四拾錢）
仝　上　文明堂發行

著者親しく米國に航し普く彼國に於ける感化事業を視察し來りて此著を編みしものなり、縱令其事業に身を委せざるものと雖、心ある宗教家教育家は見てよきものなり（定價廿五錢）

## 彙　報

●西比利大鐵道の總延長　西比利大鐵道線路の距離に關し露國遞信省の報告に依れば總延長距離七千七百八十三露里にして之を各鐵道線路に依りて區別せば左の如し。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 西比利線 | 三一四〇露里 | 後貝加爾線 | 一四一八露里 |
| 烏蘇里線 | 八一二露里 | 東清鐵道 | 二四一三露里 |
| 計 | 七七八三露里 | | |

而して聖彼得堡浦鹽間の距離は七千二百十七露里彼得堡旅順口間は七千五百三十五露里なり前記總線路敷設費は今日迄既に七億八千萬留を支出せりと。

●全國の金山と製金高　其筋最近の調査に依れば全國の金山及び製產高は左の如し。

| 位置 | 採鑛高 | 製出金 |
|---|---|---|
| 山形縣羽前國 | 一万二十貫 | 五百〇一匁 |
| 岩手縣陸中國 | 廿三万七千四百貫 | 一貫九百二十匁 |
| 新潟縣佐渡國 | 五十九万八千八百貫 | 廿七貫三百五十七匁 |
| 茨城縣常陸國 | 十万八千貫 | 一貫百十匁 |
| 石川縣加賀國 | 十五万千八百八十貫 | 五匁四百五十匁 |
| 福岡縣筑前國 | 百三万五千七百八十二貫 | 十三貫九百八十匁 |
| 大分縣豐後國 | 廿四万三千七百四十九貫 | 一貫四百九十五匁 |

●古社寺保存　前月開會の保存會にて新たに確定したるは左の十ヶ所にして近々補助金を下附する由。

京都府　鹿苑寺金閣（一萬圓餘）平等院鳳凰堂（一萬圓餘）△大阪府　建水分社社殿（四千圓餘）△奈良縣　東大寺大佛殿（四万圓餘）橿原神宮本殿（七千圓餘）談山神社十三重塔等（七千圓餘）△滋賀縣　石山寺本堂（七千圓餘）光淨院客殿（五千圓餘）△愛知縣　萬德寺多寶塔（三千六百圓餘）△廣島縣　嚴島神社廻廊等（一萬五千圓餘）

●臺灣の宗教家特待　臺灣總督府にては同島に渡航し現に布教に從事し又將來布教の目的を以て渡臺又は歸還する宗教家（日本人たると外國人たるとを問はず）には郵船商船兩會社命令航路の汽船に無賃又は割引を以て便乘せしむることを取計ふことゝし各地方廳に於て便乘券を下付することゝしたり各宗派管長は一等船客の待遇を受けて無賃管長以外の布教者并に耶蘇教布教者は定額運賃二割引とす宗教の種類は左の如し。

一神道　內務省に於て宗教團體と認めたるもの及神宮奉齋會
二佛道　內務省に於て宗教團體と認めたるもの
三耶蘇教　同上

●石炭の消費高　其筋の調査に據れば全國に於ける最近一ヶ年

の石炭消費高は總計六百六十二万八千九百五十八噸にして之れが需要の用途の類別すれば左の如し。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 船舶用 | 一、三八七、〇一〇噸 | 鐵道用 | 六二二、七四六噸 |
| 工場用 | 三、八一三、九二三噸 | 製鹽用 | 八〇五 二七九噸 |

●赤十字社の財産及び救護準備　三十五年度末の調査に據れば日本赤十字社の財産は土地十萬三千三百八十五圓餘、建物二十九萬九千七百九十四圓餘、備品六萬五千百九十八圓餘、救護材料廿七萬九千六百十九圓餘、圖書一萬四千九百一圓餘、全債證書百八十四萬五千四百七十九圓餘、船價九十三萬五千圓、繰替貸八萬九千五百五十三圓、銀行預三百八十五萬九千六百廿圓餘、現金十三萬三千三百四十八圓餘、合計七百六十二萬一千八百一圓餘なり又救護準備は着々整頓の域に達したるが各支部を通じ本三十六年度以降十ヶ年間に於ける準備費概算は養成費四十九萬六千三百八十一圓四十六錢、材料費十六萬九千五百六十六圓四十六錢、合計六十六萬五千九百四十七圓九十二錢にして右十ヶ年間に準備元金として使用し得らるゝ金額は百七十五萬八千九百五十四圓七十四錢なれば差引百九萬三十六圓八十二錢の過剰を見る次第なりと。

●布哇の日本醫　布哇に於ける日本醫の開業者は目下三十名あり白人の同業者は九十二名に及び日本醫開業の餘地既に少く今後ば更に五名の新開業者を容るゝを得るのみなりと。

●マニラ在留本邦人　在マニラ成田領事の報告に據れば五月三十一日現在本邦人總數は七百十餘人にして其の職業別中最も多數なるは漁夫五十大工職二百三十酌婦二百七十人等なり。

●張之洞の献策　張之洞が西太后及び皇帝の下問に對し清暦五月四日を以て奏呈したる滿州問題に關する意見書の要項を列擧すれば左の如し。

第一　日英米三國に照會し三國をして協同一致せしめ以て直接露國政府に交渉し改めて撤兵實行期日を確言せしむる事。

第二　中國は右撤兵完了後盛京、吉林の市場を公開する旨を該三國に提言し以て彼等の對露決心を益々鞏固ならしむる事。

第三　兩省の行政組織を改正し他の各省に準じ道府、州、縣、邑の行政區を設置し現在の將軍は之れを廢免する事。

第四　盛京省は當分直隸總督の管理に隸屬し袁世凱をして親しく緊要なる行政命令を施行せしむる事。

第五　袁世凱は自から其練軍を盛京省に派遣し露軍に代りて其安寧を維持する事。

第六　露國に交渉し東清鐵道警備隊を左の如く制限せしむる事。

| | 盛京省 | 吉林省 | 累計 |
|---|---|---|---|
| 歩兵 | 一、三〇〇 | 一、二五〇 | 二、五五〇 |
| 騎兵 | 七〇〇 | 六五〇 | 一、三五〇 |
| 工兵 | 一、一〇〇 | 一、一〇〇 | 二、二〇〇 |
| 合計 | 三、一〇〇 | 三、〇〇〇 | 六、一〇〇 |

第七　今後露國より中國の利益及び威嚴を侵害すべき密約案を提起し來る時は直に之れを日英米各國に漏示し以て其援助を求むると同時に彼の各國をして亦憤起せざるを得ざらしむる事。

第八　此際朝廷の臣僚は勿論地方官に至る迄硬直堅實を旨とし上下心を一にして以て此國難に處すべし之れに違悖するものは假借するとなく或は免官し或は法刑を科する事。

●蠶種業發達の趨勢　我國に於ける最近四ヶ年間蠶業發達の趨勢左の如し。

| | 蠶種製造家 | 原種掃立蛾數 | 繭の生産高 |
|---|---|---|---|
| 卅一年 | 一六、七八五人 | 六、六六八千蛾 | 五〇、三六〇石 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 卅二年 | 一六、四〇九人 | 六、六六五千蛾 | 五六、一三〇同 |
| 卅三年 | 一六、三二二同 | 七、二八六同 | 五四、〇二七同 |
| 卅四年 | 一三、七四五同 | 七、九一六同 | 六九、五九〇同 |

之に依れば蠶種製造家は漸次減少し原種掃立及蠶生產額は每年增加の趨勢を示せり右は小製造家次第に減少し大製造家之を併有するに至りたる結果にして昨今兩年は特に合併の甚しきものある模樣なりと。

●秘露移民　森岡商會の取扱にかゝる千二百名の移民を搭載したるヂユーク、オフ、フオーブ號は前月二十日神戶港を出帆したり移民の外數十名の上等船客便乘し其内には政府の派遣員もあり三井其他の派遣員等もあり神戶より秘露國里馬府に直行し移民を上陸せしめ歸航には硝石棉花を搭載し來る筈にて本月二十四五日着船八月中旬同地出發九月中旬には歸朝すべしと。

●貧民學校生徒の狀態　本年三月より開始せし東京市下谷萬年町貧民學校に於て調査せし生徒の數百五十名（內男七十七人女七十三人）の內〇無爲に消光するもの男十一人女二十五人〇留守番男二人女二人〇子守男十九人女三十二人〇家事の補助男二人女八人〇絲繰女一人〇卷煙草卷女一人〇屑硝子選り男一人女一人〇新聞配達男二人〇製本男三人〇煙草の吸口造男五人女四人〇下駄運び男一人にして留守番以下男二十六人女四十八人は家計の補助を爲す兒童なりと云ふ。

●世界の最大軍艦　目下英國に於て建造中なる一等戰鬪艦の一なるコムモンウエルス號は、去月グラスゴウのフエイアフイールド造船會社船渠に於て進水式を擧げたるが、同艦は世界の最大軍艦にして長さ四百二十五呎幅七十八呎深さ二十六呎九吋排水一万六千三百五十噸、速力は十八浬半を有し、七百七十五人の乘込員を入るゝに足る。

●米國に於ける豐作　米國農商務省の報告に據れば本季收穫豫想高は五億四千六百餘萬ブッセルにして昨年の實收額を超過すると一億三千五百餘萬ブッセル、近年稀なる豐收なりと。

●韓國の軍備擴張　韓國政府は曩に軍制を改革して義興、龍驤、虎賁、忠佐、中武の五衞を設け之を統轄する最高軍務機關として五衞都總府を新設したるが新任軍部大臣李鳳儀は鋭意軍備の刷新を謀り議政尹容善、參政金聲振等の同意を得左の擴張案を起草し此程皇帝の裁可を經たりといふ。

一、皇城守護を鞏固ならしむる爲め京城親衞隊五百名を增募する事

二、平安道の防禦を鞏固ならしむる爲め平壤鎭衞隊一千二百名を增募すると

三、北部境上の警戒に備ふる爲め義州鎭隊三百名を增募すると

四、軍機の獨立を期する爲め京城及び平壤に軍機製造所を設置する事

明治三拾六年

# 公論日誌

其七

# 公餘日錄

# 公論日誌

自五月廿一日
至六月十五日

十六日　▲議會、地租繼續案に就き桂首相の例の朗讀的演說有之次て曾根藏相は頗る簡單に同じく演說有之候、●外電、露國にては猶太人排斥運動激しくキーッ府の猶太人三万七千人追放せられしと事、▲清國貝子午後貴衆兩院を參觀▲不動貯金銀行の出金貯金は富籤に類する由を以て本日其筋より停止を命せられ候、猶之れに類似の者も同じく候、

▲會合、文學博士會、午後一時より文部省に於て開かれ紅露二小說家に博士號を贈るべしとの議は宿題に相成候　▲凶歉救濟慈善音樂會、音樂學校に於て今明兩日▲倉庫業者聯合大會、大坂に開かれ候

十七日　▲議會、休會●外電、韓廷外部は露公使に向ひて龍泉郡に在る露人を撤退せしめよといふ强硬な公文を送る事に決定致候由▲松田市長辭表を出し候由▲足尾大火▲會合、商業學校長會議、高等商業學校內にて開かれ候、會期は一週間の豫定に御座候由▲中央商業學校講話會、▲鹿兒島丸の患者は一名は眞正ペストと相定まり候　▲本日曾根藏相の邸に暴れ込みたる學生有之、千家知事の子息も其一人になりし由、三人共に酒氣を帶びたりしとの事苦々しき次第に存候

▲本日橫濱にて生絲の初取引有之一括千百圓に御座候、

十八日　▲議會、本日大臣悉く出席、追加豫算案に就きて質問と說明にて散會致候、最早妥協略々成立致居候樣子に相見え候、

▲今夕本鄕三丁目にて電柱に昇りて作業中電氣に觸れて即死したる工夫有之候▲下の關大雨出水、滊車不通▲櫻田門外に紅雪を降らせし水戶十八士の一人海後宗親氏死去、從六位を賜はり候

十九日　▲議會、議事なくて本日休會午後地租案委員會有之、勿論原案否決致候▲天皇陛下には獨逸皇族殿下、御訪問の爲め芝離宮に行幸、同じく獨逸皇族も參內▲松田東京市長以下三助役の辭表並びに市參事會員一同の辭表は仁杉市會議長の手許に回附致され候由▲本日近衞公邸に園遊會有之候、政友會員は一人も招待を受けざりし由時節柄面白く存候、

二十日　▲議會、豫算委員會總會有之候、いよ〱妥協始まり候議會とやらもはや無意味なものに相成候▲貴族院決算委員會有之候●外電龍泉郡駐屯の露人に就き森林契約に依りて入韓したるものなれは寧ろ之れを保護すべきものなりと露公使は韓國政府に回答したりとのこと▲學位授與、醫學博士、菅　之芳、文學博士、田中義成、▲河口慧海氏歸朝本日神戶着港▲本日一高對米艦ケンタッキー號野球試合有之、別に勝利を誇る程にもなかりしと覺え候▲歸休臺灣要塞砲兵拔劍して通行人を傷け候由●日清間郵便協約は本日北京に於て調印濟と相成候間附記致置候、

廿一日　議會、果して停會の詔勅下り候、妥協行惱みの結果と申候▲直に政友會進步黨共に代議士總會を開き候●外電、清國償金に就ては英國も米國と同一の條件銀貨拂を承諾するに異議なしと清國政府に通告致候由、▲東京市會、本日關、山根、杉原の三氏を新選して他は重任と定め市長以下の辭表を報告致候▲日本銀行正貨準備は一億一千万圓を超え發行餘力本日に至り四千三十万圓に達し候、かゝる事は未曾有に候由▲本月中旬頃の輸出入表を御一覽に入れ候

| | 本月中旬まで | 一月以降累計 |
|---|---|---|
| 輸出品價 | 八、一八三、三五一圓 | 九六、七五九、六一八 |
| 輸入品價 | 九、六二九、二九〇 | 一三三、一五五、三九四 |
| 輸入超過 | 一、四四五、九三九 | 三六、三九五、七七六 |

廿二日　▲尾崎行雄政友會を脫會致候▲貴族院は殆ど沈默の態度に相見え候、

●外電、奉天附近の炭坑に多數の勞働者あるを理由とし、露國は新警察署を設くる筈なりと傳へ候、▲電流竊取事件は大審院に於たにて竊盜犯の宣告を受け候、電流は有體動產なりや否やに就て理由說明有之候▲鑛毒被害民上京を企て居候

廿三日　▲政友會代議士總會、常務委員をして政府に再交涉を爲さしむるの說といふに起立多數、日本は不思議なる立憲帝國と相成候、議會も政府もなくて政友會のみ有之候否伊藤侯のみ有之候、●外電二百餘名のバルガリヤ士官は近頃二千六百餘名より成る部隊を引率してマセドニア國境を越えたりと有之候▲北海警備艦操江號根室冲に於て坐礁、▲第一高等學校生徒藤村操なるもの人生を小觀して日光瀑布に身を投じて死去致候、巖頭の所感に萬有の眞相は日はく「不可解」と有之候、要するに數ふる人なき時代の罪に候、

廿四日　▲政友會協議員及各團體代表者は議長官舍に集會し昨日大多數を以て可決せし政府再交涉說を取消し全然政府に盲從する事に決し候、これ伊藤總理の御指圖に依る事に候由此邊が政黨の面目にや、直に政友會代議士總會を開き候、▲猶總會の終りたる後妥協贊成の旨を伊藤總理に言上に及び候、天下泰平の事に候▲進步黨は政府不信任の上奏案を決議致居候▲橫濱にペスト新患者現はる、▲街鐵大株主會、東京電車と合併を希望する一派は本日帝國ホテルに會して株主に勸誘狀を發し候、街鐵ゴタ〳〵を生じ居候▲操江號坐礁救助の爲め葛城艦北行

廿五日　▲首相桂子は妥協の成立を各大臣に報告し尋て宮中に參內致候▲地租案外四件愈々撤回に及び候▲同時に又妥協案をも提出致候▲此頃片岡健吉氏政友會脫會を噂するもの有之候、▲アイヌ人が東京回向院相撲場にて竊盜罪にて捕縛され候、

廿六日　▲皇太子同妃兩殿下午前八時大坂へ行啓議會開會外交に關する大石氏の質問演說有之候▲進步黨代議士總會　上奏案の草案に就て討議致候、▲政友會脫會者續出の趾に候▲文部省は英語教員養成の爲め留學生を一名試驗法により募集致候、姑婆が天氣の都合にて燒芋買つて呉れた樣な譯に御座候、▲同五名、一名機關學他は醫學、新留學生發表相成候皆內の息子に御座候▲帝國殖民學校上棟式、

廿七日　▲兩殿下大坂着御　▲議會　根本、井上、山根等其人々專門の質問演說有之、日程第一上奏案の可否を議し、首相の朗讀的演說有之二百廿八に對する百廿三の少數にて否決の運に會し候、▲政友會內の非妥協派無名會擧つて脫會致候▲不忍池畔にて學生斬られ候、犯人搜索中▲昨日入港の獨逸汽船アラゴニア號乘組クック支那人一名ペストにて死去致候、

廿八日　▲議會、岩谷松平氏建議商議院設置案とやらの提出理由を說明せんとて登壇せし時は既に退席する者多く議員半數に滿たずして散會を宣告せられしとは氣の毒千萬に存候●外電、英國皇太子印度に行かんとす▲伊太利皇帝倫敦に向ふ。▲臺灣經費削減問題に就て伊藤侯は首相邸に赴きて密議致候、▲足尾銅山鑛業停止の請願、卜部喜太郎氏外六十餘名の連署を以て貴族院は富田鐵之助氏衆議院は鳩山和夫氏の紹介により本日差出候▲本日橫濱市參事會はペスト豫防費一萬餘圓追加の件を可決致候、

廿九日　▲東宮殿下堺水族館御覽、▲淸國貝子殿下本日下ノ關御發御歸國の途に就かれ候、並びに東北饑饉地に御救恤金を賜られ候▲追加豫算委員會、（貴衆兩院共）▲議會、文部、農商務兩大臣の不信任を議

決致候、何をなさる事やら▲外電、印度プンジャフ洲内に於て本年[illegible]一月一日より五月二日迄の黒死病死亡者は十四万千七百八十九人と數へ來り候、▲佛國大統領も亦伊帝に緞いて英帝を訪問すべしとの事に候、▲昨夜、赤坂南山に於て我家に放火して自殺せんと企てしもの有之候、生活の困難なる餘りに出てし事の由、

▲本日街鐵非合併派株主靑年會館に會合致候、

三十日　▲天皇陛下には午前中央幼年學校卒業式に臨御、議會、豫算追加算修正可決、

卅一日　▲議會、六月四日會期延長の命有之候、鐵道公債二法案共に可決、▲貴族院各派は豫算案に就きては大躰衆議院の決議に協賛する事と相成候由●英皇太子印度行は虛報に候ひし由▲東宮同妃兩殿下博覽會行啓、▲明日日比谷公園假開園式執行、毎日午前五時より十時まで開園相成候、

六月一日　▲東宮妃兩殿下舞子行啓、貴族院は上奏案を提出する筈なりしも本日更に協議の結果之れを見合せ公債政畧を非とし、財政整理を以て財政を作るの議を提出する事に定め候▲貴族院豫算委員會にては各分科主査より、衆議院議決通り決定したる旨報告有之候、

▲去月下旬の貿易左の如くに候

輸出品價　七、六六五、四四八

輸入品價　九、三三一、五三四

輸入超過　一、六六六、〇八六

二日　▲臺灣經費豫算は既に否決の運命となりしも緊急支出の名により實行する旨に内議ありと聞及候推しからぬ事に候、▲進步黨提出の鑛毒質問は全く技葉の事項に過ぎず、根本的解決は到底現時の財政にては能はずと其儘に相成候▲所謂延取引なるもの開始してより、果して所謂定期取引は殆ど皆無に相成候、當局以て如何となすと可申候、▲いよ〳〵新法令發布と相成、商業會議所が解散を申請し若くは新組織を出願したるもの本日までに三十九、認可を得たるもの長崎函館厳島に御座候、東京のは未だ認可無之候▲日本銀行の調査によれば去月中東京物價は三厘一毛の騰貴に候由▲本日淺草に消防の大喧嘩有之候、

三日　▲議會、貴族院にて衆議院通過の諸案を可決し、且財政に關する建議案を通過せしめ候▲東京會議所總會、▲街鐵問題も一先づ落着し合併派の勝利に歸したる姿に候▲東京府參事會、▲東京市會、

▲川上音二郎夫婦拘引せられ說諭を受け候、

四日　▲議會、足尾銅山鑛業停止の請願は貴族院にて委員會議に托する事と相成候、▲衆議院は高野孟矩氏の資格を議し候▲並びに委員會は資格あるものと認め候▲大日本消防協會創立▲私立東京保育院設立、東京小石川水道端二丁目卅七、▲岩淵町大火、滊車の烟突より、

▲瀧布投身者藤村少年吊魂會、

五日　▲帝國議會閉院式、▲桂首相は帝國ホテルに於て兩院議員慰勞の宴を設け候、此度こそは眞の慰勞に御座候、▲東京電燈會社、重役決議一割二分配當、▲下谷にてペスト有毒鼠發見、▲侯爵池田章政死去　▲露國の贋造紙幣橫濱に現はれ候、

六日　●外電、ルーター報は米國大野火起り、紐育州は烟の爲めに交通を防られ候由傳へ候、又非律賓大風害の由、▲片岡衆議院議長、林有造氏政友會脫會、▲政友會議員總會、▲街鐵重役會議、條件を附して電鐵會社と合併を交涉する事に決し候由、雨敬氏（非合併）は即日辭表を出し候由、▲進步黨議員總會▲關東聯合教育大會本日より千葉縣會議事堂内に於て▲本日文學士藤井宣正氏巴里にて仝淸澤

猶之氏は郷里三河にて死去致され候宗教界の爲め惜きことの限りに候▲慈善音樂會上野音樂學校▲西洋料理會、本所龜澤町一、▲渡邊秋男醫可亂暴、玉利喜造（農學）博士報恩紀念式▲盲人醫學協會、

七日　●外電、露國人の猶太人虐殺又々傳へられ候、▲獨逸皇族タブルヒト親王殿下は横須賀に成らせれ候由▲近衞議長任期滿了に付園遊會を上野精養軒に催され候、▲故星亭氏三週年追悼會、池上本門寺に於て、▲巣鴨病院慈善園遊會▲本所區ペスト患者本日午后死亡、又々鼠病東京に還來致候、●本所はペストの本所に御座候、内藤恥叟翁逝く、

八日　●外電、北京發露兵西藏に入る▲露國陸相クロパトキン本日烏港出發の由▲獨墺兩帝の會見維也納に於て有之由、▲東宮同妃兩殿下舞子御發名古屋離宮に入らせられ候▲威海衞丸北海に於て坐礁乘組員無事▲本日東京午報誤り三十分早く鳴り候、稀有の事、▲横濱に於て又々ペスト新患者發生、

九日　▲東宮同妃兩殿下名古屋御發、靜岡御一泊、●外電、北米森林大火今猶止まず候由米國の火事は流行に大きく候、▲濠洲シドニーに於て日本水兵英兵の觀兵式に參列して喝采を博し候由▲片岡議長引留運動頻りに御座候▲本日東京市參事會はペスト豫防費十万圓支出の件を議決致候、

十日　▲皇后陛下慈惠醫院行啓、▲東宮殿下午後三時十五分新橋御着▲トランスバールの立法會議は有色人種及び外國人は市政に參與するを得ずと決し候由、▲露國陸相クロパトキン下の關着、▲東京市長選擧交涉委員會、

十一日　▲片岡衆議院議長は諸方の勸告により議長留任を決心致候、並びに政友會脫會告知狀を公に致候、●外電、韓國龍巖浦よりの報によれば、露國人は同地を引き上ぐるの得策なるを知りて近來平穩に致居候由、▲露國陸相クロパトキン神戶着、▲第十八議會の協贊を經たる追加豫算は本日公布相成候、不義の兒が生れたので御座候、▲大阪の人力車夫不穩の擧動を致居候、巡航濱船（壹錢蒸滊に似たるもの）反對運動の由

十二日　●外電、セルヴイア王及び王妃は弑せられ候由、▲英國財政法案は否決致され候、▲陸國陸相クロパトキン入京、▲本日入梅各地氣候七十五度內外、▲本日の入電によれば米國の棉花相場は俄然二圓高と相成候由埃及棉花も同じく孟買棉花も二十五錢高を報じ候、▲電車鐵道はいよ〳〵現行賃率壹錢五厘を二錢に引き上げる事に定め候由

十三日　▲セルビヤ王妃の兄弟姊妹二名及び首相、大臣等深夜王宮に於て銃殺せられ、目下軍隊は王宮を圍み居候、バルカン半島の火の手は一層高く相成可申存候、▲露國陸相クロパトキン參內、▲本日大阪祝日（オカサカデー）、▲大阪人力車夫の騷動稍鎭靜致候、▲市敎育會評議員會、▲慈善音樂會、上野音樂學校にて、▲ペスト有菌鼠本所區に續々現はれ候

十四日　●外電、伊太利內閣の總辭職、▲露國陸相クロパトキン來朝に付本日午前青山練兵場に於て臨時觀兵式擧行せられ候、▲東京市長の候補續々現はれ候、田口卯吉氏、榎本子等▲國民英學校友會發會、

十五日　●外電、駐清英公使サトウ氏は歸國中、皇帝に謁見し、劍橋大學よりトクトル、オブ、ローの學位を授けられ候由、▲セルヴイアは其後靜穩に赴き候由、▲露陸相と何か滿洲問題に就き協商ありし樣に噂するものも有之候、▲神田中學校閉鎖を命ぜられ候十二月三十一日に設備を完全にせざれば處分を受くべきの由、▲岩谷天狗煙草は敗訴にて商標無効に相成候由

委員　巖本善治　齋藤宇一郎　中村千代松

講師　青柳有美　櫻井鷗村　長谷川新一郎　マケレッブ　川井運吉

夏期無休暇

# 自由英學

英文添削　十回分金壹圓

質問應答　十回分金壹圓

◎聽講料毎月壹圓◎
實用會話同五十錢

自毎夜五時至八時半

本會新案の考案により丁寧奇抜に高等英文學及實用英學會話を教授す

教科書

英譯ウエルテル。沙翁ロナオヒヂユリエ。英文武士道。スケッチユブック。クリスマスカロル。エヴアンヂエリン。各種讀本壹貳參。會話和文英譯其他、其他、

東京神田一ツ橋通
帝國教育會内

自由英學會

---

創業六周年、教界唯一の日刊新聞

# 中外日報

卒直に公平に主として東西本願寺を中心として内外宗教界の出來事を報道論評す

紙代郵税共

一ケ月三十二錢　半ケ年一圓九十錢　一ケ年三圓六十錢

京都東三本木丸太町上

中外日報